

SUSTAINABILITY

サステナビリティ

私たちは創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という精神を受け継ぎ、社会課題の解決に取り組んでいます。多様なステークホルダーとの対話や連携を通じて、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的成長の実現をめざします。



トップメッセージ



サステナビリティ
マネジメント



サステナビリティ活動



食と健康への貢献

- ・ 健康寿命延伸への貢献
- ・ 子どもの心と体の健康支援



地球環境への貢献

- ・ 食品ロスの削減・有効活用
- ・ プラスチックの削減・再利用
- ・ 水資源の持続的利用
- ・ 気候変動への対応



持続可能な調達

- ・ 持続可能な調達の推進



人権の尊重

- ・ 人権尊重への取り組み

ガバナンス



安全・安心





2022/05/31 食育 社会
 「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」がついにオープン!
 こんにちは。 深谷ベジタブルコミュニケーション株式...



2022/05/30 社会
 5月の渋谷清掃活動(しぶピカ大作戦)と「ごみゼロの日」
 こんにちは。 キューピー株式会社 広報・グループコ...



2022/05/25 社会 社会
 私のボランティア活動
 こんにちは。 キューピー株式会社 品質保証本部の高...



2022/05/20 食育
 キューピーと学校給食
 こんにちは。 キューピー株式会社 フードサービス本...

更新情報

[一覧を見る](#)

2022/05/30

> サステナビリティサイトを更新しました

2022/05/30

> 食育活動「食育活動の歩み」を公開しました

2022/01/11

> サステナビリティ基本方針を策定し、サステナビリティ目標を見直しました

2022/01/11

> TCFD報告書を公開しました

2021/11/29

> 食育活動「活動の全体像」を公開しました

ニュースリリース

[一覧を見る](#)

2022/05/30 No.49

> 「サステナビリティサイト」を更新 サステナビリティ基本方針に沿って取り組みを推進

2022/05/25 No.48

> キューピーみらいたまご財団 第10回「地域の居場所づくりサミット」オンラインで開催

2022/04/19 No.39

> キューピーみらいたまご財団 2022年度助成証書授与式開催

2022/04/15 No.37

> 第6回食育活動表彰「農林水産大臣賞」を受賞

2022/04/14 No.36

> 「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定されました

サステナビリティ情報



開示方針

キューピーグループのサステナビリティ情報の開示方針や対象期間・対象組織などについてご紹介します。



GRIスタンダード対照表

当サイトの情報と、GRIガイドラインとの対照表をご覧ください。



各種報告書

各種報告書はこちらからダウンロードできます。



ESGデータ集

投資家の皆さまに向けてキューピーグループのESGデータを一覧にまとめました。



社外からの 評価

社外からの評価

キューピーグループの社外からいただいた評価についてご紹介します。



各種方針

各種方針

キューピーグループのサステナビリティに関する方針をまとめました。



社会・環境 活動の 歴史

社会・環境活動の歴史

キューピーグループの社会・環境活動の歴史をご紹介します。



キューピーグループ オフィシャル ブログ

キューピーグループ オフィシャルブログ

従業員より、社会・環境への取り組みを発信しています。



グループ各社の サステナビリティ 活動

グループ各社のサステナビリティ活動

キューピーグループ各社のサステナビリティに向けた取り組みをご紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

食と健康への貢献 +

地球環境への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

トップメッセージ

「愛は食卓にある。」への想いを大切に、
持続的な成長を実現する体質への
転換を図ります

キューピー株式会社 代表取締役 社長執行役員

高宮 満



キューピーグループは、自然の恵みに感謝し、限りある資源を大切にするという想いで、環境活動を進めてきました。地球規模の問題に対して企業の責任に向き合い、事業活動を通じて従業員一人ひとりが日々、行動することで、企業価値の向上に努めています。このような取り組みをより推進するために「キューピーグループ サステナビリティ基本方針」を策定しました。

2021-2024年度中期経営計画では、「持続的な成長を実現する体質への転換」をテーマに、社会・地球環境への取り組みを強化することを掲げています。国連の持続可能な開発目標(SDGs)を参考に重点課題を特定し、2030年までに達成する内容を指標化したサステナビリティ目標を策定しました。今後も継続的に見直しを行いながら、より高い到達点をめざして取り組んでいきます。

たとえば重点課題に掲げた「資源の有効活用・循環」では、これまで進めてきた卵殻の100%再資源化に加え、パッケージサラダの主要原料であるキャベツの芯や外葉など野菜の未利用部を肥料や飼料にして契約農家に提供するなどの取り組みを進めています。2021年にはパッケージサラダの国内全7工場すべてで野菜未利用部の廃棄ゼロを達成しました。このような未利用部の活用や野菜の食べ方の提案を積極的に進めることにより、世界的にユニークな「野菜活用メーカー」をめざします。

近年、社会や地球環境の急激な変化に伴い、私たちの生活と食を取り巻く環境において、さまざまな課題が顕在化しています。コーポレートメッセージ「愛は食卓にある。」に込めた想いを大切に、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって課題解決に取り組みます。そして、商品の設計、調達から生産、販売、消費までのバリューチェーン全体を通じて人と環境を思いやり、笑顔の溢れる未来を創るキューピーグループにしていきます。

> 重点課題と推進体制

> 食品ロスの削減・有効活用

キューピー株式会社 代表取締役 社長執行役員

高宮 満

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント -
- 重点課題と推進体制 >
- ステークホルダーとの対話 >
- 社外からの評価 >
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

サステナビリティマネジメント

キューピーグループは、社会の持続可能性向上への貢献と企業の持続的な成長のために、「サステナビリティの基本方針」を定めています。

特定した「サステナビリティに向けての重点課題」を、サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を中心に各テーマの分科会やプロジェクトと連携して取り組んでいます。

また、私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様との対話を積極的に行っていきます。私たちは、さまざまなステークホルダーの皆様とともに社会課題の解決に協働して取り組み、「キューピーグループ 2030ビジョン」そしてキューピーグループの理念「めざす姿」の実現に向け推進していきます。



重点課題と推進体制

キューピーグループのサステナビリティ基本方針や取り組む重点課題、サステナビリティ目標達成に向けた推進体制を示します。



ステークホルダーとの対話

ステークホルダーの皆様への姿勢と主な対話の手段についてご紹介します。



社外からの評価

キューピーグループの社外からの評価についてご紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント -
- 重点課題と推進体制 >**
- ステークホルダーとの対話 >
- 社外からの評価 >
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

重点課題と推進体制

- キューピーグループ サステナビリティ基本方針 ● サステナビリティ推進体制 ●
- サステナビリティに向けての重点課題 ● 重点課題特定のプロセス ●
- サステナビリティ目標 ～2030ビジョンの達成をめざして～ ● 従業員への浸透 ●

キューピーグループ サステナビリティ基本方針

「愛は食卓にある。」への想いを大切に、
 さまざまな課題に対して「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって取り組み、
 解決をめざします。そして商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までの
 バリューチェーン全体を通じて人と環境をおもいやり、
 笑顔の溢れる未来を創ります。

食と健康への貢献

- ・ サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして、栄養・健康価値を追究し、広く普及することで、世界の人々の健康寿命延伸に貢献します。
- ・ 未来を創る子どもたちの心と体の健康を、食を通じて応援します。

資源の有効活用・循環

- ・ 卵のすべてを有効に活用する世界で唯一のメーカーとして、技術を磨き、価値を創造します。
- ・ 食べ方提案と未利用部の活用により、世界的にユニークな「野菜活用メーカー」をめざします。
- ・ 需要情報と生産・輸配送情報のマッチング技術を深耕し、食品ロスを削減します。
- ・ プラスチックの使用削減を進め、環境への影響を低減します。

気候変動への対応

- ・ 原料調達から消費まで、バリューチェーン全体のCO2排出量削減をめざします。

持続可能な調達

- ・ 安全性はもとより、環境や人権への影響に配慮した安定調達をお取引先と協働して進めます。

人権の尊重

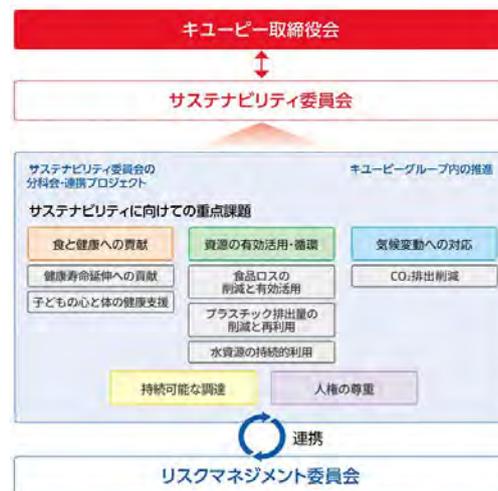
- ・ 従業員のダイバーシティ&インクルージョンを推進するとともに、ビジネスに関わるすべての人の人権を守ります。

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、担当取締役を委員長とし、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定および取り組みを推進しており、年2回委員会を推進しています。(2021年度2回開催)

重点課題に対する目標・取り組みについて、分科会や連携するプロジェクトで検討し、グループ内への浸透と定着を図っています。

また、リスクマネジメント委員会とも連携して、環境変化に対応し、経営基盤の強化を進めていきます。



サステナビリティに向けての重点課題

キュービーグループでは、「キュービーグループ 2030ビジョン」の実現やSDGs[※]への貢献など、2030年からバックキャスト思考で検討し、以下のサステナビリティに向けての重要課題を特定しました。

- ・ 食と健康への貢献
- ・ 資源の有効活用・循環
- ・ 気候変動への対応
- ・ 持続可能な調達
- ・ 人権の尊重

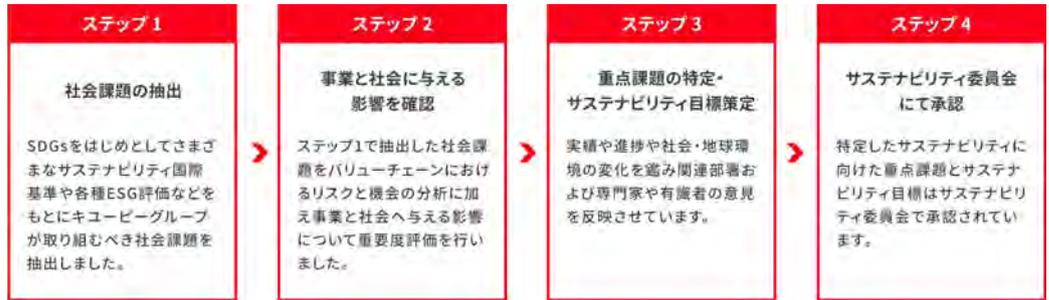
サステナビリティに向けての重点課題は、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的な成長をめざす上で、事業と社会の双方にとって重要と考えています。社会・地球環境変化に応じて、定期的に重点課題の見直しを行います。



※ 持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、2015年に国連で採択された国際社会共通の目標です。持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべき17の目標で構成されています。

重点課題特定のプロセス



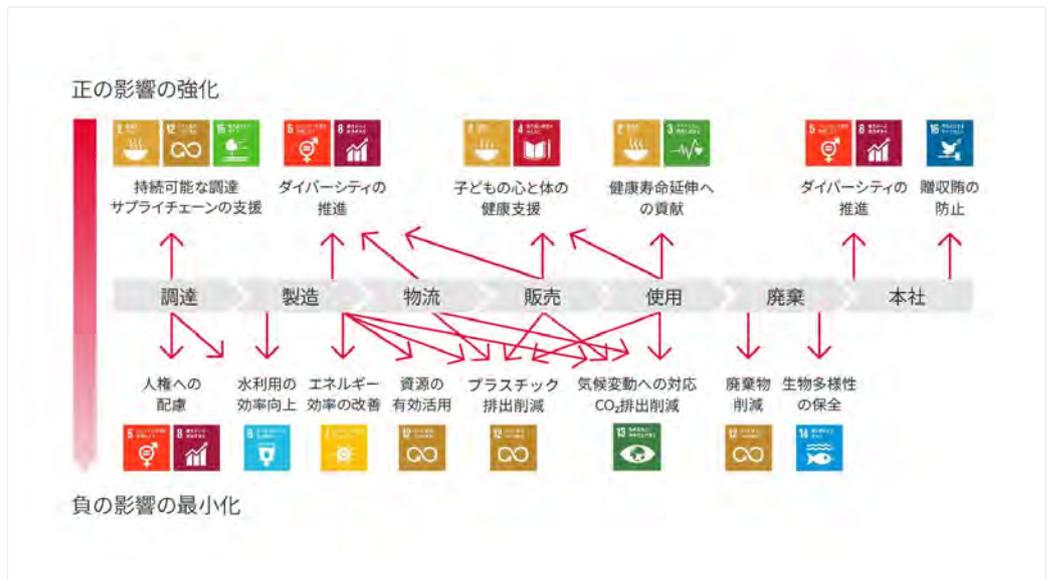
キユーピーグループが取り組むべき社会課題の抽出

キユーピーグループが事業を通じて取り組むべき社会課題は、持続可能な開発目標 (SDGs)、サステナビリティの国際基準GRI、ISO26000、SASBおよび各種ESG評価などを参考に抽出しています。

事業と社会に与える影響

バリューチェーン全体およびステークホルダーを網羅的に勘案し、バリューチェーンにおけるリスクと機会の分析に加え、社会課題ごとにステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさを評価しサステナビリティに向けての重点課題を特定しました。

バリューチェーンにおけるリスクと機会



サステナビリティに向けての重点課題の特定



サステナビリティ目標 ～2030ビジョンの達成をめざして～

サステナビリティ目標は、サステナビリティに向けた重点課題にひも付け、キューピーグループとして取り組むテーマを指標化したものです。

2021年度の実績や進捗、社会・地球環境の変化を鑑み、必要な施策を追加し、より高い到達レベルをめざし目標の見直しを行いました。

従業員一人ひとりが、サステナビリティの意識と視点を持ち、キューピーグループの理念と規範の践により、目標達成に向けて取り組んでいきます。

サステナビリティ目標と実績

重点課題	取り組みテーマ	指標	2021年度実績	2024年度目標	2030年度目標	SDGsとの関連付け
食と健康への貢献	健康寿命 ＞ 延伸への貢献	一人ひとりの食のパートナーとして ・ 1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献 ・ たんぱく質の摂取に貢献するために卵の消費量アップを推進				2 質の良い食生活 3 健康と長寿 4 質の高い教育をみんなに
	子どもの心と ＞ 体の健康支援	私たちの活動で創る 子どもの笑顔の数 (2019年度からの累計)	22.1万人	40万人以上	100万人以上	
資源の有効活用・循環	食品ロスの ＞ 削減・有効活用	食品残さ削減率 (2015年度比)	39.0%	50%以上	65%以上	12 持続可能な消費と生産
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜: キャベツなど (当年)	62.1%	70%以上	90%以上	
		商品廃棄量削減率 (2015年度比)	61.3%	60%以上	70%以上	

	プラスチックの 削減・再利用	プラスチック 排出量削減率 (2018年度比)	5.3%	8% 以上	30% 以上	
	水資源の 持続的利用	水使用量 (原単位) 削減率 (2020年度比)	2.1%	3% 以上	10% 以上	  
気候変動 への対応	気候変動への 対応	CO2排出量 削減率 (2013年度比)	24.0%	30% 以上	50% 以上	 
持続可能な 調達	持続可能な 調達の推進	お取引先との協働によって 「持続可能な調達のための基本方針」を推進				 
人権の 尊重	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために 「キューピーグループ 人権方針」を推進				 

※2021年度の状況を鑑み、内容を一部見直ししています。また、「食品残さ削減率」の指標には「野菜未利用部有効利用率」も含まれています。

※「食品残さ削減率」「水使用量(原単位)削減率」は、新たに2022年度から設けた指標です。

※サステナビリティ目標は国内の数値となっています。

従業員への浸透

社会の持続可能性と企業の持続的成長には、従業員一人ひとりが、方針を理解し共感することが重要と考えています。

社内広報

統合報告書などを従業員教育へ活用しています。社内広報ではキューピーグループ社内報「iQP」、メールマガジン形式によるサステナビリティ通信「NewS」でのサステナビリティ情報を発信しています。



サステナビリティ通信「NewS」

キューピーグループ オフィシャルブログ

2007年3月にスタートした社会・環境への取り組みを社外発信する「キューピーグループ オフィシャルブログ」では、実際に取り組むグループ従業員が記事を執筆することで、従業員一人ひとりがサステナビリティへ共感することをめざしています。

＜[キューピーグループ オフィシャルブログ](#)

サステナビリティ

ステークホルダーとの対話

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント -
- 重点課題と推進体制 >
- ステークホルダーとの対話 >
- 社外からの評価 >
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

キューピーグループは、私たちの活動を支えていただいているお客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様との対話において、グループ理念・規範の考え方を実践していきます。

※2021.11.30時点の実績

	ステークホルダーへの姿勢	主な対話の手段(2021年度実績)
> お客様	行動規範のもと、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えしていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様相談室(お客様の声 28,471件/年) ・消費者志向自主宣言 ・コミュニティサイト「キューピーコミュニティおはなしダイニング」(会員数17,639人) ・コミュニティサイト「キューピーマヨネーズファンクラブ」(会員数112,565人)
> 従業員	倫理規範のもと、人権を尊重し差別やハラスメント行為を行わず、また行動規範のもと、従業員一人ひとりの個性や成長する意欲を尊重するダイバーシティを推進していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員意識調査(2年に1回) ・労使委員会による対話 ・ダイバーシティ・ディスカッション ・キャリア自己申告(1回/年) ・上司と部下の面談を通じた人材育成 ・ハラスメントをテーマにしたチームディスカッション
> お取引先	倫理規範のもと、公正・自由な競争を行うとともに、透明で健全な関係を築き、相互の発展につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> ・営業活動を通じたお取引先とのコミュニケーション ・原材料調達先への定期・不定期訪問および現場交流会(87社/年) ※新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み訪問を控え、WEBでの打合せを実施 ・生産農家・団体との取り組み
> 株主・投資家	倫理規範のもと、透明で健全な関係を築いていくとともに、当社グループをより理解していただけるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・定時株主総会(1回/年) ※事前にご意見をいただける工夫 ・アナリスト向け決算説明会(2回/年)
> 地域社会	行動規範のもと、食育を中心とした社会貢献活動を積極的に行うことで、社会・地域とのより良い共生を図っていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキッチン(工場見学)とマヨテラスの見学(24,857人/年) ※オンライン含む ・マヨネーズ教室(食育活動)(1,972人/年)

	<ul style="list-style-type: none"> ※ オンライン含む ・ 食をテーマにした講演会 (58回／年) ※ オンライン含む ・ 介護に関するイベント (99回／年) ※ ケアマネオンライン含む ・ 国内外各エリアにおける地域とのコミュニケーション ・ マッチングギフト制度「QPeace」支援先団体の活動報告会 (3回／年)
--	--



サステナビリティ
材談

ビジョンが創り出す持続可能性

創始者の中島董一郎が志した「食を通じて社会に貢献する」という想いは、従業員の志の礎となっており、社会課題に向き合う取り組みの原動力です。キュービーグループは、2022年1月にサステナビリティ基本方針を策定するとともに、サステナビリティ目標を見直し、さらにステージを上げて社会・地球環境への取り組みを進めています。今回、サステナビリティ領域を専門とする株式会社レスポンスアビリティの代表取締役 足立直樹氏をお迎えし、キュービーグループの現在および今後の取り組みについて対談しました。

サステナビリティを取り巻く動向と キュービーグループの取り組み姿勢

高宮 サステナビリティへの取り組みの重要性は加速度的に増えています。このテーマは、地球環境を維持するために特別な活動をするということではなく、事業活動と重ね合わせて継続的に発展させていくことだと捉えています。

足立 そうですね。サステナビリティは企業活動の外側にあるものではなく、また環境だけの取り組みでもありません。これまでは、企業活動を行う際に環境や社会に副作用を与えないことが企業の社会的責任とされてきましたが、「環境・社会課題を解決することが企業の競争力向上につながる」と考え方が変わってきています。2022年1月に世界経済フォーラムが公表した「グローバルリスク報告書」では、ビジネスや生活に大きな影響を与えるリスクの筆頭に気候変動関連の項目が挙げられ、ほかにも生物多様性や水などの環境課題、パンデミックやデータセキュリティ、人や国の不平等といった社会課題が、企業経営を阻害するリスク要因とされています。

高宮 気候変動は農作物へのダメージや原材料の高騰という形で当社グループにも大きく影響するものです。このような、どの企業でも取り組まなければならない課題の解決を「規定演技」、企業の独自性を打ち出しながら課題を解決することを「自由演技」と捉えています。この「自由演技」については、当社グループでは「食と健康への貢献」を重点課題として価値創出をめざしています。「規定演技」の部分も含めたサステナビリティに対する取り組みに、私たち一人ひとりが当事者意識を持って向き合っていきます。そのためには、この取り組みを物語のようなわかりやすさで社内外に発信し、私たちの活動への理解を深めていただき、共感を得ることが重要です。

足立 ESG投資家は、企業が10年先、20年先の社会と環境の変化を予測し、事業継続のために課題解決に取り組む「守りのサステナビリティ」と、新しい価値を創出し、成長機会につなげていく「攻めのサステナビリティ」の両方に注目しています。中長期の経営戦略についても、直近の業績の延長線上で

数値目標を語るのではなく、攻めと守りのサステナビリティ戦略をからめて成長ストーリーとして発信していく方が、投資家への説得力も増します。

物語として語る社会課題への貢献

高宮 当社グループは、マヨネーズを通じて日本人の体格向上に貢献したいという想いで事業を開始し、以来すべての事業活動は「食と健康への貢献」に紐づいています。それを受け継ぎながら、今ではサラダとタマゴを中心においしさはもちろん栄養バランスを考慮した提案をすることで、長寿大国 日本が世界に先がけて直面する健康寿命の延伸という大きな社会課題に向き合っています。ベビーフードから介護食まで幅広い年代の食生活にアプローチする食品メーカーとして、子どもの健やかな発育やメタボリックシンドローム、フレイルなどの健康課題の解決を図り、健康寿命と平均寿命の差の縮小につなげていきます。こうした取り組みは、いずれ同じ課題に直面する海外においても活用できると考えています。

足立 そうですね。SDGsの目標2は飢餓撲滅と栄養ある食料の供給をめざしていますが、世界にはカロリー不足だけでなく、カロリー過多や栄養バランスの偏りという課題もあります。これらを日々の「食」を通じて御社が解決することは大きな貢献です。その一方で、昨年の国連食料システムサミットでは、水の使用、農地開拓と森林破壊、肉の消費と生産の拡大といった点で農業を含めた食料システムの環境負荷の大きさが問題視されており、食品産業そのものの改革が求められています。

高宮 当社グループもそれは認識しており、例えば原料の購買においては、大豆油・パーム油などの生産地が抱える環境課題や人権問題、アニマルウェルフェア（動物福祉）などに、しっかりと向き合う考えです。2021年に発売した卵代替食品も、想像以上に反響がありました。

足立 世界的に代替たんぱく市場は今後急成長が予測されています。代替たんぱくが解決しうる課題は幅広いので、卵代替食品の開発は素晴らしいと思います。加えて、キャベツの芯



足立 直樹 氏

株式会社レスポンスアビリティ
代表取締役



高宮 満

キュービー株式会社
代表取締役 社長執行役員

や外葉などの未利用部を100%有効活用[※]している取り組みはもっと声を大にしてアピールしていただきたいですね。資源循環に取り組む企業は増えてきましたが、100%有効活用の達成は容易ではありません。この成果をお客様にもっと認知してもらうことで、キュービーグループの商品を選ぶことの意義が伝わると思います。

※パッケージサラダ原料用のキャベツは、2021年度に100%有効活用を達成

高宮 当社グループは卵・キャベツの取扱量が日本一です。卵については昭和30年代から、卵殻や卵殻膜を廃棄せずに循環させる取り組みを進め、キャベツについても、芯や外葉などの未利用部の有効活用に挑んできました。こうした資源循環の物語は、社内にも十分伝えきれていないところがあるので、自信を持って社内外に発信していきたいですね。

足立 一方で、私が懸念しているのは卵の生産方法です。欧州ではケージ飼育の卵を法律で禁止する国も出てきており、グローバルなホテルやレストランチェーンではそうした卵を原料とする商品の購入を2025年までに中止する動きも出ています。

高宮 私たちは、そのような社会要請に応えようとしている養鶏に関わる皆様と協力しながら、取り組みの輪を広げていこうとしています。企業として、未来への投資も含め、様々な関係者と協力しながら社会課題の解決を図っていきます。

経営理念やビジョンをベースにした サステナビリティ基本方針

高宮 サステナビリティの取り組みを進めていくうえでベースとなるのが当社グループの理念や2030ビジョンです。2030ビジョンでは「子どもの笑顔のサポーター」になることを掲げていますが、これには直接的な子どもへの支援ということだけでなく、未来を創る子どもたちにより良い地球環境を残したいという想いも込めています。

足立 キュービーグループの理念やビジョンはサステナビリティとの親和性が高く、私もとても共感を覚えます。特に、「子どもの笑顔のために」という考え方には賛同してくださる方も

多いと思います。サステナビリティ経営を推進するうえで重要となるのがエンゲージメントです。物語を共有し、一人ひとりが当事者意識を持つことで、おのずといろいろな提案が出てくると思います。その時に、時間軸として忘れてならないのは、地球環境は待たなしの状況にあるという現実です。2030年までに世界中で温室効果ガスの排出量を半分に抑えないと、その先に何をしても間に合わないとの物理学者の予測もあります。あらゆる意思決定の場面において、「子どもたちの未来にとって最善策は何か」という視点で判断すれば、正しい選択につながると思います。

高宮 未来の子どもを笑顔にするために、地球環境が取り返しのつかない状態にならないよう、危機感を共有して取り組みを加速させていきます。サステナビリティ基本方針には人権への対応も含めました。大豆油やパーム油、胡麻などの調達先に、森林破壊や児童労働などの問題がないことを確認していくことも約束します。

足立 EUではこれまでは倫理感だったものが法規制へと進んできていますから、企業自らがサステナブルな調達であることを証明できないと、ビジネスができなくなります。他社に先んじてサステナブル調達に取り組み、産地と一緒に問題解決に努めれば、競争力にもなります。

高宮 まさに、サステナビリティの取り組みの重要性が具体性を帯びて受け止められる部分ですね。あらためて、2022年1月に策定したサステナビリティ基本方針と合わせて、その取り組みの意義を従業員に繰り返し、わかりやすく伝えていかなければならないと感じています。

足立 「良い商品」という言葉の「良い」が意味する内容が深化していますからね。味や品質はもちろん、「食と健康」をサポートする強い商品ラインアップを持つキュービーグループが、動物福祉や労働環境、地球環境などにも配慮した「良い」を追求していくことによって、これから大変革期を迎える食品業界をリードし、さらに成長していくことを期待しています。

高宮 今日は貴重なお話をありがとうございました。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント -
- 重点課題と推進体制 >
- ステークホルダーとの
対話 >
- 社外からの評価 >
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

社外からの評価

ESG・SRIインデックスへの選定  認定  表彰 

ESG・SRIインデックスへの選定

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。キューピーは、第三者調査の結果、2022年からFTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄に選定されました。

[> FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexウェブページ](#) 



MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

MSCIはESGリサーチと指数開発の最大手です。この指数は、日本株の時価総額上位700銘柄の中から、業種内においてESG評価に優れた企業を選別して構築されています。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用対象として採用されており、キューピーは2017年の初回より連続して構成銘柄に選定されています。

※ キューピー株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるキューピー株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。



S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が選定したESG投資のための株式指数「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に採用されています。環境評価のパイオニア的存在であるTrucostによる炭素排出量データをもとに、世界最大級の独立系指数会社であるS&Pダウ・ジョーンズ・インデックスが指数を構築しています。同業種内で炭素効率性が高い企業、温室効果ガス排出に関する情報開示を行なっている企業の投資比重を高めた指数です。

キューピーは2020年より連続して構成銘柄に選定されています。



SOMPOサステナビリティ インデックス

SOMPOアセットマネジメント株式会社が、独自の評価に基づきESGの取り組みに優れた約300銘柄を採用し、毎年見直しを行うインデックスです。当インデックスに追随する「サステナブル運用」は、複数の年金基金・機関投資家が採用しています。キューピーは2019年より連続して選定されています。



認定

プラチナくるみん*認定

キューピーは「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を通算7回受けています。2018年5月にプラチナくるみん*の認定を受けました。

※ プラチナくるみんとは
2015年4月1日より、くるみん認定を既に受け、相当程度両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取り組みを行っている企業を評価しつつ、継続的な取り組みを促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。



「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得

キューピーは、「健康な食事・食環境」コンソーシアムが進める第1回「健康な食事・食環境」認証制度の給食部門に応募し、グループオフィス「仙川キューポート」内の社員食堂での取り組みが、最高ランクの「3つ星」認証を受けました。

> [「仙川キューポート」の社員食堂が第1回「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得しました](#)



健康経営優良法人

キューピーは、2022年3月9日に優良な健康経営を実践している法人として健康経営優良法人2022(大規模法人部門)の認定を受けました。

※ 健康経営優良法人認定制度とは
地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度。
認定有効期間は、2022年3月9日より2023年3月31日です。

> [健康経営優良法人2022の認定を受けました](#)



表彰

知的財産

- ＞ 令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰

AI原料検査装置

- ＞ 第2回日本オープンイノベーション大賞 農林水産大臣賞
- ＞ 「IT JapanAward 2019」準グランプリ
- ＞ 「ディープラーニングビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞

野菜未利用部の有効活用

- ＞ 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 内閣総理大臣賞
- ＞ 第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞

卵殻の有効活用

- ＞ 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 農林水産大臣賞
- ＞ 第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞
- ＞ サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞 [📄](#)

ロジスティクス

- ＞ 平成30年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰
- ＞ サプライチェーンイノベーション大賞2019
- ＞ 「スムーズBiz推進大賞」大賞
- ＞ サプライチェーンイノベーション大賞2021

容器包装

- ＞ 世界包装機構「ワールドスターコンテスト2019」フード部門 ワールドスター賞
- ＞ 第43回木下賞「新規創出部門」
- ＞ UCDAアワード2020 特別賞 [📄](#)

その他

- ＞ 「キューピー 3分クッキング」2019年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞
- ＞ 第3回「SUSTAINA ESG AWARDS 2020」総合部門ブロンズクラス [📄](#)
- ＞ 第6回食育活動表彰「農林水産大臣賞」

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献
- 健康寿命延伸への貢献 >
- 子どもの心と体の健康支援 >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 社会貢献活動 >
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

食と健康への貢献

キューピーグループは、人々の生活になくはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現に貢献していきたいと考えています。

サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして、国内外のあらゆるお客様の食と健康に配慮した商品開発を行い、食を中心としたさまざまな取り組みを通じて子どもの心と体の健康を応援していきます。

また、より良い社会の実現のため「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、社会貢献活動に取り組んでいます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
食と健康への貢献	健康寿命延伸への貢献	一人ひとりの食のパートナーとして ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献 ・たんぱく質の摂取に貢献するために卵の消費量アップを推進	
	子どもの心と体の健康支援	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数(2019年度からの累計)	100万人以上



健康寿命延伸への貢献

それぞれの世代の食と健康に貢献するための取り組みや、商品を通して特定の条件をもったお客様への配慮を行っています。



子どもの心と体の健康支援

食を中心としたさまざまな活動により未来を創る子どもたちに栄養面だけでなく食の大切さ楽しさを伝えています。



ユニバーサルデザインへの取り組み

できるだけ多くの方にお使いいただけるよう、ユニバーサルデザインの取り組みを行っています。



社会貢献活動

地域社会・国際社会の一員として、地域に根付いた継続的な地域貢献活動の実施や、歌やダンスなどの文化を通じた活動を応援しています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献
 - 健康寿命延伸への貢献 >
 - 子どもの心と体の健康支援 >
 - ユニバーサルデザインへの取り組み >
 - 社会貢献活動 >
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

健康寿命延伸への貢献

- 健康寿命延伸への取り組み ●
- 健康に配慮した商品 ●
- 食物アレルギーへの取り組み ●
- 医療への取り組み ●
- 未病(がん予防)への取り組み ●
- 海外における健康への取り組み ●

健康寿命延伸への取り組み

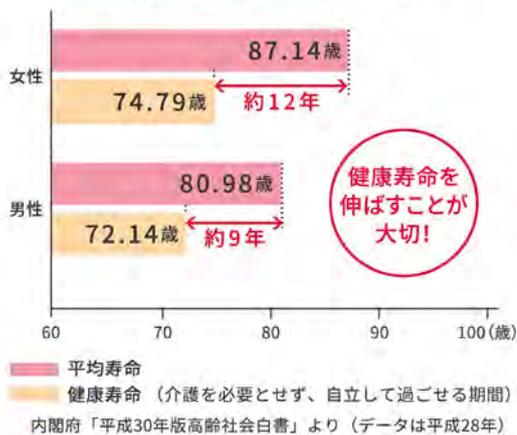
健康長寿のカギとなるフレイル予防に向けて、東京大学高齢社会総合研究機構により栄養・運動・社会参加の3つの柱が提唱されています。しかし、これは決して高齢者だけではなく全世代に共通する原点です。3つの柱は、1つだけではなく、3つすべての柱を自分の生活サイクルにうまく組み込むことが大切です。その中で、キユーピーグループは特に「栄養」に関して、サラダとタマゴでおいしくバランスの良い食生活をサポートすることを中心に健康寿命の延伸へ貢献していきます。

キユーピーグループはサラダとタマゴで一人ひとりの健康を応援します



東京大学高齢社会総合研究機構
教授 飯島勝矢 提唱

平均寿命と健康寿命のギャップ



運動と食の両面から健康を応援!

健康的な生活を送るためには「栄養」「運動」「社会参加」の3つの要素が大切という考えを共有するセントラルスポーツ株式会社と協働しています。手軽で効果的にたんぱく質を摂取したいというスポーツジム利用者やインストラクターからの要望を受けて、ホームページ等で食に関する知識クイズを企画したり、利用者へメニューや健康情報の提供を行っています。



キユーピーサステナビリティサイト2022

噛むことの大切さを啓発

近年、噛む回数の少なくて済むやわらかい食べ物が増えています。やわらかい食べ物は、「噛む力」の低下を招き、その低下が身体に及ぼす影響^{*}は多岐にわたると言われています。“噛むことの大切さ”の啓発を目的に株式会社ロッテと和洋女子大学とで共同研究に取り組んでいます。キューピー独自の検証として、食品に含まれる水分量や食品への加熱処理が咀嚼回数に与える影響、咀嚼回数の多い食品群を明らかにしました。

^{*} 影響の一例として、咀嚼力が高いほど糖尿病の有病率が低いことが報告されています

Toru Y et al., Mastication and Risk for Diabetes in a Japanese Population: A Cross-Sectional Study. PLOS ONE(2013) Volume 8, Issue 6

[> 噛むことの大切さを啓発を目的にした共同研究](#)

食をテーマにした講演会

食についての正しい知識や、食の大切さと楽しさを伝えることは、私たちの重要な役割です。

健康で楽しい食生活に貢献したいと考え、「食」をテーマにした講演会に講師となる社員を派遣し、食生活と健康について正しい情報を提供しています。

プログラムは現在3種類あり、「野菜の魅力」をテーマにしたプログラムでは、野菜の栄養や理想的な摂取量などをDVDで観たり、毎日の生活で実践できる調理法を紹介したり、参加される皆さんに関心を持っていただけるような内容にしています。

参加した方からは、「1日350gの野菜摂取を意識して献立を考えます」「野菜の幅広い魅力、食卓での楽しみ方などを学ぶことができた」などの声も聞かれ、野菜の魅力が伝わっています。

[開催中の講演会プログラム](#)

介護に関するイベント

キューピーは1998年に日本で初めて市販介護食を発売しました。2005年には日本は世界で最も早く超高齢社会に突入し、ますます介護食の必要性は高まっています。

高齢者の食について理解を深めてもらい、ユニバーサルデザインフードについても知ってもらうために、介護の現場に関わる方々や学生へ勉強会を行っています。また、一般の方を対象としたイベントも開催しています。

たまごスター

社内認定制度「たまごスター」を2019年度よりスタートしました。

「タマゴのり」ディングカンパニー」をめざしてグループ全体で卵の魅力を語る従業員を増やすことが目的です。

三ツ星タマリエ検定取得(日本卵業協会)に加え、卵の知識を正しく伝えるための勉強会に参加することで認定されます。

全国約420人の「たまごスター」が卵の魅力を伝える活動を行っています。



たまごスター認定証

たまご白書

「たまご白書」は、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告で2017年より実施しています。卵について魅力を感じることや好きな卵料理などのアンケートから、卵の正しい知識の啓発や、卵料理の楽しみ方の提案へと生かしていきます。

[> 「たまご白書2021」を公表](#)



東京大学高齢社会総合研究機構との取り組み

東京大学高齢社会総合研究機構と連携し、志を共にする企業と、高齢者の食向上に向けて業界連携の場である食のコンソーシアムに参画しています。コンソーシアムでは、生涯健康のための3つ柱を基軸に、産学連携の新たなビジネスモデルを発展させ、フレイル予防に役立つさまざまな産業の発掘と健全な育成の展開をめざしています。



東京大学高齢社会総合研究機構

[食と健康への貢献](#)

長野県松本市・松本大学と共同調査の成果を発表

健康寿命は食生活との関わりが強く、生活習慣病予防としては塩分を控え、野菜を積極的に摂取することが必要といわれています。

そこで、健康的な食生活提案に向けて、長寿県であり、野菜の摂取量も多い長野県松本市とともに松本市民の食と健康に関する調査を実施しました。

調査解析のほか、サラダ(野菜)と卵の摂取が健康意識や運動機能、健康状態にどのように関係するのか松本大学と共同で研究を行い、成果を第9回世界健康首都会議(2019年10月)、第8回日本食育学会学術大会(2020年5月)、第67回日本栄養改善学会学術総会(2020年9月)にて発表しました。

今後は結果を論文にまとめ、健康的な食生活の提案を行っていきます。

[> 松本大学と共同研究の成果を発表](#)



被験者へ研究内容を説明する様子

東京都渋谷区・東京都健康長寿医療センターと共同調査を実施

これまでも包括連携協定(シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定、S-SAP)を締結している東京都渋谷区と協力して渋谷生まれのサラダ「#シブサラ」を提案するなど、野菜摂取促進を目的に活動を行ってきました。

今回、渋谷区の協力のもと渋谷区民の野菜の摂取量や、卵などのたんぱく質の摂取量の調査を東京都健康長寿医療センターと共同で実施します。研究解析から得られた結果を活用することで、健康的な食生活提案につなげます。

＜渋谷区と共同調査を実施

鶏卵の摂取による認知機能改善効果

生物系特定産業技術研究支援センター(以下生研支援センター)が公募する「令和3年度 イノベーション創出強化研究推進事業^{※1}」に応募し、「鶏卵市場拡大に向けた卵の認知機能改善研究と付加価値鶏卵の開発」のテーマで採択^{※2}されました。キューピーはこうした「応用研究ステージ」にて、鶏卵の認知機能改善効果を明らかにし、その機能性成分を高含有する付加価値卵の開発を五者共同で目指します^{※3}。鶏卵の摂取による「認知機能改善効果」を明らかにするとともに、改善に関与する成分を特定し、その効果をヒト試験で確認することを目的としています。



研究体制

※1 従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出していくイノベーションの創出を目的とした、「知」の集積と活用
の場による研究開発を重点的に推進する提案公募型の研究開発事業

※2 令和3年度「イノベーション創出強化研究推進事業」の公募における審査結果について：

＜生物系特定産業技術研究支援センター

※3 共同研究機関：国立大学法人東京大学、学校法人東京医科大学、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)

＜令和3年度 イノベーション創出強化研究推進事業に採択

健康に配慮した商品

キューピーグループは、野菜をサラダで食べるという新しい食文化の普及に努め、サラダメニューの拡がりとともに成長してきました。これからも一人ひとりの食のパートナーとして、さまざまな世代の食と健康に貢献するため研究・商品開発を行っていきます。

家庭用商品	厚生労働省許可 特定保健用食品	機能性表示食品			低カロリー・ 減塩対応食品	
	 キューピー ディフェ	 キューピー アマニ油 マヨネーズ	 キューピー フィッテ	 機能性 表示食品 ドレッシング	 ディアレ	 ジャネフ ノンオイル ドレッシング
	家庭用商品サイトへ					
業務用商品	業務用商品サイトへ					
病院・施設用商品	病院・施設用商品サイトへ					
ファインケミカル	ファインケミカルサイトへ					

食物アレルギーへの取り組み

近年、日本をはじめとする先進国では、食物アレルギーは増加の一途をたどっており、食品メーカーとして対応すべき重要な課題と考えています。キューピーでは、より多くの方に食事を楽しんでいただけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

原材料表示

キューピーでは、一目でわかりやすいように、商品に含まれるアレルギー(特定原材料7品目と表示が推奨されている20品目について)をまとめて表示しています。また育児食(ベビーフード)については、重篤度が高い、あるいは症例数が多い食物アレルギー7品目「卵・乳成分・小麦・えび・かに・そば・落花生」の使用の有無について、商品の正面に一目でわかるように表示しています。



アレルギーアイコン

食物アレルギー7品目不使用のベビーフード

小麦を使用していないしょうゆなど原材料から配慮し、食物アレルギー7品目を使用しない育児食(ベビーフード)の開発を行っています。

「卵不使用」のマヨネーズタイプ調味料

キューピーは2014年春、学校給食向けに卵アレルギーに配慮し、卵を使わないマヨネーズタイプ調味料(業務用)を発売しています。発売後の状況から家庭用のニーズが高まっていると判断し、2015年2月から「キューピー エッグケア(卵不使用)」を市販向けに発売しています。今後も社会に求められる商品づくりで食生活に貢献していきます。



HOBOTAMA

もっとタマゴのおいしさと魅力を届けたい、一人ひとりの食に寄り添っていききたい、子どもたちの明るい未来を支えていきたいという想いを具現化するため、プラントベースフードの開発に取り組み「HOBOTAMA」を商品化しました。アレルギーなどさまざまな理由で卵を食べられない方にも、寄り添うことができる商品です。



卵アレルギー研究

卵アレルギーは「食べて予防」へ

食物アレルギーは、じんましんや呼吸困難などを引き起こす病気で、特に卵アレルギーは乳幼児に多いといわれています。これまでアレルギーを引き起こす食品の摂取は避けた方がよいとされてきましたが、最近の研究で「離乳早期に少しずつ食べ始めるほうがアレルギー発症予防に有効[※]」であることがわかってきました。キューピーグループは、加熱などによりアレルギー性を低下させた卵を用いて、より安全な卵アレルギーの診断・治療および予防につながる研究を専門医療機関と共同で行っています。卵アレルギーの無い世界をめざして、これからも診断から治療・予防法確立までの支援を継続していきます。



加熱などによりアレルギー性を低下させた卵素材

※2016年、国立成育医療研究センターは、卵アレルギーの予防に関する研究成果を発表しました。アトピー性皮膚炎の乳児121人を対象に行った結果、皮膚の治療を十分に行った上で6カ月齢から微量の加熱した卵の粉末を食べた乳児の1歳時における卵アレルギー発症率は8%（食べなかった乳児は38%）となり、その有効性が示されました。この結果を受けて、2017年には日本小児アレルギー学会から「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」が出され、さらに2019年には厚生労働省の授乳・離乳の支援ガイドにおいて卵黄の摂取開始時期が早められました。

医療への取り組み

キューピーのファインケミカル事業は、卵由来のレシチンやリゾチーム、食酢の研究から生まれた酢酸菌酵

素など、さまざまな素材を食品・化粧品・医薬品などの分野へ提供しています。中でも30年以上にわたり研究を重ねてきたヒアルロン酸は、事業の中核となる素材であり、国内販売量No.1（2020年富士経済調べ）となっています。

キューピーは国内で唯一、鶏のトサカからの抽出と微生物発酵の2つの方法でヒアルロン酸を製造するメーカーです。分子量のコントロール技術や修飾技術を強みとし、顧客ニーズに合わせた技術支援を行ってきました。

キューピーのヒアルロン酸は、医療用点眼剤や関節機能改善剤の原料など、さまざまな医薬品に使用されています。これらの取り組みで得た製造・品質管理の技術を生かし、ヒアルロン酸を活用した医療機器の企画、開発を行うビジネスを展開しています。

消化管（胃・食道・大腸など）の粘膜層にとどまる早期がんなどの病変を内視鏡を用いて切除する際に使用される医療機器「内視鏡用粘膜下注入材」は、ヒアルロン酸ナトリウムが使われています。ヒアルロン酸の粘性により粘膜下層にとどまることで粘膜層と筋層を分け、その状態を維持することで病変部位の切除または剥離操作性向上をサポートします。キューピーは高品質の医療機器を提供することで、内視鏡による早期がん治療を通じ、健康寿命の延伸に貢献します。

他にも大腸検査を受けられる方や医療機関の皆様へ、検査前日にご使用いただける商品もご用意しています。

[> 検査食](#)



キューピー初の医療機器、内視鏡用粘膜下注入材「ケイスマート」

未病(がん予防)への取り組み

キューピーは「食」でがんを予防する研究を2013年から開始しました。2018年には将来の発がんリスクを判定する研究を始めています。

血液中に存在するマイクロRNAという成分を測定することで、将来の発がんリスクを判定し、マイクロRNAの発現量を改善する食提案で疾病予防の実現をめざしています。現在、これに向け、横浜国立大学、東京医科大学と共同で、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が運営する「人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業」のプロジェクトを進めています。

▶「将来の発がんリスク判定技術の実現」に向けて



海外における健康への取り組み

それぞれの国のライフスタイルや食の歴史・文化を理解し、お客様に寄り添いながら、キューピーグループが持つ「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」によって新しい食べ方や食シーンを提案し、世界中の人々の心と体の健康に貢献していきます。

各国の食文化に合わせた商品開発

キューピーグループは、日本のオリジナルマヨネーズの味を大切にしながら、海外拠点においても現地の食材や料理に合った調味料の開発に力を注いでいます。

中国ではフルーツサラダに好んで使われる甘いタイプのマヨネーズを開発し、広く使われるようになっていきます。また、中国北部で一般的に食べられている大拌菜(ダーバンツァイ)というサラダ向けにドレッシングを開発し、現在では中国各地で人気の商品になっています。

マレーシアとインドネシア、タイの3カ国でハラール認証を取得した商品を生産し、食の洋風化が進む現地および周辺諸国に向け販売を行っています。

このように現地のニーズに合わせた商品の開発を行い、世界中の人々においしさを提供しています。



左:甘いタイプのマヨネーズ
右:大拌菜ドレッシング



キューピー マヨネーズ ジャパニーズスタイル
(ハラール認証)

卵殻カルシウム配合の栄養強化食品

ベトナムでは、カルシウム不足による骨粗しょう症が増加し社会的課題となっています。キユーピーがハノイ国立栄養研究所と共同でベトナム人女性を対象に行った基礎研究の結果を受け、キユーピーベトナムでは、2017年12月から卵殻カルシウム(卵殻由来の炭酸カルシウム)を配合した栄養強化食品の販売を開始しました。米食が盛んなベトナムの食生活の中で、炊飯時に加えて炊くだけで手軽にカルシウムを摂取できる商品です。日本でも同様の商品「元気な骨」を販売しています。



左:分包タイプ(10ml×10包)
右:ボトルタイプ(1L)



中国における食と健康啓発活動

近年、中国で高まる健康志向を受け、中国の食と健康に貢献したいと考えています。上海市食品学会の「食・健康研究工作委員会」と協働し、日本で蓄積してきた学術情報を生かし企業や一般市民向けの健康普及活動を実践しています。また、店頭野菜売り場では、野菜の健康機能を啓発しつつサラダに注目していただく活動も開始しており、上海を起点として中国全土への拡大を進めています。



活動の様子(上海)

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ マネジメント +
- 食と健康への貢献
- 健康寿命延伸への貢献 >
- 子どもの心と体の健康支援 >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 社会貢献活動 >
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ オフィシャルブログ >
- グループ各社の サステナビリティ活動 >

子どもの心と体の健康支援

食育活動  フードバンク活動の支援  食を通じた「子どもの貧困対策」への支援 

ベルマーク運動  WFP「レッドカップキャンペーン」 

食育活動

キューピーグループは、「食の安全・安心」とともに「食の大切さと楽しさ」をお伝えする食育活動を実施しています。1961年に「オープンキッチン(工場見学)」を開始し、2002年からは小学校への出前授業「マヨネーズ教室」を全国で実施しています。その他、食に関する情報を提供しています。ホームページでも新たに「食生活アカデミー」などの食育コンテンツを設けたり、健康な心と体づくりを応援するDVDを学校や消費生活センターなどに無償で配布する「メディアライブラリー活動」なども行っています。



> 活動の全体像

- 食育活動 >
- 海外における食育活動 >

オープンキッチン

キューピーは「工場は家庭の台所の延長」と考えています。そのため、一般の方の工場見学を「オープンキッチン」と呼んでいます。商品がどのように生産されているのかをお客様の目で見ていただくことが、商品をご理解いただき、安心をお届けする最良の機会であると考えています。

オープンキッチン(工場見学)の歴史は古く、1961年に活動を開始。食品業界では生産現場を公開することが珍しかった当時、小学生の社会科見学を実施したことがきっかけです。2019年までは年間約7万人の見学者を受け入れていました。

現在は、オンラインでの見学を実施しています。オンライン見学では、遠方のお客様や外出できない方、海外在住の方にも見学していただくことができます。

> 詳しくはこちら

食育コンテンツ

キューピー公式サイトにて、さまざまな食育コンテンツを開設しています。子どもたちが主体的に学べたり、一緒に楽しめるコンテンツとして、役立つ情報を随時追加し、内容も充実させていきます。

- > 食生活アカデミー
- > 子どもと野菜をたのしもう 
- > みんなの食と健康応援 

フードバンク活動の支援

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が、年間約570万トン(令和元年度推計値:農林水産省)あるといわれています。その一方、十分な食事が摂れない人たちも数多く存在しています。キューピーは、2007年よりフードバンク活動^{※1}を行う「認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン」の支援を始め、今では全国のフードバンク15団体を通じて商品を寄贈しています。この活動は、グループ各社にも広がっています。また、キューピーみらいたまご財団を通じて、全国食支援活動協会の立ち上げたMOWLS^{※2}への商品寄贈など、新たな取り組みも始めました。

※1 フードバンク活動:食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、児童養護施設などの福祉施設や生活困窮者へ無償で提供する活動

※2 MOWLS:一般社団法人全国食支援活動協会が運営する全国のこども食堂等の「居場所」に集う子どもから高齢者等すべての人が食事を得られる環境をサポートするシステム

食を通じた「子どもの貧困対策」への支援

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が急速に進む一方、若い世代を中心とした食に関する知識・興味の低下、食を通じたコミュニケーションの希薄化、子どもの貧困など、食を取り巻く社会課題はますます深刻化しています。キューピーは「食を通じて社会に貢献する」という創業当初からの精神のもと、2017年4月に「一般財団法人キューピーみらいたまご財団[※]」を設立しました。想いを共有する団体の活動を広範に支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献に繋げていきたいと考えています。独自の食育活動とあわせ、長期的な視野をもって健やかで持続的な社会の実現をめざします。

※ キューピーみらいたまご財団は2019年4月1日から公益財団法人に移行しました。



公益財団法人 キューピーみらいたまご財団

食育活動および子ども食堂など食を通じた子どもの居場所づくりに取り組む団体への、寄付を中心とした助成活動を行っています。また、子ども食堂などの活動定着を目的に、展開事例紹介や団体同士のネットワークづくりにつながるセミナーを開催しております。

2017年～2021年助成団体数:350団体

2017年～2021年セミナー開催数:9回



▶ [公益財団法人 キューピーみらいたまご財団](#) 

ベルマーク運動

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いからはじまった運動です。

キューピーグループはこの願いに共感し、ベルマーク運動が開始された1960年より、公益財団法人ベルマーク教育助成財団に協賛し、運動に参加した学校などへの教育支援活動に協力しています。

これからも、幅広い社会教育活動を支援しているこの運動を応援していきます。



ベルマークとキューピー商品

ベルマークはキューピーのマヨネーズとドレッシングについています。



ベルマークがついている商品

[財団法人 ベルマーク教育助成財団](#)



WFP「レッドカップキャンペーン」

レッドカップキャンペーンは、地球上の飢えに苦しむ子どもたちに学校給食を届ける支援活動です。

キューピーベビーフード「Happyレシピ」シリーズは、国連の食糧支援機関であるWFP国連世界食糧計画の「レッドカップキャンペーン」に参加し、商品の売り上げの一部を寄付しています。



[レッドカップキャンペーン](#)



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献
 - 健康寿命延伸への貢献 >
 - 子どもの心と体の健康
支援 >
 - ユニバーサルデザイン
への取り組み >**
 - 社会貢献活動 >
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

ユニバーサルデザインへの取り組み

- ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方 
- ユニバーサルデザインを取り入れた例 
- ユニバーサルデザインフード 

ユニバーサルデザインへの取り組みへの考え方

できるだけ多くの方に使いやすいことをめざすユニバーサルデザインへの取り組みは、キューピーグループのめざす姿「私たちは『おいしさ、やさしさ、ユニークさ』をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします。」を具現化することでもあると考えています。

キューピーグループではお客様相談室をはじめとしたさまざまな部署が集まる「お客様の声委員会」でユニバーサルデザインにかかわるテーマについて話し合いを行っており、その結果を各部署で具体的に検討しながら、商品の改善に努めています。

キューピーのユニバーサルデザイン原則

1. 誰でも公平に利用できる
2. 使う上で自由度が高い
3. 使い方が簡単ですぐに分かる
4. 必要な情報がすぐに理解できる
5. うっかりミスや危険につながらない
6. 無理な姿勢を取ることなく少ない力で楽に使用できる
7. アクセスしやすいスペースと大きさの確保
8. 人体に危害を加えない
9. 環境に配慮している
10. 利便性に優れている

ユニバーサルデザインを取り入れた例

使いやすさへの工夫

ダブルキャップ

細口と星型のダブルキャップ

キューピー マヨネーズのふたは、細口と星型のダブルキャップだということをご存じですか？上ぶたを開けると細口、キャップを回して外すと星型の口があらわれます。お料理の仕上げのデコレーションには細口で、タッブリとかけたいときは星型で。お料理の楽しさが広がるダブルキャップをぜひご活用ください。

また、キャップには、回したときに手が痛くない、壊れにくいなど、ユニバーサルデザインの発想が随所に隠されています。



軽く使いやすい容器

より軽く、より使いやすく、を追求したプラスチックボトル

キューピー ドレッシングは「軽さ」「開けやすさ」「振りやすさ」「注ぎやすさ」「分別しやすさ」「環境配慮」を実現したオリジナルの新容器です。これまでガラス瓶だった容器を「プラスチックボトル」に変更し、「キャップ」にもさまざまな改良を加え、お客様により使いやすい容器を実現しました。



開けやすさ



左回して一度にキャップと中栓を開けられるようにしました。

分別しやすさ



ツマミを右に半周以上引き裂き、中栓を簡単に取り外しできます。

注ぎやすさ



注ぎ口にカーブをつけて、液だれしづらくしました。

振りやすさ

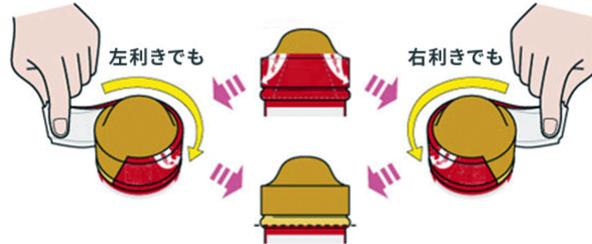


ボトルの中央にくびれをつけ、振るときに振りやすくなりました。

キャップシール

左右どちらでも開けられる易開封シュリンク

ドレッシングのキャップ部分のシュリンク(フィルム)に、右利き・左利きのどちらの方でも1回の動作で開封できる新たなユニバーサルデザインを採用しました。この「易開封シュリンク」は、「2009 日本パッケージングコンテスト」において食品包装部門賞を受賞しています。さらに、シュリンクに上から下までのミシン目も追加し、分別の際のはがしやすさを向上させました。



多面体デザイン

瓶の上部を多面体にすることで、握りやすさと開けやすさを実現しました。



パキッテ

片手ですばやくかけられるポーション容器「パキッテ」

「パキッテ」は、片手で容易に開封でき、従来の袋やカップに比べ、手を汚すことなく中身を完全に押し出すことができる容器です。1983年にアメリカで発明され、1987年にはキューピーのグループ会社であるデイスペンパックジャパンが、世界に先駆けて技術開発および商品化に成功しました。さまざまな食シーンにあわせ、出し口を工夫するなどラインアップを拡充しています。現在では中食や外食産業をはじめ、家庭や学校給食などで幅広く使用されており、2017年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞[※]を受賞しました。



※グッドデザイン・ロングライフデザイン賞：長年にわたり作り手と使い手、社会との対話の中で醸成され、暮らしや社会の礎となり、未来においてもその役割を担い続けてほしいデザインを選び、顕彰する賞です。

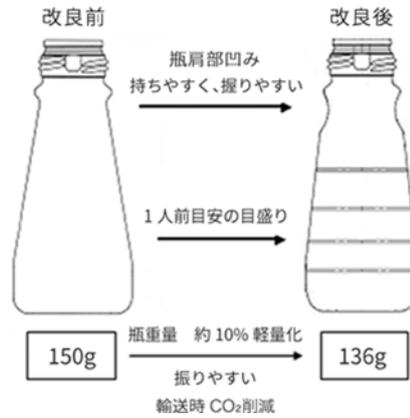
 **LONG LIFE
DESIGN 2017**



パキッテ「トマト&あらびきマスタード」
2種類の液を同時にさせる

瓶肩部のへこみ

持ちやすく、握りやすい「凹み」を採用し、振りやすくしました。また環境に配慮し、約10%軽量化をしました。



分かりやすい工夫

開栓日メモ

開栓した日を記入する「開栓日メモ」



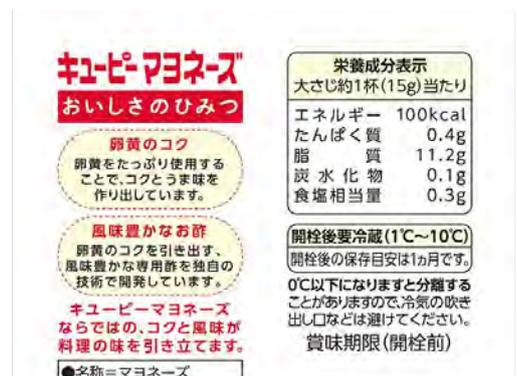
点字表示

「アヲハタ」「ジャム」「ドレ」という点字を入れ、より多くのお客様に判断しやすいようにしています。



大きな文字

文字を大きくし、一目で見やすく、分かりやすくしています。



ユニバーサルデザインフード

どなたにも食べやすくおいしい食事として楽しんでいただきたいという想いから、キューピーはさまざまな商品を開発してきました。いつまでも「食」を楽しむことのできる豊かな食生活の実現を応援しています。

「やさしい献立」は、食べやすさから生まれたユニバーサルデザインフードです。食べる人のかむ力、飲み込む力に合わせて4段階に区別されています。



ユニバーサルデザインフード (UDF) とは

ユニバーサルデザインフード (UDF) は、日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。2002年設立の日本介護食品協議会(加盟92社:2021年9月現在)は消費者がより分かりやすいように咀嚼嚥下(かむ力・飲みこむ力)に配慮し、「かたさ」や「粘度」に応じて4段階に区分されています。各区分に分類される商品にユニバーサルデザインフードロゴマークを使用しています。



ユニバーサルデザインフードについて

区分	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる	かまなくてよい
かむ力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安 (ごはんの調理例)	ごはん ～やわらかごはん 	やわらかごはん ～全がゆ 	全がゆ 	ペーストがゆ 
かたさの目安 (たまごの調理例)	厚焼き卵 	だし巻き卵 	スクランブルエッグ 	やわらかい茶碗蒸し(具なし) 

[日本介護食品協議会ホームページ](#)

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献
- 健康寿命延伸への貢献 >
- 子どもの心と体の健康
支援 >
- ユニバーサルデザイン
への取り組み >
- 社会貢献活動 >
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

社会貢献活動

- 地域との連携
- 地域貢献活動
- 文化貢献
- 教育支援活動
- マッチングギフト制度
- エコキャップ運動
- 学生服リユース活動

地域との連携

キューピーグループは、さまざまな自治体と協働して地域社会の課題解決や地域の活性化に取り組んでいきます。

山形県との取り組み

キューピーは、山形県と2019年2月、地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進に関する包括連携協定を締結しました。キューピーと山形県の双方が持つ資源を有効に活用して協働することにより、「やまがた創生」に資することを目的としています。

協定内容

1. 山形県産農産物の地産地消の推進と利用拡大に関する事項
2. 健康増進に関する事項
3. 食育の推進に関する事項
4. 子どもの貧困対策に関する事項
5. 災害対策に関する事項
6. その他、「やまがた創生」の推進に関すること

取り組み内容

- ・ 県内小学校にてマヨネーズ教室の実施
- ・ 地域スーパー惣菜部と連動し、「減塩・ベジアップ」企画を実施

渋谷区との取り組み

キューピーは、渋谷区と2016年12月、地域社会の課題解決を目的とした包括連携協定である「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定(SSAP)」を締結しました。本協定を通じて、新たな取り組みを渋谷区と協働して推進し、社会・地域とのより良い共生を図ります。

協定内容

1. 食育や子どもの貧困課題の解決に関する支援
2. 超高齢社会における健康増進領域の支援
3. 環境領域の課題(食品ロス含む)に関する研究と解決策の提供
4. 文化・芸術振興における支援、企画立案、情報発信施策の企画開発
5. ダイバーシティの実現に向けた研究や啓発活動への支援
6. 人材開発や研修プログラムにおける人的交流



取り組み内容

- ・ 渋谷区民の野菜の摂取量や、フレイル予防に効果的な卵などのたんぱく質の摂取量の調査を東京都健康長寿医療センターと共同で実施
 - 健康的な食生活提案のために渋谷区と共同で調査開始
- ・ 渋谷区民を対象とした「オンライン離乳食教室」を開催
- ・ 「しぶや・もったいないマーケット2021」開催
- ・ 区立小学校におけるキャリア教育支援を実施

広島市との取り組み

キューピーは、広島市と2018年3月、地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進に関する包括連携協定を締結しました。キューピーと広島市の双方が持つ資源を有効に活用した取り組みを推進していきます。

キューピーと広島市は、本協定を通じて「広島近郊6大葉物野菜」などの地産地消の推進や1日あたりの野菜摂取量増加につながる取り組みなどを、連携して行います。

協定内容

1. 地産地消の推進に関する事項
2. 野菜摂取向上に関する事項
3. 健康増進に関する事項
4. 食育の推進に関する事項
5. 災害対策に関する事項

取り組み内容

- ・ 広島県、広島市、JA全農ひろしまと連携し、地元食材×たんぱく質を組み合わせた「ひろしまサラダ」を提案

広島県との取り組み

アヲハタ株式会社は、2013年より広島県と「包括的連携に関する協定」を締結しています。この協定を通じて、広島県産オリジナル商品(瀬戸内ブランド)の開発や観光振興、県民サービスの向上や地域経済活性化の推進、健康増進・食育に関すること、地域の安全・安心に関することなど、多岐にわたる取り組みを進めています。

協定内容

1. 瀬戸内ブランドの推進や県産品の販売促進に関すること
2. 県政情報の発信、観光振興に関すること
3. 教育・文化の振興に関すること
4. 健康増進・食育に関すること
5. 環境対策・リサイクルに関すること
6. 地域の安全・安心に関すること
7. 障がい者支援に関すること
8. 子育て支援に関すること
9. その他、県民サービスの向上、地域社会の活性化に関すること



瀬戸内ブランドの登録商品

取り組み内容

- ・ 地域のボランティアが主体となり、小学校の子どもたちが始業前に集まり、朝ごはんを食べる広島県「朝ごはん推進モデル事業」に対し、商品を提供
- ・ 広島ならではの給食メニューのレシピを公募し、その中から選ばれたメニューを給食で提供する「ひろしま給食100万食プロジェクト」の広島県の取り組みに対し、メニュー審査や商品を提供

福島県における取り組み

キューピーでは、「福島の食卓に笑顔を！」をテーマに掲げ、従来の「マヨネーズ教室」の枠を超え、福島県産野菜の地産地消サイクルの構築と、その先にある「新たな食シーンの創出」までを見据えた社会貢献プログラムを実施しています。

取り組み内容

- ・ JA全農福島が企画する「きゅうり栽培大作戦」に参画し、オンラインマヨネーズ教室を実施
- ・ 福島県民の健康増進を目的とした「ふくしま健康応援メニュー」を共同開発

愛知県との取り組み

あいち みんなのサラダ プロジェクト

愛知県は農業産出額では全国有数ですが、県民の野菜摂取不足が課題となっています。

そこで愛知県民の野菜摂取向上をめざし、地元行政や有識者と連携して「あいち みんなのサラダ」プロジェクトを立ち上げ、2018年8月に実行委員会を設置しました。

プロジェクトメンバーと一緒に、県民が好む「うま味」「食べごたえ」「意外性」を備えた「あいちサラダめし」を考案し、県内の飲食店へ提案しています。

2021年12月末時点で賛同店は約120店を超え、提供店は約90店となりました。

また、2018年、2019年の野菜の日にはプロジェクトの認知、「あいちサラダめし」のさらなる普及・定着に向けたイベントを実施しました。2021年以降もテレビやラジオを使って継続した啓発を図っています。

今後は、より多くの外食店へ展開し、中食、内食への定着を進めていくことで、愛知県のみならず、野菜をおいしく楽しむ食生活を応援します。

地域貢献活動

キューピーグループは、地域社会・国際社会の一員として、地域に根付いた持続可能な活動を推進しています。従業員が積極的に携わることで、継続して地域貢献活動を実施することをめざしています。

地域清掃活動

各事業所では、環境美化活動の一環として敷地周辺の自主的な清掃活動を実施しています。また、地域で行われている周辺の河川や商店街の定期的な清掃に参加しています。こうした取り組みは「キューピーグループ オフィシャルブログ」でも紹介しています。

[> キューピーグループ オフィシャルブログ](#)



アヲハタ アダプト活動

アヲハタは広島県と包括連携協定を締結しており、連携して取り組む項目の一つに「環境対策・リサイクルに関すること」があります。その一つとして県道のアダプト活動[※]への参画があり、2013年に広島県からアダプト活動認定団体として認定され、活動を続けています。

アヲハタ本社のあるJR忠海駅前の道路（県道東広島本郷忠海線）を年5～6回清掃活などを行っておりその道路には「アヲハタ株式会社」と記載のある看板が設置されています。

毎回ゴミの量はさほどありませんが、種類としては空き缶、ビニール袋、たばこの吸い殻などが見られます。また、ゴミを拾う以外にも歩道に生えている雑草なども取り除いています。

地域の方から挨拶やお礼を言われるなど、活動を通じて地域とのつながりを感じることができます。

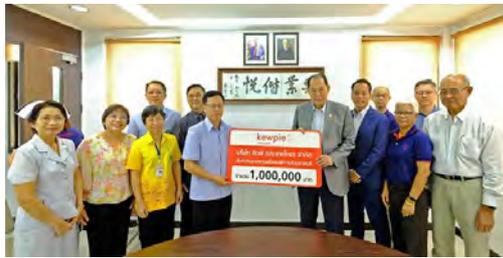
従業員はもちろん地域の方々も気持ちよく過ごせるよう今後もアダプト活動を続けていきます。

※ アダプトとは英語で「〇〇を養子にする」の意味から、一定区画の公共の場所を養子にみたく、市民がわが子のように愛情をもって面倒（清掃や草刈りなど）をみていく活動。



海外グループ会社での地域貢献活動

キューピータイランド (KEWPIE (THAILAND) CO., LTD.) では、「環境」「地域貢献」「子ども支援」の3つのテーマに沿った活動を、利益の2%を予算計上して実施しています。これは現地合弁先であるサハグループの企業方針にも沿ったものです。環境活動では、ソーラーシステムの運用、水のリサイクル、バイオマス燃料の使用推進により環境負荷低減を進めるとともに、水源保持の為に植林活動を継続的に行っています（2021年度20,000本）。地域貢献として、病院への医療機器提供やマスクや無塵衣等の新型コロナウイルス感染症対応支援や近隣の消毒用アルコール支援等を行っています。また、廃棄物残さの堆肥活用と近隣住民への配布も継続して取り組んでいます。さらに就学支援として、従業員子女への就学支援、近隣小学校の図書室や遊具改装支援・飲み水等衛生設備の導入・メンテナンスを行っています。



病院への医療機器支援



近隣への消毒用アルコール提供の様子



図書室改装支援



改修した小学校遊具

文化貢献

歌やダンスなどの芸術文化活動を通じて、あらゆる世代の健康で笑顔あふれる生活を応援していきます。

おかあさんコーラス

キューピーは、「全日本おかあさんコーラス大会(全日本合唱連盟・朝日新聞社主催)」と「全沖縄おかあさんコーラス大会(全沖縄おかあさんコーラス連盟・琉球新報社主催)」に協賛しています。

これらの大会は日頃、家事や仕事などで忙しいおかあさんに、コーラスの楽しさを存分に味わっていただく場です。

ご家族の笑顔と健康を支えているおかあさんたちを、私たちは応援しています。



全日本おかあさんコーラス大会

毎年全国各地で支部大会が行われ、およそ900団体、約2万人が参加する大規模な催しです。そのなかから選ばれた約60団体が、全国の主要都市で行われる全国大会に出場。日頃の練習の成果を発表しています。主婦コーラスの愛好家にとっては、欠かせない発表の場になっています。

全日本合唱連盟



全日本おかあさんコーラス大会のあゆみ

全日本おかあさんコーラス大会は、当時の石井勲全日本合唱連盟理事長の「おかあさん方に芸術を知っていただくことが、健康な家庭を作るために必要だ」という信念のもと、1978年に全日本合唱連盟と朝日新聞社の主催で「全日本ママさんコーラス大会」として始まりました。

第1回大会は全国で232団体・約1万人が参加し、全国大会は虎ノ門ホール(東京)で25団体が出場して盛大に開催されました。その後、参加団体は順調に増え、現在、毎年3月から7月に行なわれる各地の支部大会におよそ900団体、約2万人が参加する大規模な催しになっています。

2020、2021年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全国大会が中止となりましたが、デジタルを活用した取り組みとして「バーチャルおかあさんコーラス」(2020年)、「おかあさんコーラス オンラインフェスティバル2021」(2021年)を実施しました。

開催実績

開催年 (回数)	開催地	会場	あゆみ
2021年 (第44回)	静岡県	アクティティ浜松大ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 開催中止 オンラインイベント「おかあさんコーラス オンラインフェスティバル2021」を実施
2020年 (第43回)	宮崎県	メディキット県民文化センター	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 開催中止 オンラインで「バーチャルおかあさんコーラス」を実施
2019年 (第42回)	石川県	金沢歌劇座	—
2018年 (第41回)	愛媛県	ひめぎんホール	—
2017年 (第40回)	岡山県	岡山シンフォニーホール	—
2016年 (第39回)	青森県	リンクステーションホール青森	—
2015年 (第38回)	北海道	札幌コンサートホールKitara	—
2014年 (第37回)	新潟県	りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館	—
2013年 (第36回)	大阪府	フェスティバルホール	—
2012年 (第35回)	東京都	文京シビックホール 大ホール	35回記念大会として、全国大会を3日間開催。
2011年 (第34回)	福岡県	アクロス福岡	—
2010年	長野県	長野県県民文化会館 ホク	—

(第33回)		ト文化ホール	
2009年 (第32回)	愛媛県	ひめぎんホール	—
2008年 (第31回)	福島県	郡山市民文化センター 大ホール	—
2007年 (第30回)	鳥取県	鳥取県立県民文化会館 梨花ホール	—
2006年 (第29回)	北海道	札幌コンサートホール Kitara	—
2005年 (第28回)	長崎県	長崎ブリックホール大ホール	—
2004年 (第27回)	神奈川県	よこすか芸術劇場	—
2003年 (第26回)	滋賀県	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	—
2002年 (第25回)	東京都	東京文化会館 大ホール	25回記念大会として、「ひびけ おかあさん in Tokyo!」をサブタイトルに全国大会を3日間開催。
2001年 (第24回)	富山県	富山市芸術文化ホール オーバード・ホール	—
2000年 (第23回)	香川県	香川県県民ホール グランドホール	—
1999年 (第22回)	岩手県	岩手県民会館	—
1998年 (第21回)	岡山県	倉敷市民会館	連盟創立50周年記念事業として、全国大会1日目の夜に「コーラスジャンボリー」を倉敷チボリ公園で開催。
1997年 (第20回)	北海道	札幌コンサートホール Kitara	—
1996年 (第19回)	熊本県	熊本県立劇場コンサートホール	—
1995年 (第18回)	群馬県	群馬音楽センター	—
1994年 (第17回)	京都府	京都会館 第1ホール	—
1993年 (第16回)	石川県	金沢市観光会館	この年から全国大会を2日間開催。
1992年 (第15回)	東京都	東京芸術劇場 大ホール	—

1991年 (第14回)	愛媛県	愛媛県立県民文化会館 メ インホール	—
1990年 (第13回)	福島県	郡山市民文化センター 大 ホール	—
1989年 (第12回)	広島県	広島厚生年金会館ホール	—
1988年 (第11回)	北海道	北海道厚生年金会館ホール	—
1987年 (第10回)	福岡県	福岡サンパレス 大ホール	少年少女合唱祭(第1回)を併 催。もう一つのおかあさんコーラ ス大会と銘打った「おかあさんカ ンタート」を始める。
1986年 (第9回)	神奈川県	神奈川県県民ホール	少年少女合唱団大集合を前日に 併催。この年から開催地は全国持 ち回りとなる。
1985年 (第8回)	大阪府	フェスティバルホール	—
1984年 (第7回)	東京都	ゆうぽうと簡易保険ホール	—
1983年 (第6回)	愛知県	名古屋市民会館 大ホール	初めて東京・関西以外で全国大会 を開催。
1982年 (第5回)	兵庫県	神戸文化ホール 大ホール	—
1981年 (第4回)	東京都	普門館	—
1980年 (第3回)	京都府	京都会館 第1ホール	名称を「全日本おかあさんコーラ ス大会」と変更。
1979年 (第2回)	東京都	東京文化会館 大ホール	—
1978年 (第1回)	東京都	虎ノ門ホール	「全日本ママさんコーラス」を開 催し、継続行事として意義のある 第一歩をしるした。

全沖縄おかあさんコーラス大会

全沖縄おかあさんコーラス大会は「楽しく歌う」を原点に1979年にスタートしました。最初は舞台上立って歌い終わると、そこから客席に行き、次の団体の歌を聴くというような発表会規模の小さな催しでした。回を重ねるごとに各市町村へと広がり、歌を愛する人が集まるすばらしい文化活動へと成長しました。今ではコーラスのレベルも上がり、沖縄の歌も多く歌われ、その普及にも貢献しています。



全沖縄おかあさんコーラス大会のあゆみ

「ママさんバレーがあるのに、ママさんコーラスもあってしかるべき」との発想から、全沖縄おかあさんコーラス連盟初代理事長の故仲里朝太郎氏、前相談役の鳩間用吉氏、前理事長の新島ユキさん、兵庫県在住の柴田民子さんを中心に1979年2月14日、5団体による「親睦演奏会」が那覇中央公民館で開かれ、これが今日の「全沖縄おかあさんコーラス大会」の基礎となりました。翌1980年3月1日、当時全日本合唱連盟理事長の石井欽氏を招いて「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を琉球新報ホールで開催し、継続行事として意義ある第一歩を歩きました。その後、参加団体の範囲が「那覇」から「全県」へ広がり、今では加盟団体への還元事業として合唱講習会や指導者講習会を定期的に行き、組織の結束力の強化、演奏技術の向上にも努めています。

開催実績

開催年 (回数)	会場	あゆみ
2021年 (第42回)	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を延期
2020年 (第41回)	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止
2019年 (第40回)	琉球新報ホール	—
2018年 (第39回)	豊見城市立中央公民館	—
2017年 (第38回)	豊見城市立中央公民館	—
2016年 (第37回)	浦添市てだこホール	—
2015年 (第36回)	浦添市てだこホール	—
2014年 (第35回)	宮古島市マティダ市民劇場	名称を「全沖縄おかあさんコーラス大会」と変更。
2013年 (第34回)	那覇市民会館 大ホール	—
2012年 (第33回)	浦添市てだこホール	—

2011年 (第32回)	浦添市てだこホール	—
2010年 (第31回)	那覇市民会館 大ホール	—
2009年 (第30回)	浦添市てだこホール	—
2008年 (第29回)	那覇市民会館 大ホール	—
2007年 (第28回)	那覇市民会館 大ホール	—
2006年 (第27回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
2005年 (第26回)	那覇市民会館 大ホール	—
2004年 (第25回)	沖縄市民会館 大ホール	—
2003年 (第24回)	名護市民会館 大ホール	—
2002年 (第23回)	那覇市民会館 大ホール	—
2001年 (第22回)	那覇市民会館 大ホール	初めて沖縄本島以外で開催。
2000年 (第21回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1999年 (第20回)	那覇市民会館 大ホール	—
1998年 (第19回)	那覇市民会館 大ホール	—
1997年 (第18回)	那覇市民会館 大ホール	—
1996年 (第17回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1995年 (第16回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1994年 (第15回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	連盟歌、連盟旗を作成。
1993年 (第14回)	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
1992年	那覇市民会館 大ホール	—

(第13回)		
1991年 (第12回)	沖縄市民会館 大ホール	—
1990年 (第11回)	那覇市民会館 大ホール	—
1989年 (第10回)	那覇市民会館 大ホール	10回参加した団体へ表彰を始める。
1988年 (第9回)	那覇市民会館 大ホール	—
1987年 (第8回)	那覇市民会館 大ホール	—
1986年 (第7回)	那覇市民会館 大ホール	—
1985年 (第6回)	那覇市民会館 大ホール	名称を「全沖縄おかあさんコーラス発表会」と変更。
1984年 (第5回)	労働福祉会館 大ホール	—
1983年 (第4回)	労働福祉会館 大ホール	—
1982年 (第3回)	労働福祉会館 大ホール	名称を「那覇おかあさんコーラス発表会」と変更。
1981年 (第2回)	琉球新報ホール	—
1980年 (第1回)	琉球新報ホール	「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を開催し、継続行事として意義のある一歩をしるした。

全日本小中学生ダンスコンクール

キューピーは、「全日本小中学生ダンスコンクール(朝日新聞社主催)」に協賛しています。

リズムダンスは、小中学校の学校教育やクラブ活動にとり入れられており、基礎体力の向上はもちろん、リズム感や自己表現力、創造力、さらにはコミュニケーション力を養うツールとして、教育面でも非常に期待されています。キューピーは、今後も元気の源となる食を通じて、仲間と一緒にダンスをがんばる子どもたちの健やかな成長を応援していきます。



全日本小中学生ダンスコンクールのあゆみ

「小中学生が学校の授業やクラブ活動などで仲間と練習したリズムダンスのパフォーマンスを演じるハレの舞台をつくりたい」そして、「ダンスを通じて健やかな体と豊かな表現力、仲間とともにがんばる心を育みたい」という願いのもとで2013年に創設された大会です。

2014年には、ブロック大会（東日本、西日本）と全国大会が創設され大会の規模が拡大しました。現在は4つのブロック大会と全国大会に、のべ3,600名以上の小中学生が参加する国内最大規模のダンスコンクールの1つとなっています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全大会が中止となり、オンラインでのダンス発表会を初開催しました。2021年もブロック大会が中止となりましたが、オンライン発表会と、動画審査による代表チーム選出による全国大会を開催しました。



[公式ホームページ](#)



開催実績

開催年 (回数)	会場	あゆみ
2021年 (第9回)	国立代々木競技場 第二体育館	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためブロック大会が中止。11月に全国大会と、オンラインでの発表会を開催。
2020年 (第8回)	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全大会が中止。オンラインでの発表会「全日本小中学生DANCELIVE2020」を開催。
2019年 (第7回)	駒沢オリンピック公園 総合運動場 体育館	—
2018年 (第6回)	駒沢オリンピック公園 総合運動場 体育館	—
2017年 (第5回)	川崎市とどろきアリーナ	—
2016年 (第4回)	川崎市とどろきアリーナ	東海大会、九州大会を設立
2015年 (第3回)	国立代々木競技場 第二体育館	—
2014年 (第2回)	国立代々木競技場 第二体育館	西日本大会、東日本大会設立
2013年 (第1回)	渋谷公会堂	大会創設

教育支援活動

アヲハタでは、教育支援活動の一環として、高等学校、大学などで講義や講演、ジャム製造実習などを実施しているほか、インターンシップ(職場体験学習)の学生・生徒を受け入れ、働くことの大切さ・厳しさなどへの理解を深めていただいています。また、アヲハタからの寄付金をもとに本社のある広島県竹原市では「アヲハタ奨学金基金」が2001年に設立されています。給付型の奨学金制度で、2002年より毎年新たに2名の大学生に奨学金を給付しています。

キューピーとキューピータマゴでは、2017年から一般の消費者様向けにスーパーやスポーツジムなどで卵の栄養・健康機能の認知啓発活動「たまご勉強会」を行っています。また、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告「たまご白書」を発行し、卵に関する正しい知識の啓発・卵料理の楽しみ方の提案につなげています。

寄付講座

＜東京農業大学 キューピー「エッグイノベーション」寄付研究部門

共同研究講座

＜キューピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所

マッチングギフト制度(Q P e a c e)

キューピーグループは、従業員が社会課題の解決に取り組む団体に寄付を行うことを支援する活動として、マッチングギフト制度「Q P e a c e(キューピース)」を2008年度より導入しています。寄付先の団体は、従業員の推薦を受け、有志による選定委員会で決定しています。2021年度は、グループ25社が参加し、「子ども」「環境」「食」を活動のテーマとする10の社会・環境団体へ寄付を行いました。従業員が社会課題への関心を高めるきっかけとしています。



Q P e a c e の流れ

1. 従業員が支援したい団体を推薦。従業員からなるプロジェクトメンバーと事務局で、推薦された団体を審査し、決定
2. 寄付を希望する従業員は毎月100円を1口として給与天引きし、Q P e a c e に積立
3. 会社は従業員の積立金と同額を支援
4. 各社会・環境活動団体へ寄付

2022年Q P e a c e 支援団体(284KB)



エコキャップ運動

2015年より東京都内のキュービーグループ各事業所で回収したペットボトルキャップをキュービーあいでも回収し、エコキャップとしてNPOへお渡しして途上国でのワクチン接種の支援につなげています。



2021年度回収実績

重量	個数	預かり寄付金	ワクチン接種人数	CO ₂ 換算
230.42kg	99,078個	2,302円	115.1人	725.82kg-CO ₂

学生服リユース活動

2020年から、さまざまな事情で学生服や学用品が買えないご家庭、子どもたちのために「学生服のリユースShop さくらや」の学生服リユース活動に参加しています。

2021年度は、キュービーグループでは期間限定で仙川キューポートと渋谷オフィスに回収ボックスを設置し、制服を回収しました。



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献
- 環境マネジメント >
- 食品ロスの削減・有効活用 >
- プラスチックの削減・再利用 >
- 水資源の持続的利用 >
- 気候変動への対応 >
- 生物多様性の保全 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >

地球環境への貢献

キューピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。事業活動が与える影響を十分に配慮し、将来にわたってこれまでと同様の環境を残し、次世代に引き継いでいく使命があると考えています。

そこで、「社会・地球環境への取り組みを強化」を経営方針の一つとして定めグループ全体で取り組んでいます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
資源の有効活用・循環	食品ロスの削減・有効活用	食品残さ削減率 (2015年度比)	65%以上
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜:キャベツなど (当年)	90%以上
		商品廃棄量削減率 (2015年度比)	70%以上
	プラスチックの削減・再利用	プラスチック排出量削減率 (2018年度比)	30%以上
	水資源の持続的利用	水使用量(原単位)削減率 (2020年度比)	10%以上
気候変動への対応	CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量削減率 (2013年度比)	50%以上



➤ 環境マネジメント

キューピーグループの方針として環境基本方針を定めています。



➤ 食品ロスの削減・有効活用

容器の改良・賞味期間の延長などでの食品ロス削減に加え、食資源の有効活用に取り組んでいます。



➤ プラスチックの削減・再利用

品質第一主義を守りながら、容器の軽量化・薄肉化や再生材の採用など商品・サービスにおける環境負荷低減に取り組んでいます。



➤ 水資源の持続的利用

人々の生活やさまざまな産業を支える大切な水資源について、効率的な活用に取り組んでいます。



➤ 気候変動への対応

調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階で省エネルギーやエネルギー転換に積極的に取り組んでいます。



➤ 生物多様性の保全

「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努めています。

キューピーについてもっと知る



キューピーグループ
オフィシャルブログ
従業員より、社会・環境への
取り組みを発信しています。



食育活動

キューピーの食育活動についてご紹介します。

サステナビリティ

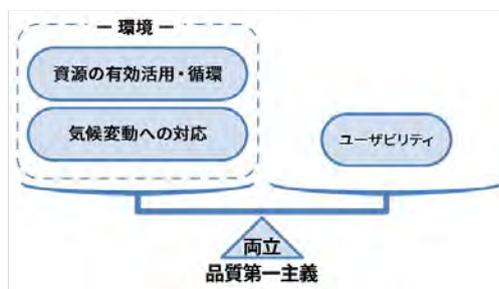
- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献
 - 環境マネジメント >
 - 食品ロスの削減・有効活用 >
 - プラスチックの削減・再利用 >
 - 水資源の持続的利用 >
 - 気候変動への対応 >
 - 生物多様性の保全 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >

環境マネジメント

- 環境マネジメントの考え方 ●
- 環境マネジメント推進体制 ●
- 環境マネジメントシステム ●
- 環境法規の遵守 ●
- 環境監査 ●
- 事業活動における環境影響 ●
- 地域への環境配慮 ●
- 環境コミュニケーション ●

環境マネジメントの考え方

キユーピーグループの事業活動は、豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。事業活動における環境影響に配慮するとともに「品質第一主義」を土台にしたユーザビリティと地球環境との両立を図り、持続可能な社会の実現に貢献します。



キユーピーグループ 環境基本方針

環境理念・行動指針からなるキユーピーグループ 環境基本方針は、1998年12月に国内外での環境保全の意識の高まりを受けて制定し、2度の改定を行いました。キユーピーグループ サステナビリティ基本方針と連動し、取り組みを推進します。

~環境理念~

商品の設計、原料調達から、生産、販売、消費までのバリューチェーン全体の活動で、環境配慮に努めます。

行動指針

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
2. 環境への影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
3. 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の遵守はもとより社会的要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。

重点課題と目標の設定

キユーピーグループでは、地球環境への取り組みとして「資源の有効活用・循環」「気候変動への対応」のそれぞれの重点課題の取り組みについて指標(サステナビリティ目標)を設け、実践につなげています。

> [重点課題と推進体制](#)

環境マネジメント推進体制

キユーピーグループでは、サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を開催しています。環境面では、サステナビリティに向けての重点課題の課題の解決に向け、テーマごとに分科会・連携プロジェクトを設け、グループ全体への浸透と定着を図り、取り組みを推進しています。

環境マネジメントシステム

キユーピーグループでは、環境保全活動のPDCAサイクルを回すための基本ツールとして、各事業所でISO14001あるいはこれに準じた独自のシステムを導入しています。

ISO14001 認証取得状況

国内グループ生産71事業所中19事業所がISO14001認証を取得しています(2021年11月末現在)。

環境法規の遵守

キユーピーグループの各事業所は、環境に関わる法令・条例などの規制の遵守はもちろん、独自の基準に基づき管理・対応を適正に行っています。

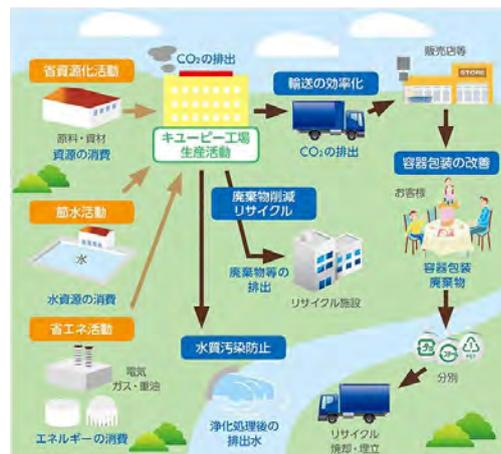
※ 2021年度は、関連法規等の違反や事故の発生はありませんでした。

環境監査

キユーピーグループは、関連法規等の遵守、管理推進体制の整備、施設管理状況等についての基準を定め、定期的な内部監査を実施することで、それらを徹底するとともに環境保全活動を推進しています。この他、ISO14001認証取得事業所では、規格に基づいた外部機関による審査を受け、要求事項に適合した仕組みや運用を確認しています。

事業活動における環境影響

商品の生産工程では、原料・資材・水などの資源、電気・ガス・重油などのエネルギーが消費され、産業廃棄物や排水、CO₂などが排出されます。また、商品輸送時のエネルギー使用に伴う環境負荷や、お客様がご使用された商品の容器包装は廃棄物になります。そうした事業活動に伴う環境への負荷を正しく認識し、商品開発、原資材調達、生産、販売、物流のすべての活動で、持続可能な地球環境に配慮し、省エネルギー・省資源、廃棄物削減、容器包装の改善、輸送の効率化、汚染防止などの環境保全活動を推進しています。



キューピーグループ生産部門での物質とエネルギーの流れ

キューピーグループ生産部門における物質とエネルギーの流れ(2021年度)

インプット

エネルギーの使用	購買電力	2,149 千GJ(215,741千KWh)
	燃料 ^{※1}	1,216 千GJ
	エネルギー合計	3,365 千GJ
水の使用	水(地下水、水道水)	8,117 千m ³

アウトプット

大気への排出	CO ₂	171.1 千トン
	NO _x	30.7トン
	SO _x	8.3トン
水域への排出 ^{※2}	排出量	6,119 千m ³
廃棄物の排出	排出量(再資源化率)	41.6 千トン(97.4%)

※1 発電燃料含む

※2 河川、公共下水道含む

対象: キューピーグループ生産工場

[> ESGデータ集](#)

廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量の削減目標

- ・ 総量および生産数量当たりの原単位 前年比減

キューピーグループは、製造工程における歩留まりの改善や、容器包装の改善などによる廃棄物の発生抑制を第一として取り組んでいます。

工場の主な廃棄物は、製造工程から排出される食品残さや包装資材のロスとしての廃プラスチック類、排水処理設備における排水処理後の汚泥などがあります。2021年度は、キューピーグループ工場での廃棄物排出量は、総量41.6千トンで前年度より9%減少、生産数量1トン当たりの廃棄物排出量(原単位)は54.0kgで前年度より9.1%減少となりました。

また、卵殻の肥料化や野菜未利用部を含む食品残さの社内再生による再資源化(堆肥化・飼料化)や、廃棄物等として外部に再資源化(堆肥化)を委託することで、工場で発生する廃棄物等の再資源化率100%(単純焼却・埋立て処分ゼロ)に取り組んでいます。

2021年度の再資源化率は97.4%となっています。また、再資源化率100%達成工場は、グループ生産72事業所中29事業所となっています。

廃棄物排出量[※]



対象: キューピーグループ生産工場

※ グループ内で再資源化している副産物を除く

※ 使用量・原単位の大幅な減少の主な原因は、サラダ・惣菜事業における一部事業売却による影響

地域への環境配慮

キューピーグループの事業所では、近隣にお住いの皆さまや、地域の環境に配慮して操業を行っています。

水質汚濁の防止

排水処理設備で浄化処理後の排水は自主管理基準を定めて水質等を管理し、地域ごとの基準を遵守しています。また、液体原料・燃料のタンクなどには漏洩防止設備を設置するとともに、万が一の公共水域への排出、地下浸透などを想定した訓練を行っています。

大気汚染の防止

ボイラーやコジェネレーション等は、適切な運転管理に努めるとともに、定期点検・メンテナンス、ばい煙測定を実施しています。また、ボイラー等の燃料についても、ばいじんや硫黄酸化物の発生が少ないガスへの転換を進めています。

騒音防止と臭気対策

排水処理や調理の際に発生する臭気対策として、工程改善や脱臭装置の整備を行っています。また、騒音防止のため、防音壁の設置や設備導入時の騒音評価、従業員や納入業者への指導等を実施しています。

環境コミュニケーション

キューピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。持続可能な社会を引き継ぐために、事業活動が与える自然への影響に十分に配慮し、環境負荷低減活動や環境保全活動の充実を図り、環境活動を通じてステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深めることを目的に、情報発信に努めます。

環境教育

キューピーグループでは、従業員の環境保全に対する意識を高め、取り組みを推進するために環境教育を行っています。

関係部署と連携を取り、環境実務に即した内容で要望のある講座を実施しています。

排水処理管理、廃棄物管理等の教育は定期的を実施しています。

各事業所でも、環境問題に関する一般教育や緊急事態を想定した訓練などを行っています。

工場・見学施設における環境活動

パネルの常設展示

マヨテラス(東京都調布市)では、キューピーグループが取り組んでいる環境活動パネルを常設展示しています。来場いただいたお客様は、待ち時間を使ってご覧いただけます。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献
 - 環境マネジメント >
 - 食品ロスの削減・有効活用 >
 - プラスチックの削減・再利用 >
 - 水資源の持続的利用 >
 - 気候変動への対応 >
 - 生物多様性の保全 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >

食品ロスの削減・有効活用

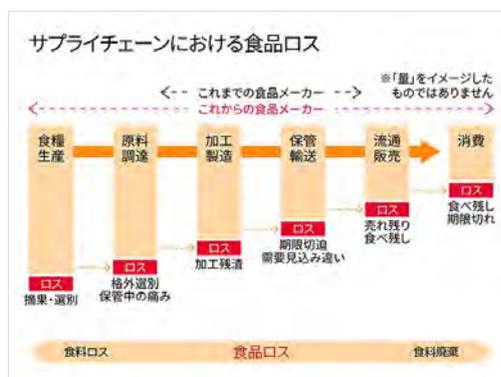
- 食品ロスの削減・有効活用の考え方 ●
- 食品ロス削減への対応 ●
- 商品廃棄の削減 ●
- 賞味期限延長と賞味期限「年月表示」への変更 ●
- 食品ロス削減のためのメニュー提案 ●
- 有効活用の推進 ●

食品ロスの削減・有効活用の考え方

限りある食資源を無駄なく有効活用することは、食品メーカーの重要な責任です。サプライチェーン全体で工夫を重ねて、食品の持続的な生産と多くの方の暮らしやすさを両立させていく必要があります。キューピーグループは、サステナビリティに向けた重点課題「資源の有効活用・循環」の取り組みテーマのひとつに食品ロスの削減・有効活用を掲げ、食品残さ削減、野菜未利用部の有効活用、商品廃棄の削減に注力して取り組んでいます。

食品ロス削減への対応

限りある食資源を利用する食品メーカーの重要な責任として、キューピーグループでは食品ロスを削減して、資源の有効活用に努めてきました。近年、気候変動により原料となる農産物等への収量や品質へ影響が生じるなど、食品ロス削減の重要性は一層高まっています。また、お客様をはじめとするステークホルダーからの食品ロス削減への関心も高まっており、その期待に応え続けたいと考えています。キューピーグループでは、サプライチェーンの各段階における食品ロス(図参照)への理解を進めています。グループ内での連携とステークホルダーとの協働により、さまざまな取り組みをサプライチェーンの各段階で展開し、食品ロス削減を実現していきます。



サプライチェーンの各段階で発生する食品ロス

商品廃棄の削減

商品廃棄の主な原因は、需要予測による生産と販売実績とのギャップや流通段階での売れ残りによる返品が生じることなどによります。各社各部門が連携するのはもちろんの事、フードバンクへの寄贈も積極的に行うことで課題解決に向け取り組んでいます。

食品ロス削減を目標に生産・販売・物流が連携したワーキンググループ

2015年より関係部署が集まり、月に1度のワーキンググループを開催しています。

ここでは「商品在庫」に着目し、製造から流通に至る過程でのさまざまな課題や解決策を話し合います。

この活動により、社内の食品ロス削減に対する意識も変化したことで、計画的な生産が実現し、商品在庫の適正化によって、廃棄削減につながっています。

お取引先と連携した返品削減の取り組み

関東地区の一部の販売店・卸店と連携し、売れ残りにより廃棄される商品の削減に取り組みました。各店舗の商品の販売傾向を見直して、商品の納入の最適化を図り、取り組みが難しいと言われていた返品ゼロを実現しました。

社内外の連携を進めて、サプライチェーン全体での商品廃棄の削減に取り組んでいきます。

賞味期限延長と賞味期限「年月表示」への変更

キューピーグループでは、製法や容器包装の改良による賞味期間延長と賞味期限の「年月表示」切り替えを通して、食品ロス削減に取り組んでいきます。

マヨネーズの賞味期間延長

マヨネーズを長期間保存した場合、酸素などの影響により品位が低下することがあります。

「キューピー マヨネーズ」は発売以来、酸素を通しにくい多層容器採用や、植物油中に溶け込んでいる酸素を限りなく取り除いた「おいしさロングラン製法」の導入、製造工程中の酸素レベルの低減など、製法・容器でさまざまな工夫をしてきました。また、「キューピーハーフ」では、配合の変更により品位を向上させることに成功しました。

これにより、「キューピー マヨネーズ(50g~450g)」
「キューピーハーフ」の賞味期間を、従来の10カ月から12カ月に延長※することができました。

※ 2016年1月より開始



パッケージサラダの消費期限延長

株式会社サラダクラブでは、「野菜本来の抵抗力を活かし、なるべくダメージを与えないように洗浄すること」と「10℃以下の低温流通管理(コールドチェーン)」を両立させ、パッケージサラダの鮮度を維持する技術の確立に取り組んできました。

「野菜にやさしい製法(特許4994524号)」取得後、約4年間の検証を重ね、野菜へのダメージを更に抑えながら洗浄する技術を確立しました。その結果、「千切りキャベツ」の消費期限を1日延長[※]することができ、加工日に加え5日間となりました。(沖縄県は除く)消費期限延長により、販売店では売れ残りによる廃棄ロスや売り切れによる販売機会ロスが低減できます。また、お客様にはまとめてご購入いただきやすくなりました。

※ 2019年4月より開始



介護食・素材パウチの賞味期限延長と「年月表示」への変更

介護食「やさしい献立」シリーズ47品(賞味期間18カ月または12カ月の商品)^{※1}と、サラダクラブ「素材パウチ」シリーズの一部^{※2}について賞味期間を延長しました。

また、この2シリーズにおいては、賞味期間延長に加えて、賞味期限を「年月日表示」から「年月表示」に変更しました。賞味期間延長と賞味期限の「年月表示」により、返品や食品ロス削減へつなげています。

※1 2018年9月より開始

※2 2019年3月より開始



食品ロス削減のためのメニュー提案

食品ロス削減に向けた取り組みを、お客様が毎日の食生活の中で実践する支援をしたいと考えています。

野菜の外葉や芯などは、捨ててしまいがちな部位ですが、少しの工夫でおいしい食材として活用することをおすすめしています。傷や外敵などから野菜を守ったり成長が盛んな部位にあたることで、他の部位とは違う栄養や機能に優れている場合もあります。

料理メニューを紹介する「とっておきレシピ」サイトで、2019年から東京家政大学の皆さんが考案してくれたメニューなどをご紹介します。

今後もさらにいくつかの野菜を紹介し、食材をよりよく活用する食生活の提案をしていきます。

使わないのはもったいない!
野菜の意外な食べ方



有効活用の推進

キユーピーグループは、さまざま取り組みにより食資源の有効活用に取り組んでいます。

野菜未利用部の有効活用

キユーピーグループでは、サラダ・惣菜の加工時に生じる野菜の芯やへた、外葉や皮などの未利用部の有効活用に取り組んでいます。

2017年度カット野菜工場の株式会社グリーンメッセージでは、これまで事業規模では難しいとされたキャベツ・レタスの葉物野菜の飼料化に成功しました。東京農工大学とキユーピーの共同研究※で、この飼料を与えた乳牛は乳量が増加することが報告されています。

また、株式会社サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場で発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥や飼料として契約農家などで活用いただいています。

加えて、通常処分していたキャベツの芯を使用し「キャベツライス」として商品化、こちらも「野菜廃棄物ゼロ化」につながっています。

※ 日本畜産学会第124回大会(2018年3月)発表

- ▶ 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 キユーピーグループが内閣総理大臣賞を受賞
- ▶ 第6回「食品産業もったいない大賞」キユーピーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞
- ▶ サラダクラブ サステナビリティ 



野菜の未利用部の有効活用(例:キャベツ)

卵の100%有効活用

キユーピーグループでは、マヨネーズ以外にもさまざまなタマゴ加工品を生産しており、日本で生産される卵の約10%を使用しています。

「キユーピー マヨネーズ」は、卵黄を使用し、卵白はかまぼこなどの水産練り製品や、ケーキなどの製菓の食品原料として使われます。

また、年間約2万8千トン発生する卵殻は土壌改良材やカルシウム強化食品の添加材などに有効活用しています。卵殻膜は、化粧品などへの高度利用に取り組んでいます。

- ▶ 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰キユーピーグループが農林水産大臣賞を受賞
- ▶ 第7回「食品産業もったいない大賞」キユーピーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞



卵の有効活用

卵殻は米も強くし、ヒトの骨をも強くする

東京農業大学 応用生物科学部 辻井良政教授、加藤拓准教授と共同で、卵殻の肥料としての価値を研究しています。現在までに、水田に卵殻を施肥することで、猛暑などの天候不順による水稲への影響を低減し収穫量を改善すること、米の品位が向上することが分かってきました。米の作付面積は日本の耕地面積の中で最も大きい^{*}ため、将来的には、キュービーグループだけでなく日本全体の卵殻の有効活用も期待できます。

また、ベトナムのハノイ国立栄養研究所との共同研究では、卵殻カルシウム(食用微細化卵殻粉、炭酸カルシウムを主成分とする生体素材)がヒトの骨量を増加させることを確認しました。卵殻は、高齢化で世界的に課題となる骨粗しょう症の解決に貢献できる素材です。現在ベトナムでは、卵殻カルシウムを配合した栄養強化食品の販売と合わせ、学校や病院への認知啓発と提案を進め、子どもの体格向上と高齢者の骨粗しょう症への課題解決に取り組んでいます。

※農林水産省 平成30年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率 参照

メッセージ

卵殻の可能性を明らかにすることが今後の課題です

卵殻の主成分であるカルシウムは、植物の細胞ひとつひとつを頑健にするだけでなく、細胞内でさまざまな生理活性をもつと考えられています。一方、気候変動が地球規模で生じるなか、人間にとっても大変な猛暑は、お米の収量を減らす原因のひとつです。我々は、卵殻のカルシウムが稲の夏バテを防ぎ、お米の収量を安定化させると考えており、そのメカニズムを明らかにすることが、今後の課題です。



東京農業大学 応用生物科学部
農芸化学科 土壌肥料学研究室
准教授 加藤 拓

卵殻膜の機能

キュービー独自の製法で卵殻と卵殻膜を分離することに成功しました。水に溶ける卵殻膜には、肌のハリの素となるⅢ型コラーゲンを増やす働きがあることがわかり、1991年から化粧品原料として活用しています。

卵殻と食酢から生まれたカルシウム肥料

キュービー醸造では、卵殻を食酢に溶かしたカルシウム肥料「葉活酢(ようかつす)」を開発・販売しています。定期的に葉の表面に散布すると、カルシウム欠乏症を防ぐ効果があり、野菜や果物、花など植物が元気に育ちます。

食品由来の成分なので、人や環境にやさしく、安心してお使いいただける商品です。

[> お酢と卵でできた葉活酢 キュービー醸造](#)

卵殻活用のあゆみ

- 1956年 卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始
- 1969年 卵殻の破碎・乾燥設備を導入(旧仙川工場)
- 1981年 卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現)
- 1991年 卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
- 2007年 卵殻を建築材や日用雑貨(壁紙、タイヤなど)の原料として発売
- 2012年 卵殻を肥料として生産した米に関する研究を開始
- 2017年 ベトナムにて栄養強化食品として卵殻カルシウムソースを発売
- 2019年 卵殻に関する取り組みが「3R推進功労者等表彰」農林水産大臣賞を受賞
- 2020年 卵殻に関する取り組みが「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞を受賞
- 2021年 「[卵の有効活用](#)」動画がサステナアワード2021にて「みどりの食料システム推進賞」を受賞



野菜の研究

野菜についての研究を紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献
 - 環境マネジメント >
 - 食品ロスの削減・有効活用 >
 - プラスチックの削減・再利用** >
 - 水資源の持続的利用 >
 - 気候変動への対応 >
 - 生物多様性の保全 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >

プラスチックの削減・再利用

- プラスチック削減・再利用の考え方 
- 容器包装選定の基本方針 
- 容器包装設計でのプラスチック削減 
- 製造・流通でのプラスチック削減 

プラスチック削減・再利用の考え方

キューピーグループは、食品の容器包装などにプラスチックを使用しています。プラスチックは、軽くて壊れにくいという利点がありますが、海洋プラスチックごみをはじめ、地球環境への影響が指摘されています。キューピーグループでは、プラスチックごみが生態系や環境に大きな影響を及ぼす重要な課題と認識し、石油由来プラスチック使用削減の取り組みを進めています。

今後推進していく主な取り組み

- ・商品の容器包装、工場で使用するプラスチックの更なる削減
- ・分別しやすい商品設計
- ・再生プラスチックおよびバイオマスプラスチックの積極的導入
- ・循環経済の実現をめざし、回収・再生に積極参加



マヨネーズ容器の軽量化



ドレッシング容器の軽量化



再生プラスチックを外装に使用



再生プラスチックを含む容器を採用

容器包装選定の基本方針

- ・食品の容器として適切であること
- ・環境汚染物質を発生させないこと
- ・省資源・省エネルギーに努め、多重包装はなくすこと
- ・リサイクルへの適正を向上させ、促進すること
- ・環境に配慮した包装技術の確立に努めること

容器包装設計でのプラスチック削減

商品の容器包装は、商品の品質やおいしさを保つためには欠かせないものですが、生産する際にエネルギーを消費し、使用後は廃棄物となります。

「容器包装選定の基本方針」のもと容器包装の軽量・簡素やバイオマス、再生材などの開発を進め、環境負荷が少ない包材の採用や推進しています。

容器包装の軽量化・簡略化

キューピー ドレッシング 380ml

ボトルの強度を落とさない工夫を施すことで、従来のボトルの形状イメージを損なうことなく軽量化を実現※しました。

これにより従来のボトルに比べプラスチック使用量を削減することができました。

※ 2019年4月より開始



キューピー ベビーおやつ

たまごたっぷりぼうろ

外装、内装でのプラスチック使用量を約25%削減※しました。

※ 2021年3月より開始



キューピー「すまいるカップ」シリーズ、

「やさしい献立」カップタイプ

上部に付いていた外蓋をなくすことで、使用するプラスチック量を10%削減※しました。

※ 2021年3月より開始



サラダクラブ パッケージサラダトレー

株式会社サラダクラブのパッケージサラダに使用するトレーを、従来品と比較して、約10%軽量化[※]し、年間約40tのプラスチック使用量削減を実現しました。

※ 2022年1月より開始



<軽量化したトレーを使用する商品(一部)>

サラダクラブ パッケージサラダフィルム

株式会社サラダクラブのパッケージサラダに使用するフィルムの寸法の縮小化や薄肉化などの規格変更[※]を行いました。これにより、年間約44.2tのプラスチック使用量削減を実現します。

※ 2022年2月より開始



<規格変更したフィルムを使用する商品(一部)>

環境負荷の少ない包材の採用

キューピー ドレッシング スティックタイプ

外装に再生プラスチック[※]を約15%使用しています。これにより、石油由来原料やCO₂排出量の削減に貢献することができます。

※主に清涼飲料水用のペットボトルを回収後に粉砕、洗浄した後、高温下で一定時間処理し、汚染物質を除去することで高品質にする方法「メカニカルリサイクル(物理的再生法)」で再生したプラスチック。

2020年2月より開始



キューピー テイスティドレッシング

再生プラスチック[※]を含む容器を使用することで、さらなる環境負荷低減に取り組みます。

※主に清涼飲料水用のペットボトルを回収後に粉砕、洗浄した後、高温下で一定時間処理し、汚染物質を除去することで高品質にする方法「メカニカルリサイクル(物理的再生法)」で再生したプラスチック。

2021年6月より開始



「サラダクラブ 素材パウチ」シリーズ

環境配慮への取り組みの一環として、植物由来のプラスチック※を一部に使ったパウチを、全19品のうち12品で採用しました。パウチの材質を変えることにより、年間で約18トンの温室効果ガスを削減しました。

※ 植物由来のプラスチック:再生可能な有機資源(サトウキビの副産物などの植物)を原料に使用したバイオマスプラスチック

2022年8月より開始



製造・流通でのプラスチック削減

キューピーグループでは、商品容器包装でのプラスチック排出削減以外にも、調達から製造、流通、消費に至るまでの各段階で排出されているプラスチックの排出削減に向けた取り組みを行っています。

商品流通容器のリサイクル

液卵用プラスチック容器

キューピータマゴでは、液卵などの卵製品を入れるプラスチック容器をリサイクルし、リサイクルした再生品を使用する取り組み※を行っています。今まで廃棄していたプラスチック容器がリサイクルされることで、廃プラスチックの削減につながっています。

※ 2020年より開始



左:リサイクル品 右:既存品

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献
 - 環境マネジメント >
 - 食品ロスの削減・有効活用 >
 - プラスチックの削減・再活用 >
 - 水資源の持続的利用 >**
 - 気候変動への対応 >
 - 生物多様性の保全 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >

水資源の持続的利用

- 水資源の持続的利用の考え方 ●
 - 水リスクの調査 ●
 - 水資源の効率的活用 ●
- 高度処理水の利用 ●

水資源の持続的利用の考え方

水は、人々の生活やさまざまな産業にとって欠くことのできない貴重な資源です。キューピーグループでは、商品の原料になる農作物や生産工程における洗浄・冷却などに多くの水を使っています。事業を継続するために、水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷の低減に取り組めます。

水リスクの調査

水リスクについて、事業運営への影響を確認するため、世界資源研究所(WRI)が提供している「AQUEDUCT」を用い、キューピーグループ全生産事業所の調査や現地へのヒアリングを進めています。

水資源の効率的活用

キューピーグループでは、製造方法の見直しや工程の改善を行い、効率的な水利用を促進し、水使用量の削減に取り組んでいます。2021年度のキューピーグループ工場の水使用量は、総量8,117千m³でした。生産数量1トン当たりの水使用量(原単位)は10.5m³となりました。



高度処理水の利用

新設事業所においては、人と環境にやさしい工場づくりの一環として、排水の高度処理システムを導入し、節水に取り組んでいます。

株式会社旬菜デリ 昭島事業所

旬菜デリ昭島事業所(東京昭島市)[※]では、生産ラインからの排水の再利用に向けて、膜処理(RO)技術を活用した設備を導入しています。一日平均160トンの純水を再生し、工場敷地に樹木や屋根への散水、空調設備の室外機の冷却、床の洗浄、トイレの洗浄水などに使用しています。

※ 2012年11月より開始



逆浸透膜(RO)ろ過装置

キューピータマゴ株式会社 飯能工場

キューピータマゴ飯能工場(埼玉県飯能市)[※]では、中空糸膜排水処理設備の処理水を活性炭やRO膜で浄化した後、中水として工場のトイレの洗浄水や冷凍機の室外機の冷却などに再利用しています。室外機の省エネ対策などに向けて、今後も再利用の範囲を広げていく予定です。

※ 2015年3月より開始



中空糸膜モジュール
ユニット



中空糸膜モジュール
ユニット(散気中)



活性炭塔



RO膜ユニット

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献
 - 環境マネジメント >
 - 食品ロスの削減・有効活用 >
 - プラスチックの削減・再利用 >
 - 水資源の持続的利用 >
 - 気候変動への対応 >**
 - 生物多様性の保全 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >

気候変動への対応

- 気候変動対応への考え方  TCFDへの取り組み  生産における取り組み 
- 物流における取り組み  オフィスにおける取り組み 

気候変動対応への考え方

気候変動の防止は人類共通の課題です。キューピーグループでは気候変動の原因となるCO₂排出量削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階において、省エネルギーやエネルギー転換など積極的に取り組んでいます。

サステナビリティにむけての重点課題「CO₂排出削減(気候変動への対応)」への取り組みでは、サステナビリティ目標に国内各部門からのCO₂排出量削減を設定して、気候変動の防止へさらに注力しています。

CO₂排出量の削減

気候変動の進行を受けて、CO₂排出削減目標を見直し、上方修正しました。

更なるCO₂排出削減のため、グループ全体で製造工程の効率改善、省エネ設備の導入など、従来の取り組みに加え、脱炭素社会に向けた製法・工程の変革、再生可能エネルギーの導入を検討しています。

物流では長距離トラック輸送から鉄道・船舶輸送へのモーダルシフト、異業種メーカーとの共同輸送を積極的に推進しています。

オフィスにおいてもAIなど新技術を活用したエネルギー使用の最適化に取り組んでいます。

また、サプライチェーン全体でのCO₂排出量の算定を進め、その削減を推進します。

> 重点課題と推進体制

再生可能エネルギーの活用

キューピーグループでは、国内外で再生可能エネルギーの導入を順次進めています。キューピー神戸工場の屋上に、太陽光パネルを設置し、2022年2月1日から運用を開始しています。神戸工場が太陽光発電のスペースを提供し、関西電力株式会社が設置と管理を行う「オンサイトPPAモデル」で運用し、同工場での総電力使用量の6.3%を発電することで、年間約170トンのCO₂排出量削減を見込んでいます。

今後もグループのオフィスや生産拠点における使用電力を積極的に再生可能エネルギーに転換していきます。

> CO₂排出量削減に向けた取り組み

キューピーグループにおける太陽光パネル設置状況(2022年5月現在) —

CO₂排出量



対象：国内グループ生産工場、オフィス
 ただし、排出量原単位は、国内グループ生産工場

設置開始時期	拠点名
2022年 2月	キューピー 神戸工場(オンサイトPPAモデル)
2021年12月	北京丘比
2021年12月	キューピーベトナム
2021年11月	旬菜デリ 青梅工場
2021年 2月	キューピータマゴ 飯能工場
2020年 4月	旬菜デリ 昭島工場
2018年 4月	キューピータイランド
2016年12月	キューピー 五霞工場
2016年 2月	サラダクラブ 遠州工場
2015年 9月	富士吉田キューピー※
2015年 1月	グリーンファクトリーセンター白河
2014年 4月	キューピー醸造 滋賀工場
2013年10月	仙川キューポート
2013年 4月	ケイパック 本社工場
2012年 3月	キューピー ファインケミカル本部五霞工場

※ 富士吉田キューピー:2021年に株式会社はくばくへ事業譲渡しました。その敷地内にキューピーが設置した太陽光パネルは、現在もキューピーが保有管理を継続しています。



キューピー神戸工場屋上に設置した太陽光パネル

TCFDへの取り組み

キューピーグループの事業は、自然の恵みに強く依存しているため、原材料の収量の減少や品質の低下など、気候変動によるさまざまな影響を受ける可能性があります。今後の気候変動に関連する事象を、経営リスクとして捉えて対応すると同時に、新たな機会も見いだし、企業戦略へ活かしていきます。

キューピーグループは、「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)
*1」へ賛同し、これに賛同する企業や金融機関等が連携する場としての、「TCFDコンソーシアム*2」に参画しました。



キューピーグループ内で「TCFDプロジェクト」を発足し、2021年からTCFDに取り組んでいます。

*1 G20からの要請を受け、金融安定理事会(FSB)が2015年に設立。気候変動によるリスク及び機会が経営に与える財務的影響を評価し、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標について開示することを推奨しています。

> [TCFD ウェブサイト](#)

*2 企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関等の適切な投資判断につなげる取り組みについて議論する場として、2019年に設立。TCFD提言に賛同する企業や金融機関等が取り組みを推進しています。

> [TCFD コンソーシアムウェブサイト](#)

[2021年度TCFD報告\(566KB\)](#)

ガバナンス

キューピーグループは、社会の持続可能性向上への貢献と企業の持続的な成長のために、「キューピーグループサステナビリティ基本方針」を定めています。気候変動対応を含めたサステナビリティ関連の重点課題については、サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会が目標達成に向けた方針・計画の策定を行うとともに、取り組みを推進しています。サステナビリティ委員会で検討した内容等は、経営会議(代表取締役社長執行役員の諮問機関)に加えて取締役会でも適宜審議または報告がなされるなど、取締役会による適切な監督体制を整えています。

キューピーグループの「めざす姿」、そして「キューピーグループ 2030ビジョン」を実現するためにも、さまざまなステークホルダーの皆様とともに社会課題の解決に協働して取り組んでいきます。

> [重点課題と推進体制](#)

会議体、他体制	役割、担当
取締役会	気候変動対応の監督
サステナビリティ委員会	気候変動対応を含めたサステナビリティ関連の方針・計画の策定、重要事項の決定、重点課題の取り組みの推進
担当役員	井上伸雄(取締役 常務執行役員、サステナビリティ担当)

> [コーポレート・ガバナンス](#)

戦略

キューピーグループでは気候変動にともなうさまざまなリスクと機会について、その重要性に応じて短期・中期・長期にわたっての特定を行い、また外部環境の変化も踏まえ、定期的に分析・評価の見直しを行っています。リスクと機会の特定においてはIPCC*1やIEA*2などが発表しているシナリオを用いて、2つのシナリオを描いております。1つ目のシナリオは2100年時点において産業革命以前より1.5~2°C気温上昇し、環境政策が進展するシナリオ(以下「環境政策 進展シナリオ」と表記)、2つ目のシナリオは2.7~4°C気温上昇し、気候変動に対し必要な施策や追加の対策が講じられない場合の成り行きシナリオ(以下「成り行きシナリオ」と表記)とし、2030年の事業におけるインパクトを算出しました。特定されたリスクと機会について対応策を検討し、単年度計画および中期経営計画に組み込み、推進します。

※1 IPCC

IPCCとは、気候変動に関する政府間パネル(Intergovernmental Panel on Climate Change)のことで、世界気象機関(WMO)及び国連環境計画(UNEP)により1988年に設立された政府間組織である。各国政府の気候変動に関する政策に必要な科学的情報を提供している。

※2 IEA

IEAとは、国際エネルギー機関(International Energy Agency)のことで、OECD(経済協力開発機構)の枠内における自律的な機関として第1次石油危機後の1974年に設立された組織である。エネルギー政策に必要な中長期の需給見通しなどの情報を提供している。

シナリオ分析の適用

2021年から2024年にわたる中期経営計画において、段階的に分析範囲を拡張していきます。2021年度は国内および海外市場におけるマヨネーズ、ドレッシング(特に深煎りごまドレッシング)に対する気候変動リスクと機会の分析を手掛けました。特に主原料の食油・卵・食酢において、穀物を主体とした農作物は気候変動が影響することを認識しました。これに対し、特定の農作物への依存度合いを中長期的に引き下げていく戦略を検討しています。

主な気候変動リスクと機会

<環境政策 進展シナリオ>

厳しい環境規制・高い炭素税が導入され、世界ではカーボンニュートラルが達成されます。農林水産部門ではCO2ゼロエミッション化を実現する一方で、サプライヤーの環境対応コストが高まります。健康意識が高い消費者が増加し、サラダなど野菜の摂取量が増加します。

環境政策 進展シナリオで特定したキユーピーグループのリスクと機会は以下のとおりです。

リスク項目			リスク	機会	時期※	インパクト
大分類	中分類	小分類				
移行リスク	政策・規制	炭素税の導入	●		中期	小
		プラスチック・包装材への規制	●		中期	小
		未利用資源の価値化		○	中期	小
	市場	サステナビリティ性が高い商品の需要増加		○	中期	小
		環境に配慮した原資材の調達コスト増加	●		中期	小

※ 時期の定義

短期：2024年まで 中期：2030年まで 長期：2050年までとしています。

<成り行きシナリオ>

低炭素化は進展するものの、2050年カーボンニュートラルは達成せず、気温が上昇する影響により、自然災害は激甚化・頻発化し、サプライヤー・自社の生産拠点で浸水被害発生頻度が上昇します。熱ストレスによる農作物の収量低下により、原材料調達コストが増加します。

成り行きシナリオで特定したキユーピーグループのリスクと機会は以下のとおりです。

リスク項目			リスク	機会	時期※	インパクト
大分類	中分類	小分類				
物理リスク	慢性	熱ストレスによる収量減少に伴う農作物の調達コストの増加	●		中期	中
	急性	洪水による生産設備の被災・停電、操業の停滞・停止	●		短~長期	中

※ 時期の定義

短期:2024年まで 中期:2030年まで 長期:2050年までとしています。

気候変動リスクと機会に対する対応策(●リスクに備えた対応 ○機会を活かした取り組み)

シナリオ分析により特定されたリスクと機会に対し、次のテーマを推進し、持続的成長に活かしていきます。

○環境政策の進展した市場への対応

- ・ 環境配慮型商品の需要増加への対応
- ・ 農作物(食油)などを使いこなす技術革新
- ・ 原料相場に強い体質への転換
- ・ 容器包装プラスチック軽量化
- ・ 再生プラスチックやバイオマスプラスチックの積極導入
- ・ 商品の使い方提案による環境負荷低減

○食品ロスの削減と有効活用

- ・ 野菜未利用部の有効活用(堆肥化・飼料化)

●CO₂排出量の削減

- ・ CO₂削減を指標とした設備投資(電化の推進、インターナルカーボンプライシングの導入)
- ・ 製造工程中の加熱や殺菌工程の見直し
- ・ 再生可能エネルギーの活用・導入
- ・ サプライヤーとの協働

●洪水への備え

- ・ 洪水リスク評価に応じ重点的な対策
- ・ 主力製品のBCP(被災時に備えた事業継続計画)

リスク管理

キユーピーグループの気候変動への対応について、ステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさから、重要度が高い課題と位置付けています。

> 重点課題と推進体制

キユーピーグループに影響を及ぼす気候変動リスクを特定し評価するために、組織横断的なTCFD対応プロジェクトを運営しています(サステナビリティ委員会での決議により設置。リーダー:経営推進本部長、事務局:サステナビリティ推進部、経営企画部、危機管理室)。TCFD対応プロジェクトで特定された気候変動リスクおよび対応策はサステナビリティ委員会にて承認され、進捗管理します。その内容は経営会議・取締役会へ報告します。

指標と目標

気候変動によるリスクと機会を測定・管理するために用いている指標は、以下のとおりです。

重点課題	取り組み テーマ	指標	2021 年度 実績	2021 年度 目標	2024 年度 目標	2030 年度 目標
気候変動への 対応	CO ₂ 排出量の 削減	CO ₂ 排出量削 減率(2013年 度比)	24.0%	7.5% 以上	30% 以上	50% 以上

排出量の計算においては「日本の環境省、地球温暖化対策の促進に関する法律の改定による、地球温暖化に対処する対策の促進に関する法律(2005年改訂)」を参照しています。

また関連する項目として、「資源の有効活用・循環」についてのリスクと機会を測定・管理するために用いている指標は、以下のとおりです。

重点課題	取り組み テーマ	指標	2021 年度 実績	2021 年度 目標	2024 年度 目標	2030 年度 目標
資源の有効活 用・循環	食品ロス削 減・有効活用	食品残さ削減 率	39.0%	—	50% 以上	65% 以上
		野菜未利用部 有効活用率 (主要野菜:キ ャベツなど)	62.1%	30% 以上	70% 以上	90% 以上
		商品廃棄量削 減率(2015年 度比)	61.3%	25% 以上	60% 以上	70% 以上
	プラスチック の削減・再利 用	プラスチック 排出量削減率 (2018年度比)	5.3%	—	8% 以上	30% 以上
	水資源の持続 的利用	水使用量(原単 位)削減率	2.1%	—	3% 以上	10% 以上

※2021年度の状況を鑑み、内容を一部見直ししています。

また、「食品残さ削減率」の指標には「野菜未利用部有効活用率」も含まれています。

なおこれら重点課題の特定は、バリューチェーンにおけるリスクと機会の分析に加え、社会変化にともなうリスクと機会を分析し、「持続可能な開発目標(SDGs)」を参考にキューピーグループが事業を通じて取り組むべき社会課題を抽出しています。次に、社会課題ごとに、ステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさを評価し、「サステナビリティに向けての重点課題」としました。重要性の評価においては、サステナビリティの国際基準GRI、ISO26000、SASBおよび各種ESG評価などを参考に、「キューピーグループ2030ビジョン」の考えを反映しています。

サステナビリティ目標は、それぞれ「サステナビリティに向けての重点課題」とひも付いており、キューピーグループとして取り組む内容を指標化したものです。2019年に発表したサステナビリティ目標を、社会情勢を考慮して見直しを行いました。具体的には、気候危機緩和への貢献と適応策の実施により、製造拠点の再編、製造工程の見直し、再生可能エネルギーの計画策定を進めることにより「CO₂排出量削減率」の目標を上方修正しました。また「野菜未利用部有効活用率」「商品廃棄量削減率」の目標においても上方修正しました。

Scope1、Scope2及びScope3の温室効果ガス(GHG)排出量は以下のとおりです。

Scope3の温室効果ガス(GHG)排出量については、キューピー株式会社単体のデータであり、今後グループでの把握を行っていきます。

また、取締役の報酬においては、中期経営計画の重要指標(サステナビリティ目標、従業員に対する目標を含む)および各人ごとのミッションの達成度に応じて変動させていきます。

生産における取り組み

生産部門のCO₂排出削減

キューピーグループでは、製造工程での効率改善、設備の導入などによる省エネルギーを基本として、A重油から都市ガス・天然ガスへの燃料転換、コジェネレーション(熱電併給)や太陽光発電の利用を進めています。また、グループ事業所での優れた取り組み事例を共有・展開することによってCO₂排出削減に努めています。

生産部門の省エネルギーの推進

キューピーグループでは、生産事業所の各工程にエネルギー測定装置を設置するなど「エネルギー使用の見え方」を進め、設備運用改善・メンテナンスの徹底、省エネ型機器を導入し省エネルギー化を推進しています。

生産部門の省エネルギー削減目標

エネルギー使用量 前年対比1%以上の削減

2021年度のキューピーグループ生産工場のエネルギー使用量は熱量換算3,365千GJで前年度より1.8%減少しました。生産数量1トン当たりのエネルギー使用量(原単位)は熱量換算で4.37GJとなり、前年度より1.8%減少しました。

使用量・原単位の減少の主な原因は調味料事業の工場再編による効率生産とタマゴ事業の事業再編による効率生産および各事業での計画的な省エネ型の設備更新によりです。



対象: キューピーグループ生産工場

自然冷媒冷凍機の活用

キューピーグループでは、省エネ設備の導入と設備の運用最適化に取り組んでいます。冷凍機更新において、自然冷媒機を導入することにより、CO₂削減と脱フロンを実現しています。

キューピー中河原工場(東京都府中市)では、冷凍機の設備更新にあたり自然冷媒機を2018年に導入し、CO₂削減に努めています。



アンモニア冷凍機

物流における取り組み

キューピーグループでは、お取引先やグループ会社と連携し、原料輸送から商品配送にいたるまで、すべての輸配送で環境負荷低減に取り組んでいます。

輸配送距離の短縮化と積載効率向上による輸配送効率化、低燃費で安全にもつながるエコドライブなどを実施しています。加えて、長距離トラック輸送の鉄道や船舶への切替(モーダルシフト)を推進して、CO₂排出削減を実現しています。

キューピー商品の輸配送によるCO₂排出量は、2021年度22.0千トンで前年比0.1%増となりました。

輸配送によるCO₂排出量

		2020年度	2011年度	前年度比
キューピー 販賣商品	輸配送量(千トンキロ)	138,443	136,590	-1.3%
	CO ₂ 排出量(トン)	22,010	22,026	+0.1%

モーダルシフトの推進

専用31フィートコンテナ10基(うち冷凍コンテナ4基)を導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフト^{※1}を推進しています。

キューピーは、商品を輸送する時に貨物鉄道を一定割合以上利用している企業として、2019年7月に「エコレールマーク」認定をされました。

モーダルシフト化率^{※2}は、2021年度31%と前年比減となっています。

※1 モーダルシフト:500km以上の長距離トラック輸送を鉄道・船舶でのコンテナ輸送へ転換すること

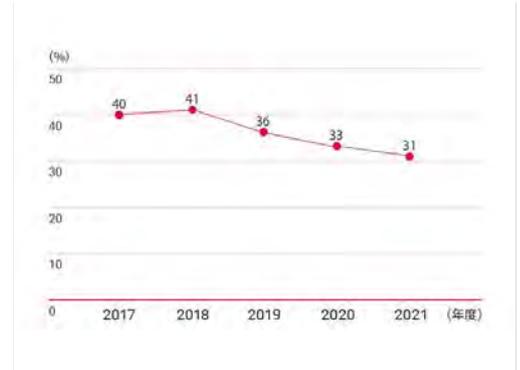
※2 モーダルシフト化率:500km以上の輸送トン数に対し、鉄道や船舶による輸送トン数の比率



＜国土交通省「エコレールマーク」のご案内＞



鉄道・船舶積載用31フィートコンテナを10基導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフトを進めています



モーダルシフト化率の推移

異業種での共同輸送の取り組み

キューピーは、2018年からトイレタリー業界のライオン株式会社、レンタルパレット業界の日本パレットレンタル株式会社と一緒に共同輸送を実施しています。3社の荷物を載せることで、トラックが空での移動を1%未満に抑えることができました。

加えて、一部区間をトラックから船に切り替えるモーダルシフトを行うことでさらにCO₂削減の効果を高めています。この取り組みは外部から高く評価され、平成30年度グリーン物流パートナーシップ会議優良事業者表彰において「国土交通大臣表彰」をいただいています。

＜平成30年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰を共同受賞＞

オフィスにおける取り組み

2022年2月よりグループ3拠点(グリーンファクトリーセンター白河・富士吉田キューピー^{※1}・サラダクラブ 遠州工場)の太陽光パネルで発電された環境価値(トラッキング付FIT非化石証書^{※2})付きの電力を、東京電力エナジーパートナー株式会社を通して日本卸電力取引所から調達し、渋谷本社と仙川キューポートの使用電力へと振り替え実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替えました。この取り組みにより、年間約1,600トンのCO₂排出量が削減できる見通しです。

※1 2021年に株式会社はくばくへ事業譲渡しました。その敷地内にキューピーが設置した太陽光パネルは、現在もキューピーが保有管理を継続しています。

※2 非化石電源により発電された電気が持つ「非化石電源由来であること」の価値を証書化したものです。小売電気事業者が非化石価値取引市場で調達して、需要家に販売する電気に活用することで温室効果ガス排出量の削減が認められています。

＜CO₂排出量削減に向けた取り組み＞

渋谷オフィスでの取り組み

キューピーグループの渋谷オフィス(渋谷董友ビル)は、ビル全体を2重のガラスが覆い(ダブルスキン)、ガラス間を自然換気することで高い断熱性を実現しています。また、高効率空調機やLED照明といった省エネ設備も導入しています。

これらの環境設計により、建築総合環境評価システム「CASBEE」の総合評価Aランクに認定されています。また、グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業^{*}に採用されています。



2重ガラスが覆う(ダブルスキン)外観

^{*}グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業:環境省が公募した、地球温暖化対策のための設備投資の事業に係る融資に対する利子の一部を補給する対象となる事業。

仙川キューポートでの取り組み

仙川キューポートでは、吹き抜けを活用した自然換気システム、コージェネレーションシステム、太陽光発電、LED照明などを導入しています。省エネ設計性能を最大化するため、設備メーカーとの連携を深めるとともに、仙川キューポートに勤務する多くの社員に聞き取りなどを行うことで、運用精度の向上を図っています。

さらに、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社との協働により、クラウドサーバー上のAIを利用して、気象予報データと空調器(冷凍機、ヒートポンプ、ガスボイラー、コージェネレーション発電)の稼働状況などに基づく最適化運転パターン分析を実現、運用を検証しました。

導入前に比べ、空調機器のエネルギー使用量(原油換算)を夏季・冬季で約15%、中間期(春季)で約20%削減しました。

運転の自動化に向けて、さらなる取り組みを進めています。



自然換気システム

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献
 - 環境マネジメント >
 - 食品ロスの削減・有効活用 >
 - プラスチックの削減・再利用率 >
 - 水資源の持続的利用 >
 - 気候変動への対応 >
 - 生物多様性の保全 >
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >

生物多様性の保全

- 生物多様性保全の考え方 ● 調達における生物多様性保全への配慮 ●
- キューピーグループの環境保全活動 ●

生物多様性保全の考え方

キューピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っています。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努め、持続可能な社会を次世代につないでいきます。

調達における生物多様性保全への配慮

「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を2018年に策定し、環境や人権に配慮した調達を推進しています。

パーム油

2018年にRSPO[※]へ加盟し持続可能なパーム油の調達に取り組んでいます。
 ※RSPO:持続可能なパーム油のための円卓会議

紙

段ボール・紙器メーカーとの協働で、適切に管理された森林木材を使用したFSC認証材の導入を進めています。

[> 持続可能な調達の推進](#)

「自然環境の保全の考え方」のもと、キューピーグループでは長年に渡り環境保全活動を行ってきました。2007年9月から2020年3月までは、やまなし森づくりコミッションに参画し、山梨県富士吉田市の富士北麓にある森林「キューピーの森」で、水源涵養を目的とした森林保全活動を行いました。

従業員とその家族から参加者を募り、地元のNPO法人の方々と間伐・植樹活動を中心に、周辺環境が抱える諸問題について学ぶ講座も開設し、活動を通じて自然環境や生物多様性の理解を深めるきっかけとなりました。

また、2014年から2019年まで、ラムサール条約に登録され国内3番目の面積をもつ霧多布湿原において、湿原を中心とした保全活動を行うとともに認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの活動を資金面で支援してきました。

今後は、キューピーグループの事業活動が自然環境に与える影響を把握し、活動を見直し、持続可能な社会を次世代に繋げる、よりよい活動をめざします。



環境講座の様子



木道整備の様子

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達
- 持続可能な調達の推進 >
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

持続可能な調達

「良い商品は良い原料からしか生まれません」という原料に対する強いこだわりを持っています。大切な原材料は、今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。サプライチェーン上における社会的配慮を行う持続可能な調達が必要と考え、持続可能な調達のための基本方針を定めています。私たちは製造・販売プロセスだけでなく、商品を作るための原材料の調達プロセスにおいても社会的責任を果たしていきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
持続可能な調達	持続可能な調達の推進	お取引先との協働によって「持続可能な調達のための基本方針」を推進	



● 持続可能な調達の推進

持続可能な調達のための基本方針とお取引先との協働による取り組みを示します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達
- 持続可能な調達の推進 >
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

持続可能な調達の推進

- 持続可能な調達のための基本方針  キユーピーグループのサプライヤーガイドライン 
- 鶏卵の調達に関する考え方と取り組み  持続可能な野菜の調達 
- 持続可能なパーム油の調達  持続可能な紙の調達  アヲハタによる果実生産者との取り組み 

持続可能な調達のための基本方針

「良い商品は、良い原料からしか生まれたい」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけでなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。このことをお取引先と一緒に取り組むことが、持続可能性を高め、良い原料を調達できることにつながると考えます。

- 1 法令を遵守し、国際的なルール・慣行にも配慮した取引を行うとともに、腐敗行為の防止を徹底する。
- 2 公正で誠実な取引を行うとともに、機密情報や知的財産を適切に管理する。
- 3 人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない。
- 4 従業員の労働者としての権利を尊重し、適切な労働慣行と安全で衛生的な職場環境を確保する。
- 5 地域と地球環境の汚染と破壊を防止するため、資源の持続可能な利用に努める。
- 6 安全で高品質な原料を持続的に利用できるように、生態系への影響も考慮した管理を行う。
- 7 原料を生産する地域社会が持続可能になるよう、積極的に貢献する。
- 8 上記に関して、自社のお取引先にも同様の配慮をお願いする。
- 9 上記に関して、適時・適切な情報開示を行う。

キユーピーグループのサプライヤーガイドライン

「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」の実現に向けて、キユーピーグループの調達先である大切なお取引先(お取引先を含めたサプライヤー全体を指します)へお願いすることとして「キユーピーグループのサプライヤーガイドライン」を定めます。本ガイドラインをもって相互理解のもと、サプライチェーンにおけるさまざまな課題解決を行い、持続可能な調達およびお取引先との共存共栄をめざします。

鶏卵の調達に関する考え方と取り組み

基本的な考え方

キューピーグループは、品質や環境に及ぼす影響や人権への配慮とともに、採卵鶏のアニマルウェルフェアを持続可能な鶏卵の生産や調達における重要課題と認識しています。

キューピーグループは、国際獣疫事務局 (OIE) が示したアニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」[※]に賛同し、その原則に沿った採卵鶏の飼養が重要であると考えます。また、鶏卵をビジネスの源として利用しているからこそ、採卵鶏の命の尊厳についても適切な配慮をするべきであると考えます。

※アニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」

- ・ 飢え、渇き及び栄養不良からの自由
- ・ 恐怖及び苦悩からの自由
- ・ 物理的、熱の不快感からの自由
- ・ 苦痛、傷害及び疾病からの自由
- ・ 正常な行動様式を発現する自由

取り組みについて

日本国内でキューピーグループが使用する鶏卵は、農林水産省が普及に努める『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』^{※1}に即して飼養された鶏卵の調達を行っています。

また、ケージフリー飼養^{※2}による鶏卵を活用した商品開発にも取り組んでおり、お客様のニーズや価格受容性を把握しながら進めていく考えです。

今後、日本における持続可能な採卵鶏の飼養管理のあり方を行政や養鶏に関わるサプライチェーンのパートナーなど関係者と議論していくとともに連携して、キューピーグループにおけるアニマルウェルフェア向上への取り組みをさらに進めていきます。

なお、海外においては、各国・地域の基準や社会環境に即して飼養された鶏卵の調達を行っています。^{※3}

※1 公益社団法人 畜産技術協会による『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』第5版(令和2年3月)

※2 いわゆる平飼いなどの飼養方法

なお、前出の『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』では、アニマルウェルフェアへの対応において、最も重視されるべきは、施設の構造や設備の状況ではなく、日々の家畜の観察や記録、家畜の丁寧な取り扱い、良質な飼料や水の給与等の適正な飼養管理により、家畜が健康であることであり、そのことを関係者が十分認識して、その推進を図っていく必要がある、とされています。

※3 米国内での事業における鶏卵調達の取り組みは、以下のリンクをご参照下さい。

[> 米国での鶏卵調達の取り組み](#) 

持続可能な野菜の調達

キューピーグループでは、主に国産野菜を原料としてサラダ・惣菜を提供しています。そのため野菜の原料調達は事業継続において重要と認識しています。持続可能なキューピーグループの野菜調達と調達先の持続的成長・発展をめざすために生産者の皆様とコミュニケーションを図りながら進めていきます。

取り組みについて

循環型農業の構築

サラダクラブでは、パッケージサラダを製造する際に直営7工場が発生する野菜の外葉や芯などの未利用部を堆肥や飼料として契約農家などで活用いただく取り組みを行っています。

契約農家にとっても、安価な国産堆肥が手に入るとともに、有機堆肥の使用は地球環境負荷を最低限にできるメリットもあります。野菜未利用部で作られた堆肥を使って野菜を栽培し、商品を製造することで資源を無駄にしない循環プロセスを構築することができました。

今後も循環型農業の構築に向けて、全直営工場の野菜廃棄物ゼロ化の達成をめざしていきます。



契約産地での堆肥散布の様子

サラダクラブによる産地表彰式

サラダクラブで取り扱う野菜は、生産者との顔が見える関係を基本に、全国約400の契約産地との「契約取引」で調達しています。「契約取引」は、一定価格で安定した原料調達が行えるだけでなく、生産者にとっては、安定的な収入を基盤に戦略的投資が行えるというメリットがあります。

安全・安心な原料の調達の一環として、圃場に工場メンバーや原資材メンバーが定期的に訪問しています。また生産者には工場見学への参加、他には収穫応援や工場研修、バーベキューの開催など積極的に産地農家との交流を図っています。

毎年4月には、生産者の皆さまに感謝の想いを伝えることを目的に「Grower of Salad Club（グロワー・オブ・サラダクラブ）」として契約産地を表彰しています。主要原料を対象に品位の評価を行い、契約産地の中から「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」として表彰しています。

一方で生産者をパートナーとして循環型農業の構築も行っています。パッケージサラダの製造過程で発生する野菜未利用部を工場内で飼料や肥料にし、肥料は農産地で使用してもらうなど、つながりを広げています。



持続可能なパーム油の調達

パーム油は熱帯地域で栽培されるアブラヤシから得られる植物油ですが、その農場を開発するための熱帯林の大規模な伐採や、農場労働者の人権などで課題があることが指摘されています。

こうした問題がある原料を使わないようにするために、また課題の解決に貢献するために、キユーピーグループは、2018年1月に策定した「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」に基づき、2018年7月、RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟し、今後、弊社グループの持続可能なパーム油の調達に取り組んでいきます。

取り組みについて

2019年にキユーピーグループで調達するパーム油についてRSPOのブックアンドクレーム方式^{※1}による認証クレジットの購入を開始しました。2021年までにキユーピーグループで調達するすべてのパーム油について認証クレジットの購入を完了させるという目標に対して、ほぼ完了しました。2022年においてブックアンドクレーム方式とマスバランス方式^{※2}での認証油の調達に向けて取り組んでいます。

※1 ブックアンドクレーム方式

RSPOにより認証された生産者が生産した認証油に、認証クレジット(証券)を発行。
その認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組み。

※2 マスバランス方式

認証パーム油が製造・流通過程で他の非認証パーム油と混合される認証モデル。
物理的には非認証油も含んでいるが、認証農園から供給された認証パーム油の量は保証される。

▶ ESGデータ集

持続可能な紙の調達

原料調達過程で新規の森林破壊に関与せず、原木生産地の法令および国際的な人権基準を守り、適切な手続きによって生産された事業者より紙・紙製品を調達することに取り組めます。

そのため、森林認証紙(FSC[®]認証[※]等)を基本に、再生紙、また取引先によって新規の森林破壊や人権侵害への関与がない原材料から作られていることを確認した紙・紙製品の調達をめざします。

※ 責任ある管理をされた森林と、限りある森林資源を将来にわたって使い続けられるよう適切に調達された林産物に対する国際森林認証制度。

取り組みについて

FSC認証紙の使用

ベビーフードの『にこにこボックス』シリーズは、2019年3月よりFSC®認証紙の使用を開始しました。さらに箱の設計を変更し、トレーやパレットになる新たな機能※を付けることで、食育の1つである楽しい食体験の提供と同時に紙の大切さをお伝えしています(FSC® N002978)。

※トレー:片手で2カップを安定して持てる、パレット:パッケージの動物をバクバクさせ、赤ちゃんに噛むことを促すことができます。



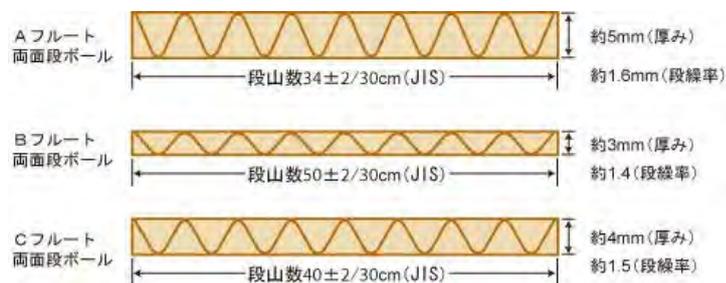
外箱をトレーとして使用



外箱をパレットとして使用

段ボール構造の工夫

段ボール構造を工夫し強度を維持しながら薄くすることで紙使用量の削減を進めています。



パレット積付け方式の工夫

主力のマヨネーズ商品において、輸送時のパレット積付け方式の変更を行いました。段ボールの特性を活かした積付け方式を採用することで材質低減を進め、古紙材料削減による環境負荷低減を実現しました。これにより段ボールの使用量を年間約590トン削減しました。



カートン形状の工夫

アヲハタでは、55ジャムUD150シリーズ・カロリーーフシリーズに「シェルフレディーパッケージ」を採用しました。

店頭でのカートン開封や陳列作業の省力化・時間短縮に加え、カートン形状の工夫によって使用材料削減による環境負荷低減を実現しました。

改良前と改良後の比較

カートン削減量 約56トン／年

CO₂削減量 約34トン／年

パッケージの省資源の取り組み

「アヲハタ 5 5 ジャム」(小容量)カートン※

カートンのフラップ寸法の変更を実施しました。結果、年間約14トンの省資源となり、段ボールメーカーの二酸化炭素排出量を11トン-CO₂／年削減しました。

※ 2015年から開始



同時に、簡単に開封・陳列できる「パカッとカートン」を採用し、店頭での作業改善を行いました。



アヲハタによる果実生産者との取り組み

キューピーグループで使用する果実の原料産地は、時代とともに世界各地に広がっています。

「農産加工品の美味しさは、その原料によって7割が決まる」という考え方に基づき、生産者との信頼関係構築と、栽培技術の研究を進めながら高品質原料の安定確保に努めています。

> [アヲハタ 社会・環境への取り組み](#) 

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
 マネジメント +

食と健康への貢献 +

地球環境への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重

人権尊重への取り組み >

多様な人材の活躍 >

健康経営・労働安全衛生 >

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
 オフィシャルブログ >

グループ各社の
 サステナビリティ活動 >

人権の尊重

私たちは、「楽業偕悦」の実践のために、キューピーグループに関わるすべての人の人権を尊重します。持続的成長を実現する体質への転換に向け、新たな事業の枠組みに合わせたグループ人材の流動化の促進や、学びの場の拡大、キャリア意識の醸成などを通して、一人ひとりの経験やスキルの向上を図り多様な人材が活躍できる仕組みづくりを進めていきます。また、それぞれの視点やノウハウを活かすことで、社会環境の変化やリスクへの対応力を高めるとともに、従業員が健康でやりがいを持って働けるよう、キューピーグループの総合力強化に取り組んでいきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2030年度目標
人権の尊重	人権の尊重	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために「キューピーグループ人権方針」を推進	



人権尊重への取り組み
 国際社会の一員として、差別やハラスメント行為を決して行わず人権を尊重しています。



多様な人材の活躍
 多様な人材が、やりがいや誇りを持って活躍することを大切に、ダイバーシティの推進をはじめとした取り組みを行っています。



健康経営・労働安全衛生
 キューピーグループで働く一人ひとりの健康と安全のため、さまざまな取り組みを推進しています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重
 - 人権尊重への取り組み >
 - 多様な人材の活躍 >
 - 健康経営・労働安全衛生 >
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

人権尊重への取り組み

- キューピーグループ 人権方針 
- 人権マネジメント体制 
- 人権デューデリジェンスプロセスの実行 
- 従業員への取り組み 
- サプライヤーへの取り組み 

キューピーグループ 人権方針

私たちは、事業活動のすべての過程で、直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、ビジネスに関わる全ての人の人権を尊重するために、「キューピーグループ人権方針」を定めます。

社である「**楽業倍悦**」の実践には、人権の尊重が不可欠です。キューピーグループで働く役員および従業員は、人権への負の影響を引き起こすことがないように、または間接的に加担することがないように責任を持って行動し、それぞれが働きがいを持って安心して働けるよう努めます。そして、サプライヤーなどビジネスパートナーに対しても本方針の遵守を期待し、働きかけます。

 [キューピーグループ人権方針 \(361KB\)](#)

人権マネジメント体制

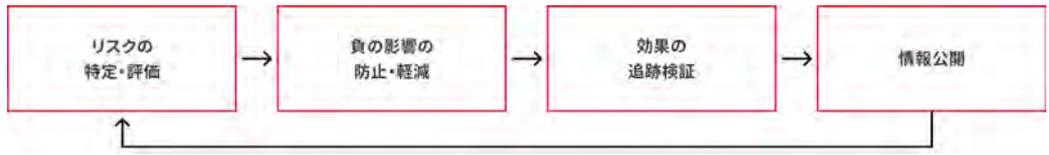
キューピーグループ全体に関わる幅広い人権課題に向き合うために、内部統制システムの中に違反行為の発見と是正のための通報・相談窓口「ヘルプライン」を設置しています。違反行為があれば担当部門との協議の上、再発防止策を実施します。また人権配慮の考え方にに基づき、さまざまなハラスメントに対する従業員の啓発活動や、ハラスメントの予防を目的とした管理職向け研修を実施しています。

キューピーグループのバリューチェーンに関わる幅広い人権リスクに向き合うために、サステナビリティ重点課題に「人権の尊重」を掲げ、取り組んでいます。

抽出された人権リスクについては、サステナビリティ委員会にてまた内部統制システムの中に違反行為の発見と是正のための通報・相談窓口「ヘルプライン」を設置しています。違反行為があれば担当部門との協議の上、再発防止策を実施します。

人権デューデリジェンスプロセスの実行

キューピーグループのバリューチェーンに関わる幅広い人権リスクに向き合うための実行プロセスとして、人権デューデリジェンスの枠組みに沿って取り組んでいます。



特定された人権リスクのうち、対象をグループ従業員やサプライヤーにおけるものを項目として、それぞれの是正に向けて取り組むこととしました。

2021年は、人権に関する国際規格や国際基準からキューピーグループのバリューチェーンに関わる人権リスクとして、下記のリスクを抽出しました。

- ・ ハラスメント
- ・ 差別対応
- ・ 差別的表現
- ・ 労働安全衛生
- ・ 強制労働
- ・ 児童労働
- ・ 労働時間
- ・ 結社の自由
- ・ 賃金の不足・未払い
- ・ 教育・研修の不足
- ・ プライバシーの権利
- ・ 居住移転の自由
- ・ 表現の自由
- ・ 先住民・地域住民の権利
- ・ 知的財産権
- ・ 消費者の安全と知る権利
- ・ 贈賄・腐敗
- ・ サプライヤー管理の不徹底

従業員への取り組み

さまざまな国籍の方が働いている環境であることから、従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行わない職場環境の実現をめざしています。コンプライアンスに対する理解・意識状況の把握、働くことへの満足度および企業の社会的責任に関する考えの確認を目的とした全従業員を対象の「従業員意識調査」を2年毎に実施しています。アンケート結果を従業員にフィードバックするとともに、人権侵害の有無やコンプライアンスを浸透・徹底させる上での課題を把握し、従業員の啓発活動や研修等に反映させています。

ヘルプラインの運用

- ・ 2021年度のヘルプラインへの通報・相談件数は20件でした。
- ・ 内容はハラスメントに関わる通報・相談が多く、他には職場の対応不備等に関するものがありました。不正に関するものはありませんでした。
- ・ 対応は、事実関係の調査を行い、違反行為があれば処分を行うとともに、再発防止策を担当部門と協議し、実施します。違反行為とは認められないものの、言動や対応に不適切な部分があると判断される場合は、注意指導等により是正をはかり、職場の環境改善につなげます。
- ・ 通報者保護の観点では、通報者に対する詮索・追及・報復を禁止しています。通報者に一定期間後に報復確認を行ない、不利益が発生していないか確認し、適切な運用を進めています。

> ESGデータ集

サプライヤーへの取り組み

キューピーグループは「良い商品は、良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、サプライチェーンでの環境や人権に配慮する必要があるとし、このことをお取引先と一緒に取り組むとしています。

2018年1月に策定した「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」に基づいた調達を行っています。2022年4月にお取引先へのガイドラインとして、「キューピーグループのサプライヤーガイドライン」を策定しました。今後はサプライヤーへのアンケート実施、引き続きのコミュニケーションを通じて、サプライチェーンでの人権リスク低減に努めます。

▶ [持続可能な調達の推進](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティ マネジメント	+
食と健康への貢献	+
地球環境への貢献	+
持続可能な調達	+
人権の尊重	
人権尊重への取り組み	>
多様な人材の活躍	>
健康経営・労働安全衛生	>
ガバナンス	+
安全・安心	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
ESGデータ集	>
各種方針	>
社会・環境活動の歴史	>
キユーピーグループ オフィシャルブログ	>
グループ各社の サステナビリティ活動	>

多様な人材の活躍

ダイバーシティ&インクルージョンへの取り組み  人材育成への取り組み 

フレキシブルな働き方への取り組み 

ダイバーシティ&インクルージョンへの取り組み

キユーピーグループにおけるダイバーシティ&インクルージョンの考え方

キユーピーグループでは、ダイバーシティ&インクルージョンを「成長戦略の土台」と位置付け、すべての従業員が多様な価値観を持つダイバーシティの担い手であることを前提に、属性の多様性とキャリアやスキルの多様性の双方を生かすことで、グループ全体の成長と、社会に対する価値の創出と貢献をめざしています。会社や従業員同士の対話や理解を大切にするとともに、ダイバーシティ&インクルージョンの理解につながる機会づくり、多様な従業員の活躍につながる場づくり、成長実感を持てるキャリアや学びへの仕組みづくりなどを通して、世界で働く従業員一人ひとりの個性や成長する意欲と、個々の能力を最大限に発揮できる企業風土づくりに取り組んでいます。

新たな価値を創出する企業風土の醸成

従業員一人ひとりのさまざまな視点・能力・スキルが新たな価値を生み、グループ全体の総合力向上につながるよう、ダイバーシティ推進の理解を図るとともに、多様性を発揮できる仕組みづくりや、グループ人材の流動化に取り組んでいます。またキユーピー単体を対象に2017年からダイバーシティ・アンケートを実施し、従業員のダイバーシティに対する理解度や意識を確認し、施策の検討や効果検証に生かしています。さまざまな取り組みを通じ、心理的安全性が高く、目標に向かってチャレンジできる企業風土づくりに努めています。

ダイバーシティ・セミナーや勉強会の実施

グループ従業員が参加できるダイバーシティ・セミナーや、部署や組織毎に開催するダイバーシティ勉強会を実施しています。ダイバーシティ推進の方向性や目的を共有することで、従業員の意識を合わせ、推進の加速化を図っています。

多様な人材層が重要な意思決定の場に参画

重要会議に参加するメンバーの20%以上を多様な人材(年代・性別・スキル・キャリア)から構成し、これまでと異なる視点から意見を引き出し、議論の活性化を図る取り組み「KEEP20」を展開しています。従来の参加メンバーにとっては新たな気づきが得られ、多様な参加メンバーにとっては、経営情報や事業判断に触れる学びの機会となっています。2021年は14の重要会議において実施しました。

多様なメンバーと経営層による意見交換を実施

業務や組織の枠を超えた多様なメンバーが、目的やテーマを共有して会話をする意見交換会を「シャッフル・ミーティング」として実施しています。取り組みは、2020年からスタートし、これまでに、グループの500名以上が参加しました。日頃、それぞれの場所でグループの業務に尽力する多様な仲間が、経営層も交えてオンラインで集い、異なる視点での意見を伝え合い、認め合い、考えることで、改めて自らと組織の成長への意識を高めるとともに、従業員同士のネットワークを構築する場となっています。

グループ従業員一人ひとりの能力の発揮のために

女性従業員の活躍に向けて

2021年度のグループ女性管理職比率は9%、キュービー単体での女性管理職比率は11%です。グループの約半数を占める女性従業員が十分に活躍できるよう、女性総合職の育成や、転居を伴う異動のない総合職制度の導入、地域職から総合職への転換などを進めています。人事制度や労務制度に加えて、マネジメントや風土もあわせて変えていくことで、意欲ある女性従業員が働き続けられる会社をめざしています。

人材活躍の重要指数	2021年度 実績	2024年度 目標	2030年 目標
女性管理職比率 (キュービー単体)	11%	18%	30%

グループ女性管理職勉強会の開催

グループの女性管理職自身が事務局を務め、経営層や外部識者による講義や必要な知識を学ぶ勉強会を開催しています。それぞれが管理職としてのありたい姿やステップ、自分なりのマネジメントを描き、行動することをめざしています。また、メンバー同士がディスカッションを重ねることで、グループにおける女性管理職のつながりも生まれています。



障がい者雇用への考え方

キュービーグループでは、障がいのあるなしに関わらず、一人ひとりの能力や個性を大切に、働く喜びや生きがいを実感できる環境づくりをめざしています。

こうした考えのもと、障がい者雇用においてはグループ適用を行わず、キュービー単体、キュービーあい(特例子会社)を含むグループ各社それぞれが各地域で雇用を行うことで、地域社会での多様な雇用創出につなげていきます。

障がい者雇用率の推移(2021年12月1日現在)

2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
3.30%	3.54%	3.60%	3.67%	3.76%

グループ会社における取り組み

キューピーあい(特例子会社)では、館内物流をはじめ、清掃業務や販促物の作成・発送など多岐にわたる業務を担っており、障がい者雇用率は3.38%(キューピー単体+キューピーあい:2021年12月1日現在)となっています。またグループ各社では、キューピータマゴが全国22か所の工場で積極的に障がい者雇用を行っており、障がい者雇用率は5.81%となっています。

人材育成への取り組み

人材育成の考え方

キューピーグループでは一人ひとりのキャリアに真剣に向き合い、ダイバーシティを実現していくため、専門研修や、自己啓発プログラムの充実に加え、以下のような各種キャリア支援制度を実施しています。

- 1.成長マイルストーン制度(対象:キューピー総合職)
- 2.キャリア自己申告制度
- 3.社内公募制度

従業員それぞれの「ありたい姿」や「成長の道筋」を明確にすることで、成長のための学びと、人事交流などの必要な経験を積むことを促進していきます。

具体的な仕組みとして、「成長マイルストーン制度」や「キャリア研修」を設け、これに加えて自らの異動希望を申告できる「キャリア自己申告制度」があります。

さらに、挑戦意欲の高い人をキューピーグループ内から幅広く募集する「キューピーグループ社内公募2030」を実施し、これまで新規事業や強化したいテーマを対象として、強い思いを持った応募者の中から選出してきました。

一人ひとりのポテンシャルの発揮や、思いを実現するこれらのキャリア支援の取り組みを通じて、適材適所はもとより、挑戦する風土を醸成し、多様な人材がさらに活躍できる状態をめざしていきます。



キューピーキャリア支援体系図

褒賞制度

キュービーグループでは従業員が積極的に挑戦し学習することの支援や会社の将来への提言を推奨することを目的に社長賞をはじめとする各種褒賞制度を設けています。

社長賞

グループの技術や一人ひとりの創意工夫により成果・社会貢献を果たした際に表彰する制度です。社長賞を通してキュービーグループならではの文化を作っていくことを目的としています。

発明賞

会社に大きく貢献した特許や社会貢献につながる特許を取得した際に表彰しています。

論文賞

従業員が世の中の変化や日頃感じている課題を通して会社の将来に対して提言するものです。

論文の執筆を通じた自己研鑽も目的としており、50年以上続く伝統ある制度です。

資格褒賞制度

自発的に学ぶ風土づくりや一人ひとりのキャリア支援の一つとして、資格褒賞制度を設けています。従業員の学びを支援するとともに、会社として特に力を入れて推奨していく資格を伝えることで、従業員と会社がともに成長することをめざしています。

新たな挑戦に向けた取り組み

キュービーグループは、マヨネーズやドレッシング、さらには卵や野菜まで、幅広い研究開発を推進するとともに、イノベーションを創出する制度を設けるなど、新たな挑戦に向けた取り組みを積極的に行っています。外部の力も活用しながらグループ協働で新たな価値を創造し、ステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。

Kewpie Startup Program

従業員一人ひとりのアイデアの実現と新たな事業の創出に向け、社内公募制度「Kewpie Startup Program」を設けています。プログラム参加者は、部門の枠を超えたメンターとのネットワークを築くことができ、スキルアップ・キャリアアップへとつながっています。



「Kewpie Startup Program」発のアイデア

酢酸菌酵素を配合したサプリメント「よいとき」

ビジネスモデル公募制度の第一号商品となる「よいとき」は、キュービーグループ独自の醸造技術により世界初の大量生産を実現した、酢酸菌酵素を配合したサプリメントです。



「Kewpie Startup Program」から生まれた商品
キュービー サステナビリティサイト2022

機能性表示食品「ディアレ」

「ディアレ」は、酢酸菌GK-1とGABAを配合したサプリメントです。

お酢作りに使われる酢酸菌の新たな可能性を突き止めた飲む人のための「よいとき」の発売後、同じ酢酸菌をテーマにしながら、「よいとき」とは異なる切り口で健康に寄与する研究を開始し、2018年の社内公募制度で採択されました。

酢酸菌GK-1は、花粉、ホコリ、ハウスダストなどによる鼻の不快感を軽減することが報告されています。鼻の不快感の原因物質として「花粉」の表示が認められた機能性表示食品は「ディアレ」が初めてです。

GABAポテトサラダ

2019年の公募で選出されたビジネスプランをもとに開発した惣菜業界で初となる機能性表示食品の惣菜シリーズ「カラダ想いメニュー」を2020年9月より首都圏で販売開始しました。

GABA※を配合し「血圧が高めの方に」と表示することで、血圧が高めで気にしている人はもちろん、健康意識の高い人のためのサラダです。

※GABAには、血圧が高めの方の血圧を低下させる機能があることが報告されています。今後はラインアップを強化していきます。

＜惣菜初、「機能性表示食品のポテトサラダ」を開発 GABA配合で「血圧が高めの方に」＞

「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」を開業

埼玉県深谷市にて、「野菜にときめく、好きになる!みんなの笑顔を育むファーム」をコンセプトとする複合型施設を開業します。野菜や卵に関するキューピーグループの知見を活かし、地域と一緒に、野菜を楽しむ魅力的なコンテンツを提供していきます。また、新たな挑戦となるこの取り組みは株式会社オトワ・クリエーション、有限会社コスモファーム、生産者の皆さまなど、多くの方々と一緒に作り上げていく事業です。

【施設概要】

施設名	深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム
住所	埼玉県深谷市黒田および永田地区内
敷地面積	約17,600M ² (予定)
コンセプト	「野菜にときめく、好きになる!みんなの笑顔を育むファーム」 野菜のいのちと彩りを、五感で体験できる4つのコンテンツで構成された体験型施設 <ul style="list-style-type: none">・いのちと彩りを感じられる「体験農園」・食べ頃や食べ方が分かる・選べる「マルシェ」・旬の恵みに出会える・幸せになれる「レストラン」・触って食べて五感で学べる「野菜教室」
開業までの流れ	2016年 2月 キューピーが優先協議の権利を取得 2016年 4月 深谷市とキューピーの二者で基本協定を締結 2019年 11月 深谷市とキューピーの二者で事業契約を締結 2022年 5月29日 開業



深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム イメージ図

フレキシブルな働き方への取り組み

働き方についての考え方

キューピーグループでは、従業員がさまざまなライフステージや状況に合わせて働き続けるとともに、最適な形で一人ひとりがその能力を発揮できるように、フレキシブルな働き方を整えることで、個々の成長と活躍を積極的に支援しています。

フレキシブルな働き方についての取り組み

コアタイムのないフレックスタイム制度や、在宅勤務、サテライトオフィスを活用し、時間と場所に捉われず、個々の役割や仕事の特性に合わせて、働き方を柔軟に選択しながら生産性を追求できる就労環境を用意しています。

時短勤務者に対してもフレックス制度を利用可能とし、仕事と育児を両立しやすい環境を整えています。

出産・育児支援の取り組み

育児休業中の従業員に育児支援サイトを使って定期的に会社の情報を発信しています。また復帰前には上司との面談を実施し、復帰後の働き方やキャリア形成について共有するとともに、上司から活躍への期待を伝えるようにしています。

上司には、育児復帰者に関する会社の各種制度やアンコンシャス・バイアスなどマネジメントに関する必要な知識をオンラインコンテンツを通して学習してもらい、復帰者のフォローが出来るようにサポートしています。

また育児経験を通して視野を広げ、自己成長につなげるために、男性従業員の育児休業取得を促進しており、お子さまが2歳になるまでに最低10日間の取得を義務化しています。



育児休業のしおり

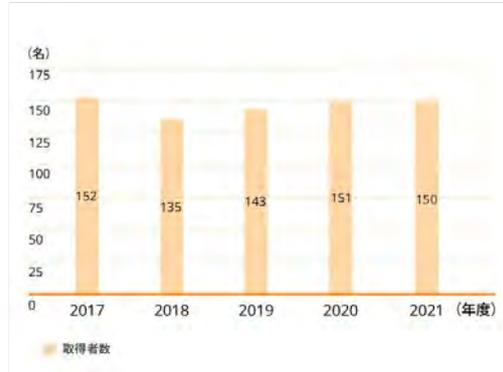


育児支援サイト

育児休業取得状況

女性従業員

- ・ 当年に育児休業を取得している人数
(対象:キューピー単体)



男性従業員

- ・ 取得者数:子どもが生まれて2歳になるまでに取得した人数
- ・ 取得割合:子どもが生まれた年に育児休業を取得した比率
(対象:キューピー単体)



> ESGデータ集

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重
 - 人権尊重への取り組み >
 - 多様な人材の活躍 >
 - 健康経営・労働安全衛生 >**
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

健康経営・労働安全衛生

健康経営への取り組み 

労働安全衛生への取り組み 

健康経営への取り組み

キューピーグループ健康宣言

キューピーグループは、サラダとタマゴで一人ひとりの健康を応援し、社会から期待され必要とされるグループをめざします。

グループで働く従業員が、心も体も健康にいきいきと企業活動を続けることが、事業の発展と社会への貢献につながると考えています。

これからも食を通じて皆さまの健康に貢献するとともに、企業が従業員一人ひとりの健康に配慮することで、従業員とその家族の健康に真剣に向き合い支援し続けていきます。



> 社外からの評価

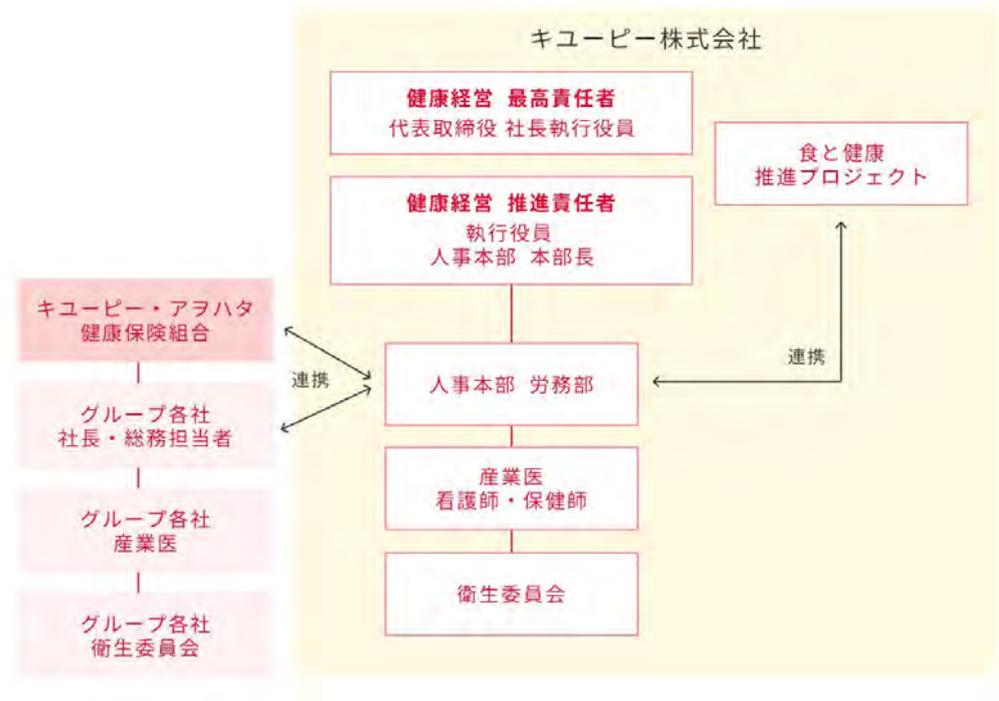
1. サラダとタマゴを通じた健康増進

キューピーグループは、野菜をサラダで食べるという食文化の普及と、栄養価の高いタマゴメニューの拡大を通して培ってきた技術を活かし、おいしく、楽しく、健康維持に役立つ食生活を提案していきます。

> [食と健康への貢献](#)

2. セルフケアを通じた従業員とその家族の健康増進

従業員とその家族が、自ら健康増進をはかれるよう支援するとともに、健康に対する意識の向上に努めます。



健康課題に対する重点施策

生活習慣の改善

生活習慣病の原因となる、食・運動などの生活習慣の改善をめざします。

がん検診受診率向上

がんは「早期発見・早期受診」が重要なことから、職域におけるがん検診の受診率向上を推進します。

メンタル対策

働く従業員が心の健康を保ち、いきいきと働ける職場環境をめざして、メンタルヘルス対策に取り組みます。

グループ共通健康指標「心と体の総合指標」

従業員や会社の「心と体」の健康状態を独自の共通指標によって「見える化」することで、健康に対して意識改革を促す取り組みを進めています。具体的には「メンタル指標」「健康年齢」について、個人への通知と並行して、組織の状態を上長にもフィードバックすることで、個人と組織がベクトルを合わせて、生活習慣・働き方や職場環境をより良くしていく活動につなげていきます。

メンタル指標

ストレスチェックの結果から職場のストレスの状態を4段階(良好・要注意・高ストレス・スーパーレッド)に分け配点、各段階の人数比を掛け合わせて点数化(キュービー独自指標:全員が良好であれば100)



健康年齢

健康診断の結果から算出される年齢と実際の年齢との差を表します。(健康年齢は株式会社JMD Cの登録商標)

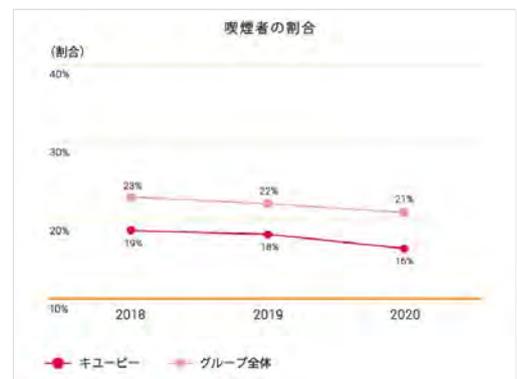
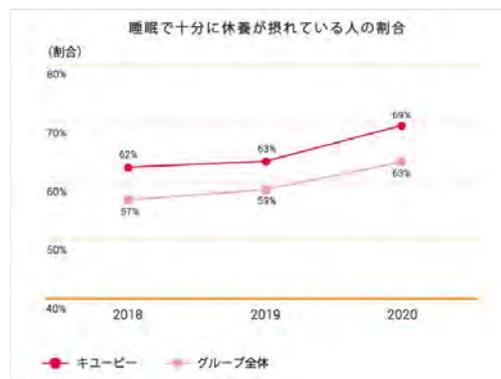


グループ一般指標

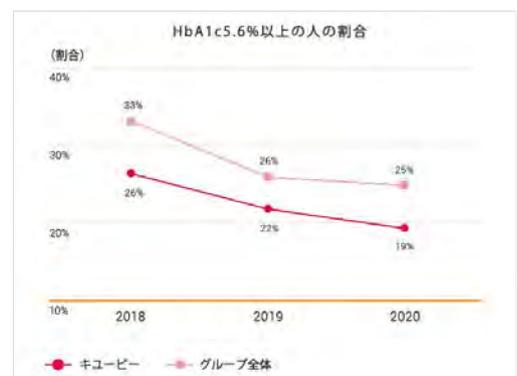
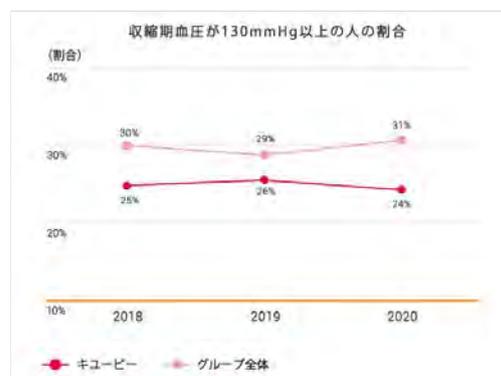
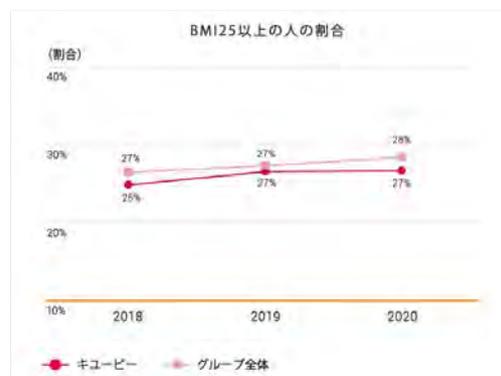
働き方の指標

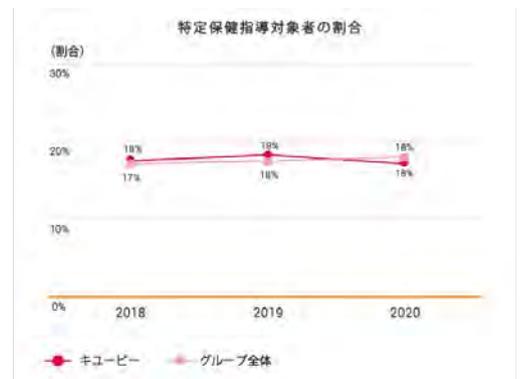
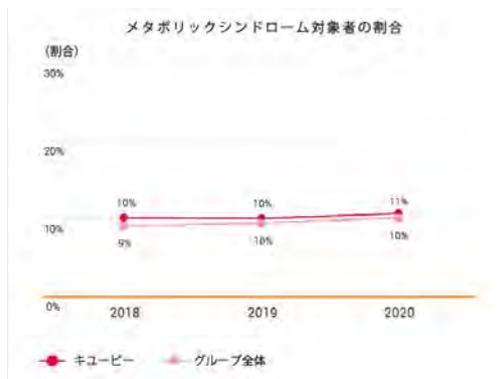


生活習慣の指標



生活習慣病にかかわる指標





メンタルにかかわる指標



健康経営に向けた具体的な取り組み

私の健康目標

2021年度はグループの11,000人以上の従業員が、1年を健康に過ごすための「私の健康目標」を掲げて取り組みました。

2022年度も継続して「サラダとタマゴで一人ひとりの健康を応援します」をテーマとし、栄養、運動、社会参加の3つの柱をデザインしたカードを使用し、従業員の健康意識の高揚を推進していきます。

 [健康応援BOOK\(6.11MB\)](#)



こころとからだの健康面談

2022年度より「健康面談」を実施しています。キューピー及びグループ各社の経営トップが健康宣言を発信し、それを受けて総務・労務担当者が従業員の心や体の不安、心配事を個別に聞く機会を設け、状況により専門職と連携してサポートしていきます。キューピーグループは対話を通して従業員一人ひとりの健康に向き合っています。



ヘルスアップキャンペーン

キューピー・アヲハタ健康保健組合では生活習慣改善を呼びかける「ヘルスアップキャンペーン」を年1回実施し、従業員が生活習慣を見直すきっかけりにしています。コロナ禍のなか、2020年度は参加率が60%を切りましたが、2021年度は65%と回復し、グループ従業員の約2/3が参加する大規模イベントとなっています。



健康に配慮した食事の提案

社員食堂施設のある事業所では、社員食堂とタイアップし、定期的に健康に配慮した食事を提案しています。特に不足しがちな野菜やたんぱく質をバランス良く摂取できるよう、通常のメニューにプラスして、サラダバーやタマゴなどを提供し、従業員の食生活向上を意識した取り組みを実施しています。

※ 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、現在はサラダバーの提供は中止しています。



2月1日「フレイルの日」イベント
フレイル予防メニューを渋谷・仙川の首都圏の2拠点で同時開催

禁煙対策

グループ従業員の健康維持・増進を目的に、2020年4月1日より東京都の2拠点の事業所(渋谷区、調布市)において敷地内喫煙所を撤廃し、敷地内全面禁煙をスタートさせました。同時に、グループを含めた全事業所でも、受動喫煙のない職場環境づくりを実現しています。

また、2017年から従業員の卒煙支援を強化し、禁煙外来、卒煙補助薬の自己負担額の補助や、自助努力での卒煙成功者に記念品を用意するなど、卒煙チャレンジを継続して促しています。

がん検診休暇・職域がん検診

キューピーグループでは、従業員全員の定期健康診断に加え、35歳以上の従業員を対象に人間ドックやキューピーグループ独自の3点セット検診(胃がん検診・大腸がん検診・腹部超音波検査)、20歳以上の女性従業員には婦人科検診(乳がん検診・子宮がん検診)が受診できます。この検診はキューピー・アヲハタ健康保健組合が補助を行っています。

さらに、より従業員が受診しやすい環境を整えるため、2021年度より、がん検診を受診するための「検診休暇」の付与を開始しました。また、移動検診車による職域集団がん検診の実施を開始しました。

キューピーグループ受診率目標80%に向けさまざまな取り組みを進めていきます。

2019年～ 首都圏で婦人科がん検診を実施

2021年～ 首都圏で3点セット検診実施

検診休暇付与開始

職域集団がん検診実施

2022年以降 順次エリア拡大予定



ストレスチェックシートによる集団分析

キューピーグループでは、ストレスチェックの結果を基に、職場改善を目的とした集団分析のためのストレスチェックシートを作成しています。

外部の企業の平均に加え、グループ内の同業態の事業所・会社との比較や、組織別のリスク要因を明確にすることで、従業員がより働きやすい職場に改善できるよう努めています。



ストレスチェックシート イメージ

海外駐在員の健康管理

海外事業の拡大に伴い、駐在員の人数も年々増加しています。

海外駐在員にも、国内同様の健康管理体制を行えるよう、年1回人間ドックを受診してもらい、必要に応じて看護師からのアドバイスを行っています。また、メンタル面においても、赴任3カ月後のヒアリング、ストレスチェックなどによるサポートを行っています。

労働安全衛生への取り組み

労働安全衛生に関する考え方

キューピーグループの生産事業所では、キューピー生産本部基盤向上推進部安全チームが中心となり、従業員が健康で安全な職場生活を送ることができる快適な職場環境づくりに努めています。主な活動として、次の3つを実施し、災害の未然防止と安全意識向上に努めています。

- 1.全生産工場の安全監査(国内73カ所、海外10カ所)
- 2.グループ安全会議
- 3.災害情報の水平展開

グループ一体となった予防安全の取り組み

キューピーグループでは、2004年より予防型安全活動を推進しています。次の3つを実施することにより、リスクを許容可能なレベルまで下げ、安全第一の風土構築をめざしています。

- 1.リスクアセスメントの実施
- 2.安全教育手順書による教育
- 3.QBSS(キューピー・アヲハタ安全基準)点検と是正

休業災害発生件数の推移(各年度4月末集計)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
休業災害件数	17	24	13	12	17
度数率 ^{※1}	0.76	0.99	0.62	0.60	0.90
強度率 ^{※2}	0.027	0.034	0.038	0.020	0.031

対象:キューピーグループ国内工場

※1 度数率=労働災害による死傷者数/延べ実労働時間×1,000,000

※2 強度率=労働損失日数/延べ実労働時間×1,000

[> ESGデータ集](#)

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス
- ↳ 倫理規範 >
- ↳ コーポレート・ガバナンス >
- ↳ リスクマネジメント >
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

ガバナンス

キユーピーグループは、グループの理念に基づく事業活動を通じて世界の人々の食生活と健康に貢献し、持続的な成長と企業価値の向上を実現するため、経営上の組織体制や仕組み・制度などを整備し、必要な施策を適宜実施していくこと、また経営の成果をお客様や従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様適切に配分すること、これらを経営上の最も重要な課題の一つに位置づけています。

コーポレート・ガバナンスについては、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組みと定義し、「グループ規範」を遵守するとともに、基本方針に沿って、適切で効果的な体制の整備および充実に継続的に取り組んでいきます。



➤ **倫理規範**
 理念に基づく倫理規範によってステークホルダーの皆様信頼していただける企業活動を行います。



➤ **コーポレート・ガバナンス**
 透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組みをご案内します。



➤ **リスクマネジメント**
 リスクによる経営への損失を低減し中長期目標の実現性を高めることに注力します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス
- └ 倫理規範 >
- └ コーポレート・ガバナンス >
- └ リスクマネジメント >
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

倫理規範

- 倫理規範に基づく取り組み ●
- 法令の遵守 ●
- 人権の尊重 ●
- 公正・健全な企業活動 ●
- 情報セキュリティの徹底 ●
- 反社会的勢力への対応 ●

倫理規範に基づく取り組み

キューピーグループは、社是・社訓を基本としたグループの理念の考えのもと、私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様から、最も信頼していただけるよう私たちの姿勢を「グループ規範」として表しています。

その中で、より良い企業市民として守っていくことを倫理規範として定めています。

役員をはじめ、一人ひとりの従業員がグループ規範の心を理解して誠実に遵守していくことが、企業としての一層の透明性とお客様からの信頼につながるものと考えています。

- > 理念
- > キューピーの約束

法令の遵守

企業の持続的な発展には、法令遵守はもとより、すべての役員および従業員が高い倫理感を持って事業活動を行う必要があります。また、持続的な企業運営を支えるのは従業員であることから、一人ひとりの行動の基本となる考え方をグループ内外に浸透させ、お客様からの信頼と従業員相互の自浄作用につなげることも重要です。この考えのもと、キューピーグループはコンプライアンス推進体制を構築し、すべてのグループ従業員に徹底する取り組みを推進しています。

- > コーポレート・ガバナンス
- > キューピーグループ反贈賄基本方針制定

コンプライアンスの推進

2004年1月に「グループ倫理行動規範」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、全社横断的コンプライアンス体制を整備しました。同委員会ではコンプライアンスに関する規定の整備や問題点の抽出、従業員に向けたマインドアッププログラムなどを実施し、活動の内容についてはコンプライアンス担当役員が定期的に取締役会に報告しています。

・従業員意識調査アンケート

全従業員に意識調査アンケートを隔年で実施し、コンプライアンス意識の確認と意見の聴取を行い、透明性が高く働きやすい職場の実現に努めています。

・ヘルプライン

公益通報者保護制度に対応した内部通報体制として、ヘルプラインを設置しています。

社外の弁護士、第三者機関、監査役などが受けた通報・相談はコンプライアンス調査会が調査し、違反行為は処分を行い、社内に公表し、再発防止策を実施します。

人権の尊重

役員・従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境を実現します。従業員意識調査のアンケートを通じて、人権侵害の有無を調査する取り組みなどを進めています。また、事業展開を進める上で、さまざまな人権課題を把握し、それに配慮し適切に行動することが求められている中、バリューチェーン全体での人権の配慮にさらに取り組んでいきます。

＞ 人権尊重への取り組み

 [キューピーグループ人権方針\(361KB\)](#)

公正・健全な企業活動

全てのステークホルダーの皆様の信頼を得るために企業活動に伴う法令を遵守するとともに良識的な行動を行います。また公正・自由な競争を行い透明で健全な関係を築きます。原材料の調達についても同様の考えのもと、品質第一主義という考えを大切にしながら、サプライチェーンにおける環境や人権にも配慮した取り組みを進めています。

＞ 持続可能な調達のための基本方針

＞ 調達への取り組み

競争法(独占禁止法・下請法)遵守に向けた体制づくり

キューピーグループは、公正・健全な企業活動を実践する取り組みとして、競争法(独占禁止法・下請法)の遵守に取り組んでいます。

独占禁止法への対応

- ・ 「独占禁止法遵守マニュアル」の制定
- ・ eラーニングを通じた従業員への教育、周知
- ・ 海外の主要なグループ会社において、弁護士による社内研修の実施

下請法への対応

- ・ 下請法に対応した発注・支払システムの構築・運用
- ・ eラーニングや社内勉強会による、下請法に関する教育・研修の定期実施
- ・ 「下請法対応マニュアル」、発注書など必要書類の各種フォーマット、下請法セルフチェックリストの整備
- ・ 関係部門での下請法担当者選任、セルフチェックおよび自主改善活動の推進

情報セキュリティの徹底

会社情報取扱規程、個人情報保護基本規程などに関する各管理マニュアルを制定し、情報推進委員会を中心に情報管理に係る従業員教育や各規程などの運用状況の検証、規程の見直しなどを行っています。

また、海外拠点においても、各国の制約やIT環境に合わせて規程の整備や従業員への周知を進めています。

▶ [プライバシーポリシー](#)

▶ [コーポレート・ガバナンス](#)

▶ [個人情報のお取り扱いについて](#)

反社会的勢力への対応

社会の一員として社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求に対しては毅然として対応します。

グループ従業員への教育を行うとともに、警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。

また、お取引先との契約書に反社会的勢力排除に関する条項を設けています。

反社会的勢力排除の推進体制

反社会的勢力への対応マニュアルの作成、階層別研修やeラーニング等のコンプライアンス活動による従業員の指導・啓発、さらには必要に応じて警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。

契約書の反社会的勢力排除条項

お取引先との契約書において、反社会的勢力排除に関する条項を設け、お取引先が反社会的勢力ではなく、また当該勢力との関係も有しないことを保証していただくとともに、もしそれに反することが判明した場合には直ちに契約を解除できる旨を定めています。

社外取締役	漆 紫穂子	柏木 斉
選任理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育者として豊富な経験を有しているだけではなく、経営者として挑戦意欲にも富んでおり、会社から独立した立場で、これらの経験や知見を活かして経営全般に対する意見や指摘をいただくため、社外取締役に選任しています。 ・ 当社との間に特別な利害関係はないことに加え、当社の社外役員の独立性基準を満たしており、一般株主と利益相反が生じるおそれがない独立役員として、株式会社東京証券取引所に届け出ています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材・メディア関連等の事業を展開する事業会社の経営経験者として、海外事業の展開も含めた豊富な経験と高い見識を有しており、会社から独立した立場で、これらの経験や知見を活かして経営全般に対する意見や指摘をいただくため、社外取締役に選任しています。 ・ 当社との間に特別な利害関係はないことに加え、当社の社外役員の独立性基準を満たしており、一般株主と利益相反が生じるおそれがない独立役員として、株式会社東京証券取引所に届け出ています。
重要な兼職の状況	学校法人品川女子学院 理事長 カルチャ・コンビニエンス・クラブ 株式会社 社外取締役 東京海上日動火災保険株式会社 社外監査役 株式会社ゆうちょ銀行 社外取締役 行政改革推進会議 構成員	株式会社アシックス 社外取締役 株式会社松屋 社外取締役 株式会社TBSホールディングス 社外取締役
取締役会出席状況	11/12回	9/10回(取締役就任後)

社外取締役	福島 敦子	
選任理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジャーナリストとしての長年の経験、多くの企業トップとの対話を通じた企業経営に関する豊富な知見を有していることに加え、経営アドバイザーボードの活動を通じて当社の理念・風土や事業特性を理解していることから、会社から独立した立場で、これらの経験や知見を活かして経営全般に対する意見や指摘をいただくため、社外取締役に選任しています。 ・ 当社との間に特別な利害関係はないことに加え、当社の社外役員の独立性基準を満たしており、一般株主と利益相反が生じるおそれがない独立役員として、株式会社東京証券取引所に届け出ています。 	
重要な兼職の状況	国立大学法人島根大学経営協議会委員 ヒューリック株式会社 社外取締役 名古屋鉄道株式会社 社外取締役 カルビー株式会社 社外取締役 農林水産省林政審議会委員	
取締役会出席状況	-	

社外監査役	武石 恵美子	寺脇 一峰
選任理由	<ul style="list-style-type: none"> 行政分野における経験に加え、人事制度・労働政策に関する幅広い見識を有し、会社から独立した立場で、これらの豊富な経験や見識を活かして経営全般に対する意見や指摘をいただくため、社外監査役に選任しています。 当社との間に特別な利害関係はないことに加え、当社の社外役員の独立性基準を満たしており、一般株主と利益相反が生じるおそれがない独立役員として、株式会社東京証券取引所に届け出ています。 	<ul style="list-style-type: none"> 法律家としての専門知識および幅広い見識を有しており、会社から独立した立場で、これらの経験や知見を活かして経営全般に対する意見や指摘をいただくため、社外監査役に選任しています。 当社との間に特別な利害関係はないことに加え、当社の社外役員の独立性基準を満たしており、一般株主と利益相反が生じるおそれがない独立役員として、株式会社東京証券取引所に届け出ています。
重要な兼職の状況	法政大学キャリアデザイン学部 教授 東京海上日動火災保険株式会社 社外監査役	弁護士 株式会社商工組合中央金庫 社外監査役 芝浦機械株式会社 社外取締役 鹿島建設株式会社 社外監査役
取締役会出席状況	12/12回	12/12回
監査役会出席状況	13/13回	13/13回

社外監査役	熊平 美香	
選任理由	<ul style="list-style-type: none"> 海外を含む事業会社の経営経験があることに加え、企業変革やリーダーシップ開発についての知見を有しており、これらの経験や知見を活かして経営全般に対する意見や指摘をいただくため、社外監査役に選任しています。 当社との間に特別な利害関係はないことに加え、当社の社外役員の独立性基準を満たしており、一般株主と利益相反が生じるおそれがない独立役員として、株式会社東京証券取引所に届け出ています。 	
重要な兼職の状況	株式会社エイテッククマヒラ 代表取締役 一般財団法人クマヒラセキュリティ財団 代表理事 昭和女子大学ダイバーシティ推進機構キャリアカレッジ学院長 一般社団法人21世紀学び研究所 代表理事 日鍛バルブ株式会社 社外取締役	
取締役会出席状況	12/12回	
監査役会出席状況	12/13回	

取締役会の実効性評価

当社では、取締役会において、取締役会の実効性について第三者の視点も含めた分析・評価を行い、その結果を踏まえて取締役会の改善に取り組んでいます。

 [第5回 取締役の実効性評価の概要\(331KB\) \(2020年12月～2021年1月実施\)](#)

 [第4回 取締役の実効性評価の概要\(490KB\) \(2019年12月～2020年1月実施\)](#)

 [第3回 取締役の実効性評価の概要\(312KB\) \(2018年12月～2019年1月実施\)](#)

 [第2回 取締役の実効性評価の概要\(324KB\) \(2018年12月～2019年1月実施\)](#)

 [第1回 取締役の実効性評価の概要\(321KB\) \(2017年12月～2018年1月実施\)](#)

経営・監督

指名・報酬委員会

取締役会の構成や取締役などの指名、報酬のあり方などに関する客観性と妥当性、透明性を高め、ひいては当社グループの中長期的な成長と企業価値の向上につなげるため、取締役会の諮問機関として設置しています。

構成

5名以上の委員(当社の取締役または監査役に限る。現在の委員は7名)で構成され、委員の半数以上は独立社外役員としています。また、委員長は、社外取締役の委員の中から選定しており、委員会の議長を務めています。

委員一覧(2022年2月28日現在)

社外取締役	柏木 斉(委員長)
社外取締役	漆 紫穂子
社外取締役	福島 敦子
社外監査役	寺脇 一峰
取締役会長	中島 周
代表取締役 社長執行役員	高宮 満
取締役 常務執行役員	井上 伸雄

委員会の役割

以下の事項について審議し、必要に応じて決議を行います。

- (1) 経営組織の形態および取締役会の人員構成
- (2) 取締役、監査役および執行役員の選解任基準
- (3) 取締役および監査役の各候補者の選出
- (4) 取締役および執行役員の評価基準
- (5) 取締役および執行役員の報酬制度の基本設計
- (6) その他、当社グループの企業統治に関する事項で、指名・報酬委員会が必要と認めたもの

役員および執行役員の選解任基準、報酬の決定方針については、コーポレートガバナンス・ガイドラインをご覧ください。

 [コーポレートガバナンス・ガイドライン\(460KB\)](#)

業務執行

経営アドバイザーボード

当社代表取締役 社長執行役員の諮問機関として設置しています。社外委員として有識者が5名と当社の代表取締役 社長執行役員に加え、議題に応じてほかの取締役などが参加しています。定例会を年間で2回開催し、必要がある場合は随時開催します。当社グループの健全性、公正性、透明性を維持、向上させるための助言・提言を受け、意思決定に反映させています。

リスクマネジメント委員会

グループ全体のリスクマネジメント方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要会議として設置しています。リスクマネジメント担当取締役を委員長とし、全社的なリスクに関して、情報を集約し、そのリスクの評価、優先順位および対応策などを統括しています。また、リスクマネジメント担当取締役は、これらの状況を定期的に取締役会に報告しています。

サステナビリティ委員会

グループ全体のサステナビリティの実現に向けた方針の策定、重点課題の決定と取り組みの推進を主な役割とする重要会議として設置しています。サステナビリティ担当取締役を委員長とし、サステナビリティ基本方針を策定し、それに基づく社会・環境面の重点課題に取り組んでいます。全社的なリスクのうち、社会・環境関係の一部リスクはサステナビリティ委員会が統括します。

コンプライアンス委員会

グループ全体のコンプライアンスに関する体制の整備、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要会議として設置しています。コンプライアンス担当取締役を委員長とし、全社横断的なコンプライアンス体制の整備および問題点の把握に努めるとともに、コンプライアンス推進に関する企画、啓発および教育などを行っています。

ヘルプライン

公益通報者保護制度に対応した内部通報体制として、通報窓口の情報受領者に第三者機関や社外の弁護士を含む「ヘルプライン」を設置しています。情報受領者から報告を受けたコンプライアンス調査会が事実関係を調査し、違反行為があれば、再発防止策を担当部門と協議のうえ決定し、処分結果を含めて社内に公表するとともに、全社的に再発防止策を実施しています。

情報推進委員会

グループ全体の情報セキュリティ維持、IT環境の整備に関する方針の策定、取り組みの推進を主な役割とする重要会議として設置しています。IT・業務改革推進担当の執行役員を委員長としており、情報セキュリティに関する方針・規程・マニュアルを整備し、適切な情報の保存・管理の運用を推進しています。また、運用状況の検証や見直し、情報管理に係る従業員教育も実施しています。

グループガバナンス委員会

適切なグループガバナンス構築に関する方針の策定、重点課題の決定、取り組みの推進を主な役割とする重要会議として設置しています。グループガバナンス担当取締役を委員長、コーポレート部門の各部門長を委員として構成しており、グループ経営における基本的な考え方を策定するほか、適切な意思決定・グループ会社管理体制の整備等の施策の推進を行っています。

内部監査室

自主監査などを行う品質・環境・安全・労務などの各スタッフとも連携し、当社グループの経営活動全般にわたる管理・運営の制度および業務の遂行状況について、合法性と合理性の観点から内部監査を行っています。また、財務報告に係る内部統制の有効性評価の計画・実施も行っています。

トップページ > サステナビリティ > ガバナンス > リスクマネジメント

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス
 - 倫理規範 >
 - コーポレート・ガバナンス >
 - リスクマネジメント >
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

リスクマネジメント

リスクの評価・選定 ● リスクマネジメント体制 ● 主なリスクマネジメント活動 ●

リスクの評価・選定

社内外の経営環境の変化からリスクとなりうることを「各リスクの経営への影響の大きさ」と、「マネジメントコントロール度」の2軸で評価し、対応すべきリスクを選定しています。社内・社外両面からモニタリングを行い、状況変化に応じたリスクの重要性を適時評価し、機敏にリスクに向き合うように努めています。

全社主要リスク

経営への影響度が大きいにも関わらずマネジメントコントロールが不十分なリスクは、全社横断的なプロジェクトにより、最優先でリスク低減に努めています。

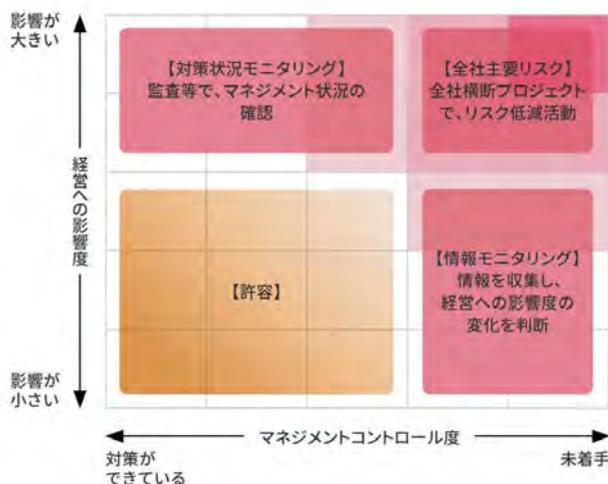
対策状況モニタリング

活動を通じて対策が効果を上げマネジメントコントロール度が高まったとしても依然として経営の影響度が大きい場合は、その後の対策状況を監査などにより確認しています。

社外情報モニタリング

その時点では経営への影響度が小さく経営課題とならないリスクにおいても、対策ができていないリスクは感度高く社外情報の収集、モニタリングに努めています。

リスクの評価



リスクマネジメント体制

キューピーグループでは、経営の継続的、安定的発展に影響しかねない事象をリスクと認識し、リスクマネジメントの実践を通じ、内部統制システムの充実に取り組んでいます。個々のリスクを各担当部門が継続的に監視するとともに、全社的なリスクはリスクマネジメント委員会※で情報を共有し、そのリスクを評価、優先順位および対応策の効果などを総括的に管理し、特に下記の9つを主要なリスクに位置づけて抑制・回避に努めています。

キューピーグループのリスクマネジメントの体制と全社主要リスク



これら全社的なリスクの評価や対応の方針・状況などについては、リスクマネジメント担当取締役が定期的に取締役会へ報告しています。

※ リスクマネジメント委員会は、キューピー(株)経営会議メンバーおよび主要本部・主要子会社の代表者より構成しており、キューピーグループのリスクマネジメントに関する最高意思決定機関であり、委員会を年3回開催しています。

※ 地球環境問題、気候変動については、サステナビリティ委員会で対応しています。

主なリスクマネジメント活動

海外展開のリスク低減活動 海外グループ会社の「内部統制推進プロジェクト」

キューピーグループでは、海外拠点の従業員が安心して業務を遂行できる環境を整え、グループの成長・発展につなげる活動に取り組んでいます。

その活動の中心として、経営基盤の強化につながる内部統制システム(ガバナンス、コンプライアンスおよびリスクマネジメント)の整備を推進するための法務・財務・人事・IT・知財・危機管理・内部監査・海外事業などの部署により構成している「内部統制推進プロジェクト」を組織し、さまざまな取り組みを行っています。

内部統制推進プロジェクトでは、これまでに、参加している専門部署ごとに考えられる海外リスクマネジメントのためのチェックリストの作成や海外各社とのやり取りを通じて、双方向型での内部統制システムの整備を推進してきました。



「内部統制推進プロジェクト」オンラインミーティングの様子

具体的な取り組み

- ・ 反贈収賄プログラムの展開
- ・ 国内外で統一した危機発生時の事業継続計画(BCP)の策定
- ・ 情報セキュリティ対策の推進
- ・ 人事労務体制の強化(規程類・制度の整備と見直し、理念研修等)
- ・ 海外グループ会社のメンバーを対象とした研修

今後も、海外グループ会社とプロジェクトの取り組みの到達点、スケジュールを共有し、連携しながら、海外の内部統制システムの整備を更に進めていきます。

自然災害など不測の事態への対応 事業継続計画(BCP)

過去の災害や感染症蔓延などの危機の経験を生かし、キューピーグループ横断で危機発生時の事業継続計画を整備し、対策に取り組んでいます。

有事の際に、東京の本社機能を関西に代替移行可能な体制の維持、非常時の通信ネットワークの整備や物資の備蓄、生産設備や物流設備の補強、不測の事態において生産可能状況を確認するシステムの整備、主要商品に関する生産や原資材調達機能及び受注機能を二拠点化することや、全国規模での在宅勤務体制への移行などにより危機発生時に備えており、不測の事態の種類ごとにマニュアルを整備しています。

さらにそれらを確実に運用できるようにするために大規模災害対応訓練(初動対応訓練や商品供給訓練、安否確認訓練)も行っています。

これらの活動により、発災した場合には適切な初動対応を行い、速やかに復旧活動につなげて平時の事業活動の状態に回復を促し、不測の事態から受けるダメージを最小限にできるように万全に備えています。



対策本部会議の様子

ランサムウェア※リスクへの対応

国内外でランサムウェアによる企業への攻撃が増加しており、キューピーグループでもリスクの認識を高め、対応を講じています。

緊急時を想定し、攻撃を受けた際に対応できる環境構築を進めています。ハード面の強化策として、全PC、全サーバーに対しマルウェア対策を進めるとともに、ソフト面の強化策では、全従業員に対し継続的な社内教育プログラムの実施、および攻撃メールの模擬訓練を実施するなど、従業員へのセキュリティ認識向上にも取り組んでいます。

※感染すると端末などに保存されているデータを暗号化して使用できない状態にしたうえで、搾取データ開示の脅しだけでなく、復号する対価として金銭を要求する不正プログラム

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キユーピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

安全・安心

健やかな生活には、安全・安心でおいしい食が欠かせません。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という信念をもっています。バリューチェーンの各段階において、従業員一人ひとりが日々の仕事の質を高めることで、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。



品質への想い

人・仕組み・技術の3つの取り組みによって品質を追求し続けています。

原料の品質

品質を追求するため、原料の管理・提供元であるサプライチェーンとの取り組みを強化しています。

製造工程の品質

製造現場においては徹底したルールの遵守と、安全のための仕組みづくりを行っています。



容器包装の品質

品質とおいしさを守るため容器の改良を重ねてきました。

食の安全性評価

商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。

お客様に安心していただくために

お客様の声を生かす仕組みと、商品の表示の見方をご紹介します。

キユーピーについてもっと知る



キユーピーグループ
 オフィシャルブログ
 従業員より、社会・環境への
 取り組みを発信しています。



食育活動

キユーピーの食育活動について
 ご紹介します。



研究開発

キユーピーの研究開発について
 ご紹介します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

品質への想い

- 品質を確かにする人づくり 
- 品質を裏付ける仕組みづくり 
- 品質を高める技術の追求 

品質を確かにする人づくり

品質を確かなものにするのは、人です。そこで私たちは、学びの場や発表の場を設け、品質の向上をめざしています。

ものづくり学校

商品の製造に関わるすべての部門の担当者を対象にした学びの場「ものづくり学校 品質コース」を設けています。ものづくり学校では、商品の品質管理の入門から、高度な応用まで学んでいます。ものづくり学校を修了したメンバーが、各部署で教える側になり、知識や技術を伝えていきます。私たちの「ものづくり学校」は、核になる人を養成し、その人を中心にして仲間を増やして、グループ全体の品質を高めていくことをめざしています。

ものづくり学校で学ぶこと

安全の原理

微生物、分析など、品質の技術と知識を学びます。

安心の原則

法令、自社の取り決めなど、品質のルールを理解します。

安心の原点

過去の事例などに学び、品質の礎となる考え方を身につけます。



わくわくアワード

わくわくアワードとは

キューピーグループでは「お客様と従業員の笑顔につながる品質向上活動」として「わくわく活動」を行っています。

「グローバル」「協働と創造」「共感(賞賛)」を合言葉に「わくわくアワード」を開催して、国内外のグループ全社より選び抜かれたチームの「わくわく活動」を共有、水平展開することで、私たちキューピーグループのめざす姿である「世界の食と健康に貢献する」ことに繋げています。



品質を裏付ける仕組みづくり

国際的な第三者の認証を取得することで、グループの品質レベルを維持・向上する仕組みを導入しています。

食品安全に関する第三者認証の導入

私たちは、グループ全生産拠点でGFSI認証と呼ばれる食品安全に関する国際的な第三者認証を取得しています。

外部機関の審査を定期的に行うことによって、品質保証の取り組みについて、客観的に見つめ、改善することで、継続的な品質レベルの維持・向上を実現しています。

GFSI認証とは

GFSI認証とは、2000年5月に設立された非営利財団 世界食品安全イニシアチブ(GFSI)が、安全な食品を提供するために構築した認証です。オランダで作られたFSSC22000、アメリカで作られたSQFも、GFSI認証の一部です。



品質を高める技術の追求

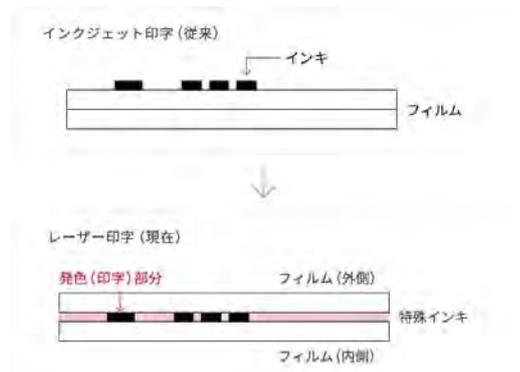
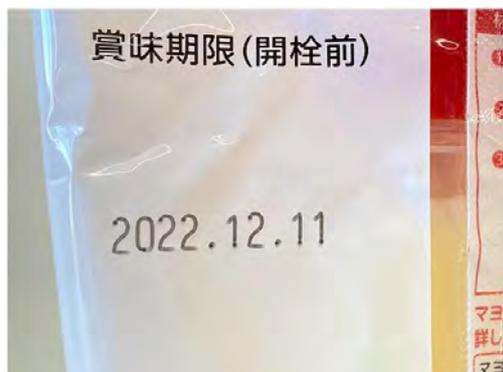
私たちは、最新の生産技術を学び、導入し、品質を高める努力をしています。

生産技術

マヨネーズの外袋の印字

マヨネーズの外袋の賞味期限は、従来はインクジェットによって印字をしていましたが、現在はレーザーを使って印字しています。

二層になっているフィルムの中に特殊なインキを塗布してあり、ここにレーザーを照射することでインキを黒色に発色させる方法です。直接印字する方法と比べて、印字部分に物が接触などしても印字が消えることはありません。



分析技術

食品に含まれる微生物の同定^{*}に関する技術は、近年急速に進歩しています。

※ 微生物の種類を特定すること。

食品に含まれる微生物の同定

かつては微生物を食品から分離・培養した後、顕微鏡で観察し特性を調べ、1週間から10日かけて同定していました。それが、遺伝子を使った手法が登場して1～2日になり、今ではその微生物に特徴的なたんぱく質を調べることで30分に短縮できています。

私たちはこうした技術の変化に対して、有効なものは積極的に導入するとともに、外部の機関と共同で新技術構築にも取り組んでいます。



微生物同定の進歩



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
 - 品質への想い >
 - 原料の品質 >**
 - 製造工程の品質 >
 - 容器包装の品質 >
 - 食の安全性評価 >
 - お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

原料の品質

良い商品は良い原料からしか生まれない  マヨネーズの原料  ベビーフードの原料 

良い商品は良い原料からしか生まれない

キューピーグループは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」というキューピー創始者である中島董一郎の想いを大切に、原料の調達から商品の製造、容器包装、販売、安全性の評価まで、全段階で品質第一主義を徹底しています。

すべてのプロセスにおいて、自社およびグループ会社が直接関わることで、品質への責任を自身がしっかりと持つことを基本姿勢としています。

その根底にあるのが、創業からこだわり続けてきた、「良い商品をお届けする」という想いです。

良い原料を入手するために大切にしていること

調達先には専門の担当者が定期訪問し、ものづくりの基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。

新規のお取引の場合にはまず訪問して私たちの品質への想い、考え方をお伝えし、製造環境なども確認します。異物混入を防ぐ手立ては実施されているか、良い原料を供給できるかを確認し、信頼でき、一緒に取り組むことができる調達先とお取引しています。

マヨネーズの原料

赤い網目と赤いキャップでお馴染みのキューピー マヨネーズの主要原料は卵黄、植物油、酢。

卵

卵で特に大切なのが鮮度。新鮮な卵でなければ割卵機で卵黄と卵白をきれいに分けられないからです。そこで、卵が工場についたらすぐに鮮度チェックを行い、基準に適合していることを確認しています。卵は傷みやすく衛生的に管理する必要があります。



卵の鮮度チェック

植物油

キューピー マヨネーズには、菜種油や大豆油などを使っており、その精製工程は調達先と細かいところまで確認し合っています。こうして設けた「キューピースペック」と呼ばれる独自の基準は、安全でおいしい商品づくりを支えています。また、「事前サンプル制度」という仕組みは、調達先からあらかじめサンプルを取り寄せ、検査を行って、合格した原料だけを受け入れるものです。さらにその合格した植物油は、私たちのグループの車両で調達先まで受け取りに行っています。植物油の基準づくり、製造、品質確認、輸送まで、すべてに私たちは関わっています。



事前サンプル制度で届けられた植物油の品質をチェック



輸送した植物油の受取。輸送担当者と工場の担当者が確認しながら行う

酢

かつて、日本で製造されている酢は米などを原料にした和風の酢が主体で、洋風調味料であるマヨネーズに合う酢の入手は困難でした。そこで私たちは、1962年に専門会社を作りました。マヨネーズに使っているのは、リンゴ果汁やモルトなどを原料にして作った専用酢。野菜やパンだけでなく、ご飯や和食などにもよく合うようにしています。



マヨネーズ専用酢を作っているキューピー醸造株式会社



発酵タンク

ベビーフードの原料

ベビーフードは品質の集大成

ベビーフードは、赤ちゃんが食べるもの。だから、私たちが使用する原料には公的基準に加えて、ベビーフード協議会の自主規格をもとにしたキューピー独自の基準も設定しています。

産地や調達先を直接訪問してベビーフードに使う原料であることを伝え、品質を確認し合っています。たとえば、私たちの原料検査で気になることがあれば、それを持って調達先を訪問し、対応について一緒に考えます。

ベビーフードには着色料、保存料、香料は使っていません。安全かどうかという尺度ではありません。赤ちゃんの食はどうあるべきかを考えたとき、素材を大切にすべきと思うからです。



[> 心を込めて、一つ、ひとつ。\(ベビーフード紹介サイト\) □](#)

異物探知機と人で原料を確認

農産物等の原料は、その状態、特性に応じて、X線を使った異物探知機や目視検査で確認しています。特に大切にしているのが、目で見て、匂いをかいで、手の感覚を働かせての選別です。

たとえば、家庭で使っている米には、割れたもの、一部が黒ずんだものも含まれています。

でも、それがベビーフードに含まれていると、子育て中の皆さんは心配になってしまいます。そこで、米粒も人が確認し、こうしたものを取り除いて使っています。にんじんは小さく角切りにされたものが入荷されてきます。これも確認し、変色したもの、大きなものなどを人の手で除去しています。



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
 - 品質への想い >
 - 原料の品質 >
 - 製造工程の品質 >
 - 容器包装の品質 >
 - 食の安全性評価 >
 - お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

製造工程の品質

- ルールの徹底とミス防止の仕組み 
- マヨネーズの製造品質 
- ベビーフードの製造品質 

ルールの徹底とミス防止の仕組み

私たちの工場では、作業員からの異物混入を防ぐため、決められた服装にし、決められた手順で製造現場に入る規定があります。また、意図的な異物混入を防ぐフードディフェンスの仕組みを導入しています。原料の配合工程においても、独自の仕組みを利用し、配合事故未然防止を徹底しています。

意図的な異物混入防止の方針

- 1.製造現場内には決められた者しか入れない
 - 2.意図的な悪戯をさせない
 - 3.問題ないことを後から証明できる
- +従業員との対話を大切にする

安全な商品を作るためのルール >



配合事故の未然防止

私たちの工場では、働く人のミスと不安をなくし、品質を守るため、自社開発で「配合事故未然防止システム」を構築しました。原料の入荷や計量、配合などの各工程において、二次元コードを読み込むことで、その都度原料の種類や使用量、賞味期限などについて照合と記録を行うことができる仕組みです。

さらに、この記録をたどることで、「その商品に使った原料は何か」「同じ原料を使った商品は何か」などを特定することができます。私たちのトレーサビリティシステムの根幹にあるのが、この「配合事故未然防止システム」です。



マヨネーズの製造品質

おいしくて、安全で安心なマヨネーズをお届けするため、細部にまでこだわってマヨネーズを作っています。この根底にあるのが、1925年の発売以来こだわり続けてきた「良い商品をお届けする」という想いです。

マヨネーズの製造工程



1 割卵

キューピー独自の割卵機で1分間に600個の卵を割り、卵黄と卵白に分けます。卵を衛生的に扱うために、定期的に割卵機を止めて洗っています。卵黄は61°C×3.5分以上の条件で加熱殺菌します。乳化力などの卵黄の機能は保持したまま、サルモネラ、鳥インフルエンザウイルスについては安心な状態になります。



2 調合

マヨネーズの大敵は酸素。酸化しないように、真空状態で乳化します。油の粒は1000分の2~4mm。手作りよりもキューピー マヨネーズがまろやかな風味なのは、この油の粒が細かくて、均質だからです。



3 ボトルの口部をカット

マヨネーズのボトルは、密封状態で入荷され、充てんの直前に逆さにして口部をカットします。切りくずが内部に入らないようにするためです。口部をカットしたらキャップ締めまで製造ラインに覆いをし、異物が混入しないようにしています。



4 充てん

マヨネーズをろ過した後、ボトルに充てんします。



5 キャップじめ・印字

マヨネーズを充てんしたらすぐにキャップをします。このとき口部の空気を窒素で置換し酸化を防止しています。その後キャップに賞味期限と、充てん時刻を意味する記号を印字します。これにより製造年月日と充てん時刻がわかり、その商品を作ったときの製造状況などを調べることができます。



6 包装・箱詰め

できあがった商品を袋に入れ、箱に詰めます。このとき重量を量り、決められた量が充てんされているか、箱には決められた本数が入っているか、全数確認します。



7 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

ベビーフードの製造品質

発売以来「品質第一」を信条とし、ベビーフードの品質を守っています。大切にしているのは、赤ちゃんを育てている皆さんの気持ちになること。ベビーフード作りで培ったノウハウが、他の商品作りにも活かされています。

レトルトパウチタイプの製造工程一例



1 選別

注意深く見て、原料を選別します。



2 調理

大きな釜に原料を入れて調理します。おいしく仕上げるために、かき混ぜ方などにひと工夫しています。



3 金属異物確認

調理したものの中に金属異物が含まれていないことを確認するため、強力なマグネットを使用します。



4 充てん密封

袋の中に一定量を充てんします。直後に袋の上部を熱を使って 接着し、異物などが内部に入らないようにします。



5 重量確認

定められた重量が充てんされていることを0.1g単位で全数確認します。



6 加熱殺菌

レトルトパウチの場合、120°C、4分相当以上の加熱殺菌をします。そのため、保存料などは不要です。



7 異物確認

X線を使って内部を透過撮影し、異物が入っていないか、全数確認します。



8 密封検査包装

密封されていることを全数確認し、包装します。



9 最終検査

風味・状態などを最終チェックし、問題ないことを確認します。



10 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
 - 品質への想い >
 - 原料の品質 >
 - 製造工程の品質 >
 - 容器包装の品質 >
 - 食の安全性評価 >
 - お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ オフィシャルブログ >
- グループ各社の サステナビリティ活動 >

安全な商品を作るためのルール

安全・安心な商品を製造するため、工場では、服装・入室に関するルールだけでなく、意図的な異物混入を防ぐ対策もしています。

服装規定

製造現場に入るときは、必ず決められた清潔な作業服に着替えます。帽子は二重になっていて、裾は作業服の中に入っています。作業服の袖部分、胴部分、裾部分にはそれぞれ二重に絞りを設けているので、万が一、毛髪が落ちても作業服内に留まります。



入室規定



1. 粘着ローラーで頭から足元まで40秒以上かけて毛髪などを取り除きます。



2. 30秒以上手を洗い、乾燥します。



3. アルコール消毒をします。



4. 空気のシャワーでほこりなどを吹き飛ばしてから、製造現場に入室します。

フードディフェンス

私たちは以下の基本方針に基づいて、意図的な異物混入を防ぐ対策をとっています。

1. 製造現場内には決められた者しか入れない
 2. 意図的な悪戯をさせない
 3. 問題ないことを後から証明できる
- +従業員との対話を大切に

意図的な異物混入防止対策 一例



1. 製造現場への入室管理
静脈認証や暗証番号などで管理し、関係者以外は入室できないようになっています。



2. 薬品庫、屋外タンクの鍵管理
社員証がなければキーボックスを開錠できません。さらに、鍵は誰がいつ持ち出し、いつ返却したかも記録されます。



3. 安心カメラ
万が一の不測の事態の際に、当時の製造状況を確認し、安全・安心が証明できるようにしています。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
 - 品質への想い >
 - 原料の品質 >
 - 製造工程の品質 >
 - 容器包装の品質 >**
 - 食の安全性評価 >
 - お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

容器包装の品質

品質評価 マヨネーズの酸化防止

品質評価

食品の容器包装は、時には何カ月も内容物を守り、品質を保持するという大切な役割を果たしています。同時に、使いやすさも容器包装の重要な要素です。

内容物の配合や特性に加え、輸送や店頭での陳列、ご家庭での使用場面などを想定して容器の設計を行います。設計通りに作られているか、実際の使い勝手に問題ないかなど、さまざまな方法で容器の品質を確認しています。

また、機能性評価や安全性評価は容器包装メーカーと連携しながら、課題解決と品質の維持向上に努めています。

おいしさを守る



容器の肉厚を精密に測り、品質を守るために必要な厚みがあるか、部位ごとの厚みのばらつきは問題ないかなどを評価します。



赤い浸透液を使って微細なシール不良がないかなど、「容器の密封性が保たれているか」を評価します。

商品の中身を守る



上から圧力を加え、どの程度の荷重に耐えられるかなどを評価します。

流通での荷扱いや店頭での陳列を想定した高さから商品を落下させ、変形や破損がないかなどを評価します。

安全に快適にお使いいただく



マヨネーズのアルミシールの開封しやすさを評価します。



ドレッシングのプルリングを引っ張り、同様に、開封しやすさを評価します。

マヨネーズの酸化防止

酸素はマヨネーズの植物油を酸化させ、風味を劣化させてしまいます。キューピー マヨネーズでは酸化を防ぐために、容器包装にもさまざまな工夫をしています。



口部はアルミシールで酸素を遮断しています(1988年から)。



ポリエチレン層の間に酸素を通しにくい層を挟み込み、酸素を遮断しています(1972年から)。さらにキューピーハーフでは酸素吸収層も挟み込んでいます(2005年から)。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >**
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

食の安全性評価

- 食の安全評価への取り組み 
- 放射線物質検査 
- 理化学的評価 
- 微生物学的評価 

食の安全評価への取り組み

キューピーグループには、科学的データに基づいて食の安全を支える「食品安全科学センター」という部門があります。

お客様に安全・安心な商品をお届けするために、各工場の品質保証部門と連携し、日々商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。また、食の安全に関する情報を集め、審議、評価を行って、リスク低減にも努めています。

理化学的評価

化学的有害物質の分析

原料や商品の安全性を確認するために、残留農薬や動物用医薬などの定期検査を行っています。使用する機器は、ガスクロマトグラフ質量分析計や液体クロマトグラフ質量分析計などの最新の分析機器です。



1.成分の抽出・調製



2.分析機器による測定



3.分析結果の解析

食物アレルギー検査

ベビーフードなどの商品は、国で定められた方法で定期検査を行い、商品に表示していない特定原材料(アレルゲン)が混入していないことを確認しています。



1.サンプルの分注



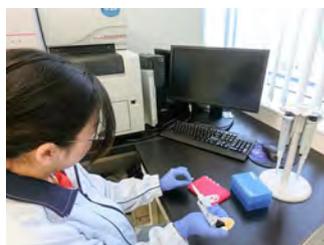
2.サンプルの測定

微生物学的評価

マヨネーズは保存料などは使わず、食塩と酢の力で日持ちさせています。また、加熱殺菌して日持ちさせている商品もあります。原料にはどのような微生物がいるかを評価し、どのような配合にすれば安全か、どのくらいの温度と時間で加熱殺菌すれば良いか、などを調べます。常に最新の情報を確認しながら新規技術開発にも取り組み、より迅速な検査ができるようにしています。



1.一般的な微生物検査



2.遺伝子検査



3.それぞれに特有なたんぱく質検出による微生物同定*

※ 微生物の種類を特定すること。

放射性物質検査

私たちの商品には、原料の産地を確認するなどの徹底した管理体制のもと、安全性が確保された原料を使用しています。さらに、私たちは、ゲルマニウム半導体検出器やNaIスペクトロサーベイメータを用い、放射性物質を定期的に検査して問題ないことを確認しています。また、行政などの情報も随時確認することで、お客様に安全な商品をお届けしています。



1.サンプルの調製



2.ゲルマニウム半導体検出器にセッティング



3.データ解析

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

お客様に安心していただくために

消費者志向自主宣言  お客様相談室での対応  商品の表示への取り組み 

消費者志向自主宣言

キューピーでは、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様から最も信頼していただけるよう努めています。

[> 消費者志向自主宣言](#)

お客様相談室での対応

お客様からのご意見やご要望はとても貴重です。お客様相談室ではそうしたご意見に迅速に、的確に、そして誠意を持って対応することをめざし、一人ひとりのお客様にご満足いただけるよう心がけています。

さらに、ご意見の内容を把握して社内で共有し、商品やサービスの改善を推進していくこともお客様相談室の役割です。

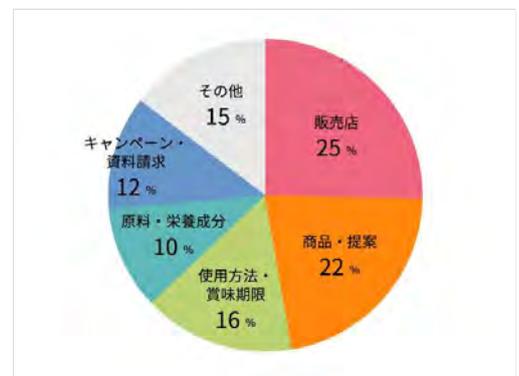
お客様相談室におけるお問合せ・ご指摘数の推移

お問い合わせ・ご指摘数の推移



※2017年度の深煎りごまドレッシング、2019年度のアレンジプラス、2020年度の pastaソースカルボナーラ 自主回収実施件数は除く

2021年度 お問い合わせ内容



お客様からは、商品の見直しなどの参考になるご指摘、ご要望を日々いただいています。そうしたお申し出を社内で共有し、商品やサービスの改善に繋げています。



1 お客様の声のデータベース化

お客様からいただいたお申し出を、その内容により、「お問い合わせ」と「ご指摘」に区分けし、データベース化します。



2 全件の聴き取り・分析

ご意見を全件聴き取り、その内容を分析し、関連部門に情報を共有します。改善の必要な内容を議案として提出します。



3 お客様の声委員会で審議

定期的開催される「お客様の声委員会」は、品質保証本部長を委員長として、お客様相談室をはじめ、さまざまな部門の責任者が参加して開催される会議です。ここで改善に必要な案件を審議決裁します。



4 開発部門で検討

改善を行う商品について、さまざまな角度から方向性や設計などを研究開発部門・商品開発部門で検討します。



5 研究部門で試作

専門家や容器メーカー様などの協力のもと、試作・テストを繰り返し、商品づくりを進めます。進捗は都度「お客様の声委員会」に報告し、お客様のご意見と照らし合わせながら内容を確認します。



6 商品化

商品の使いやすさや表示のわかりやすさなど厳しいチェックを経て、お客様の声を活かした新しい商品が完成します。

商品の表示への取り組み

食品の表示は、お客様が商品を選択し、安心してお使いいただく上で、なくてはならない情報です。その中には、法令で義務付けられている義務表示と、任意表示の2種類があります。

義務表示

義務表示については、法令に則った間違いのない表示にするため、食品法令に関する専門部署を設けています。

任意表示

お客様によりわかりやすい情報を提供するために、私たちが独自に表示しています。

表示の見方

商品ごとの各表示の掲載項目についてご紹介します。



➤ マヨネーズの表示の見方



➤ ベビーフードの表示の見方



➤ ドレッシングの表示の見方

お客様の声に関する情報



お客様相談室 ☐

お客様相談室では、過去のお問い合わせをQ&Aとしてまとめたり、問い合わせ状況の掲載を行っています。



お客様の声から生まれた商品 ☐

キューピー エッグケアは卵アレルギーに関するお問い合わせがもととなって開発されました。

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
 - 品質への想い >
 - 原料の品質 >
 - 製造工程の品質 >
 - 容器包装の品質 >
 - 食の安全性評価 >
 - お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

マヨネーズの表示の見方

マヨネーズの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

実際の商品	裏面表示										
	<div style="display: flex; flex-direction: row;"> <div style="flex: 1;"> <p>栄養成分表示</p> <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>エネルギー</td><td>100kcal</td></tr> <tr><td>たんぱく質</td><td>0.4g</td></tr> <tr><td>脂 質</td><td>11.2g</td></tr> <tr><td>炭水化物</td><td>0.1g</td></tr> <tr><td>食塩相当量</td><td>0.3g</td></tr> </table> </div> <div style="flex: 1;"> <p>賞味期限 (開栓前)</p> <p>2023.3.1</p> </div> <div style="flex: 1;"> <p>ご使用中の 注意事項</p> <p>開栓後冷蔵(1℃~10℃) 開栓後は1か月を目安に召し あがってください。 0℃以下になりすぎると分離する ことがありますので、消費の目安は この通りです。</p> </div> <div style="flex: 1;"> <p>ご使用になる 前に</p> <p>ご使用になる前に ▲アルミシールは完全にはがし てください。 ▲キetchup確認時、中身ははねる ことがありますのでご注意ください。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>リサイクル表示</p> <p>♻️</p> <p>JASマーク</p> <p>公正マーク</p> <p>ヘルマーク</p> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>一括表示</p> <p>アレルギー アイコン</p> <p>お客様相談室の フリーダイヤル</p> </div>	エネルギー	100kcal	たんぱく質	0.4g	脂 質	11.2g	炭水化物	0.1g	食塩相当量	0.3g
エネルギー	100kcal										
たんぱく質	0.4g										
脂 質	11.2g										
炭水化物	0.1g										
食塩相当量	0.3g										

ベビーフードの表示の見方 >

ドレッシングの表示の見方 >

サステナビリティ

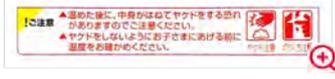
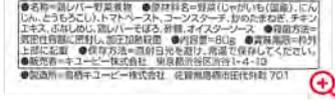
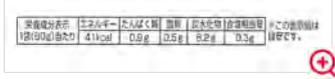
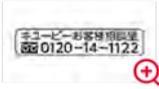
- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心
- 品質への想い >
- 原料の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様に安心していただくために >
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

ベビーフードの表示の見方

ベビーフードの表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

実際の商品	表面表示
	<p>アレルギーアイコン</p>   <p>対象月齢</p>
	<p>裏面表示</p>  <p>賞味期限</p>
	<p>召しあがり方</p> 
	<p>ご使用中の注意事項 (特に気を付けていただきたいこと)</p> 
	<p>一括表示</p> 
	<p>栄養成分表示</p> 
	<p>ご使用中の注意事項</p>  <p>リサイクル表示</p>
	<p>レトルトパウチ食品</p>  <p>お客様相談室のフリーダイヤル</p>
	<p>乳児用規格適用食品</p>  <p>WFP</p>

マヨネーズの表示の見方 >

ドレッシングの表示の見方 >

サステナビリティ

- [サステナビリティトップ](#) >
- [トップメッセージ](#) >
- [サステナビリティマネジメント](#) +
- [食と健康への貢献](#) +
- [地球環境への貢献](#) +
- [持続可能な調達](#) +
- [人権の尊重](#) +
- [ガバナンス](#) +
- [安全・安心](#)
 - [品質への想い](#) >
 - [原料の品質](#) >
 - [製造工程の品質](#) >
 - [容器包装の品質](#) >
 - [食の安全性評価](#) >
 - [お客様に安心していただくために](#) >
- [開示方針](#) >
- [各種報告書](#) >
- [GRIスタンダード対照表](#) >
- [ESGデータ集](#) >
- [各種方針](#) >
- [社会・環境活動の歴史](#) >
- [キューピーグループオフィシャルブログ](#) >
- [グループ各社のサステナビリティ活動](#) >

ドレッシングの表示の見方

ドレッシングの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

実際の商品	裏面表示
	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-start;"> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>中栓の開け方</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>ドレッシングの振り方</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>中栓の分別方法</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>賞味期限</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>ご使用中の注意事項</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>リサイクル表示</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>一括表示</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>栄養成分表示</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>その他 お伝えしたいこと</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>アレルギー アイコン</p>  </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <p>お客様相談室のフリーダイヤル</p>  </div> </div>

マヨネーズの表示の見方 >

ベビーフードの表示の見方 >

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

開示方針

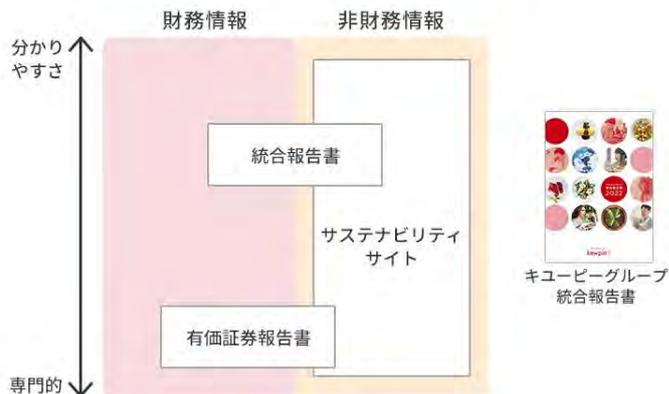
基本的な考え方 **+** 開示情報 **+** お問い合わせ **+** 報告書の変遷 **+**

基本的な考え方

キューピーグループでは、サステナビリティの考え方と取り組みをウェブサイトに網羅的に報告して、ステークホルダーの皆様にお伝えしています。この報告は、GRIサステナビリティ・レポート・スタンダードを参照して構成しています。

その他、株主・投資家を含むすべてのステークホルダーの皆様に向けて財務・非財務情報を統合し企業価値創造のための中長期戦略と各施策をご報告する「キューピーグループ統合報告書」を作成しています。

サステナビリティ情報のコミュニケーションツール



開示情報

対象組織：キューピー株式会社および連結子会社・持分法適用会社合計84社

対象期間：2021年度（2020年12月1日から2021年11月30日）

※一部の情報には対象期間以外の活動を含みます。

報告サイクル：年次報告として毎年更新

公開：2022年5月

参照ガイドライン：

GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン スタンダード

環境省 環境報告ガイドライン2018年度版

国連グローバル・コンパクト

ISO26000

SASB スタンダード

お問い合わせ

当社のサステナビリティ情報に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

キューピー株式会社 経営推進本部 サステナビリティ推進部 環境チーム

東京都渋谷区渋谷1-4-13 Tel:03-3486-3058

報告書の変遷

2022年度～	サステナビリティサイト、統合報告書
2020年度～	サステナビリティサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2019年度	CSRサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2006年度～	社会・環境報告書、ウェブサイト
2005年度	環境・社会報告書
2001年度～	環境報告書

サステナビリティ

- [サステナビリティトップ](#) >
- [トップメッセージ](#) >
- [サステナビリティ
マネジメント](#) +
- [食と健康への貢献](#) +
- [地球環境への貢献](#) +
- [持続可能な調達](#) +
- [人権の尊重](#) +
- [ガバナンス](#) +
- [安全・安心](#) +
- [開示方針](#) >
- [各種報告書](#) >
- [GRIスタンダード対照表](#) >
- [ESGデータ集](#) >
- [各種方針](#) >
- [社会・環境活動の歴史](#) >
- [キューピーグループ
オフィシャルブログ](#) >
- [グループ各社の
サステナビリティ活動](#) >

各種報告書

[報告書ダウンロード](#)

[報告書バックナンバー](#)

キューピーグループ統合報告書 2022

株主・投資家をはじめとした全てのステークホルダーの皆様に対して、当社グループの中長期的な価値創造について、より一層の理解を深めていただくことを目的に、ビジネスの全体像、企業価値創造に向けた戦略や計画、具体的な取り組み内容等を総合的にご報告します。

[統合報告書](#) >



サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

各種報告書

報告書ダウンロード

報告書バックナンバー

2019年度以降の本サイトPDFは以下よりご覧いただけます。

キューピーサステナビリティサイトPDF		
2021年		キューピーサステナビリティサイト2021 (17.9MB)
2020年		キューピーサステナビリティサイト2020 (24.9MB)
2019年		キューピーサステナビリティサイト(旧CSRサイト)2019 (7.98MB)

2021年度以前のコミュニケーションブックは以下よりご覧いただけます。

コミュニケーションブック		
2021年		コミュニケーションブック2021 (5.28MB)
2020年		コミュニケーションブック2020 (4.2MB)
2019年		コミュニケーションブック2019 (6.9MB)

2018年度以前の社会・環境報告書は以下の一覧よりご覧いただけます。

社会・環境報告書				
2018年		ダイジェスト版 (3.80MB)		フルレポート (7.12MB)
2017年				フルレポート (7.61MB)
2016年		ダイジェスト版 (4.84MB)		フルレポート (7.31MB)
2015年		ハイライト (2.52MB)		フルレポート (3.73MB)
2014年		ハイライト (4.25MB)		フルレポート (2.88MB)
2013年		ハイライト (7.60MB)		フルレポート (4.14MB)
2012年		ハイライト (1.06MB)		フルレポート (4.75MB)
2011年		ハイライト (3.31MB)		フルレポート (4.20MB)

2010年	 ハイライト (5.82MB)	 フルレポート (8.44MB)
2009年	 ハイライト (7.87MB)	 フルレポート (5.71MB)
2008年	 ハイライト (6.73MB)	 フルレポート (6.14MB)
2007年	 ハイライト (3.83MB)	 フルレポート (3.88MB)
2006年	 冊子版 (5.15MB)	 ウェブ版 (3.31MB)
2005年	 冊子版 (2.30MB)	
2004年	 冊子版 (1.19MB)	
2003年	 冊子版 (1.19MB)	
2002年	 冊子版 (1.19MB)	
2001年	 冊子版 (1.19MB)	

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループオフィシャルブログ >
- グループ各社のサステナビリティ活動 >

GRIスタンダード対照表

当ウェブサイトは、GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・スタンダード」を参照して制作しています。

番号	タイトル	記載ページ	ISO26000 (中核主題)	
共通スタンダード				
102:一般開示事項				
組織のプロフィール				
102-1	組織の名称	> 会社概要	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則及び権利 労働慣行の概要、原則及び考慮点 雇用及び雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出及び技能開発
102-2	活動、ブランド、製品、サービス	> グループの事業		同上
102-3	本社の所在地	> 会社概要		同上
102-4	事業所の所在地	> 事業所 > グループ会社		同上
102-5	所有形態および法人格	> グループの事業		同上
102-6	参入市場	 有価証券報告書 > 主要な設備の状況 > 会社概要 > ステークホルダーとの対話		同上
102-7	組織の規模	> 会社概要		同上
102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	> 多様な人材の活躍		同上

102-9	サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > 原料の品質 > 持続可能な調達への推進 > 持続可能な調達のための基本方針 		同上
102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	当該期間については該当なし		同上
102-11	予防原則または予防的アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> > 事業等のリスク  有価証券報告書 > コーポレート・ガバナンスの状況等  統合報告書 > コーポレート・ガバナンスの推進 		同上
102-12	外部イニシアティブ	> 社外からの評価		同上
102-13	団体の会員資格	<ul style="list-style-type: none"> > 一般財団法人 食品安全マネジメント協会  > 公益財団法人 キューピーみらいたまご財団  		同上
戦略				
102-14	上級意思決定者の声明	<ul style="list-style-type: none">  統合報告書 > トップメッセージ > トップメッセージ 	4.7 6.2	国際行動規範の尊重 組織統治
102-15	重要なインパクト、リスク、機会	<ul style="list-style-type: none"> > 事業等のリスク > 重点課題と推進体制 > リスクマネジメント  統合報告書 > リスクマネジメント 		同上
倫理と誠実性				
102-16	価値観、理念、行動基準・規範	<ul style="list-style-type: none"> > 理念 > キューピーの約束 > 重点課題と推進体制 > 各種方針 	4.4 6.6.3	倫理的な行動 汚職防止
102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス  統合報告書 > コーポレート・ガバナンスの推進 		同上
ガバナンス				
102-18	ガバナンス構造	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス > 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 人権尊重への取り組み 	6.2	組織統治

102-19	権限移譲	<p>PDF 有価証券報告書 > 企業統治の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 人権尊重への取り組み 		同上
102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	<p>PDF 有価証券報告書 > 企業統治の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > 役員一覧 		同上
102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > ステークホルダーとの対話 <p>PDF 統合報告書 > 経営アドバイザリーボード</p>		同上
102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-23	最高ガバナンス機関の議長	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-25	利益相反	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	<ul style="list-style-type: none"> > サステナビリティマネジメント 		同上
102-27	最高ガバナンス機関の集会的知見	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> > サステナビリティマネジメント > ステークホルダーとの対話 <p>PDF 統合報告書 > 経営アドバイザリーボード</p>		同上
102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	<ul style="list-style-type: none"> > コーポレート・ガバナンス 		同上
102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	<ul style="list-style-type: none"> > サステナビリティマネジメント <p>PDF 統合報告書 > 価値創造プロセス</p> <p>PDF 統合報告書 > 価値創造ストーリー</p>		同上
102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 		同上

102-33	重大な懸念事項の伝達	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-35	報酬方針	> コーポレート・ガバナンス PDF 統合報告書 > 役員報酬の考え方、算定方法		同上
102-36	報酬の決定プロセス	> コーポレート・ガバナンス PDF 統合報告書 > 役員報酬の考え方、算定方法		同上
102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	PDF 第109回定時株主総会招集ご通知 > 取締役および監査役の報酬等の額 PDF 統合報告書 > 役員報酬の考え方、算定方法		同上
102-38	年間報酬総額の比率			同上
102-39	年間報酬総額比率の増加率			同上
ステークホルダー・エンゲージメント				
102-40	ステークホルダー・グループのリスト	> ステークホルダーとの対話 > キューピーみらいたまご財団 > 事業内容 PDF	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント
102-41	団体交渉協定	> 多様な人材の活躍	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則及び権利 労働慣行の概要、原則及び考慮点 雇用及び雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出及び技能開発
102-42	ステークホルダーの特定および選定	> ステークホルダーとの対話	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホ

		> キューピーみらいた まご財団 > 助成募集  について		ルダーエンゲ ージメント
102- 43	ステークホルダー・エン ゲージメントへのアプロ ーチ方法	> ステークホルダーとの 対話 > キューピーみらいた まご財団 > 助成募集  について > 消費者志向自主宣言	5.3 4.6 6.7.6	ステークホル ダーの特定及 びステークホ ルダーエンゲ ージメント 法の支配の尊 重 課題4:消費者に 対するサービ ス、支援、並び に苦情および 紛争の解決
102- 44	提起された重要な項目お よび懸念	> ステークホルダーとの 対話	5.3	ステークホル ダーの特定及 びステークホ ルダーエンゲ ージメント
報告実務				
102- 45	連結財務諸表の対象にな っている事業体	 有価証券報告書 > 関 係会社の状況	5.2	社会的責任の 認識
102- 46	報告書の内容および項目 の該当範囲の確定	> 重点課題と推進体制		同上
102- 47	マテリアルな項目のリス ト	> 重点課題と推進体制		同上
102- 48	情報の再記述	当該期間については該当 なし		同上
102- 49	報告における変更	当該期間については該当 なし		同上
102- 50	報告期間	> 開示方針		
102- 51	前回発行した報告書の日 付	2022年5月30日		
102- 52	報告サイクル	年1回発行		
102- 53	報告書に関する質問の窓 口	> 開示方針		
102- 54	GRIスタンダードに準拠 した報告であることの主 張	> 当ウェブサイトはGRI スタンダードを参照し て制作しています。		
102- 55	内容索引	> GRIスタンダード対照 表		

102-56	外部保証			
103:マネジメント手法				
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > 事業等のリスク 	5.2	社会的責任の認識
103-2	マネジメント手法とその要素	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > 食と健康への貢献 > 地球環境への貢献 > 人権の尊重 		
103-3	マネジメント手法の評価方法	<p> 統合報告書 > 価値創造プロセス</p> <p> 統合報告書 > 価値創造ストーリー</p>		
項目別のスタンダード				
経済				
201:経済パフォーマンス				
201-1	創出、分配した直接的経済価値	 有価証券報告書 > 企業情報	6.8.1 -6.8.2 6.8.3 6.8.7 6.8.9	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点 課題1:コミュニティへの参画 課題5:富及び所得の創出 課題7:社会的投資
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	<ul style="list-style-type: none"> > 事業等のリスク > リスクマネジメント > 気候変動への対応 <p> 2021年度TCFD報告書</p>	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	 有価証券報告書 > 退職給付関係	6.8.7	課題5:富及び所得の創出
201-4	政府から受けた資金援助			
202:地域経済での存在感				
202-1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	当該期間については該当なし	6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4 6.8.1 -6.8.2	課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係 課題2:労働条件及び社会的保

				護 コミュニティ への参画及び コミュニティ の発展、原則及 び考慮点
202- 2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	> 多様な人材の活躍	6.4.3 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7	課題1:雇用及び 雇用関係 コミュニティ への参画及び コミュニティ の発展、原則及 び考慮点 課題3:雇用創出 及び技能開発 課題5:富及び所 得の創出

203:間接的な経済的インパクト

203- 1	インフラ投資および支援サービス	> 食と健康への貢献 > キューピーみらいたまご財団 > 事業内容 	6.5.9 6.8.1 -6.8.2 6.8.7 6.8.9	課題7:経済的、 社会的及び文 化的権利 コミュニティ への参画及び コミュニティ の発展、原則及 び考慮点 課題5:富及び所 得の創出 課題7:社会的投 資
203- 2	著しい間接的な経済的インパクト	当該期間については該当なし	6.3.9 6.6.6 6.6.7 6.7.8 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7 6.8.9	課題7:経済的、 社会的及び文 化的権利 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進 課題5:財産権の 尊重 課題6:必要不可 欠なサービス へのアクセス コミュニティ への参画及び コミュニティ の発展、原則及 び考慮点 課題3:雇用創出 及び技能開発 課題5:富及び所 得の創出 課題7:社会的投 資

204:調達慣行

204-1	地元サプライヤーへの支出の割合		6.4.3 6.6.6 6.8.1 -6.8.2 6.8.7	課題1:雇用及び雇用関係 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点 課題5:富及び所得の創出
205:腐敗防止				
205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	 第109回定時株主総会招集ご通知 > 内部統制システムの運用状況	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	> 倫理規範 > 反贈賄基本方針制定について	6.6.1 -6.6.2 6.6.3 6.6.6	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止
206:反競争的行為				
206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.5 6.6.7	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題3:公正な競争 課題5:財産権の尊重
環境				
301:原材料				
301-1	使用原材料の重量または体積	> 環境マネジメント	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301-2	使用したリサイクル材料	> プラスチックの削減・再利用	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301-3	再生利用された製品と梱包材	> プラスチックの削減・再利用	6.5.3 6.5.4 6.7.5	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用

				課題3:持続可能な消費
302:エネルギー				
302-1	組織内のエネルギー消費量	<ul style="list-style-type: none"> > 環境マネジメント > 気候変動への対応 	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302-2	組織外のエネルギー消費量	<ul style="list-style-type: none"> > 気候変動への対応 	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302-3	エネルギー原単位	<ul style="list-style-type: none"> > 気候変動への対応 	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302-4	エネルギー消費量の削減	<ul style="list-style-type: none"> > 気候変動への対応 	6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減		6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
303:水				
303-1	水源別の取水量	<ul style="list-style-type: none"> > 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
303-2	取水によって著しい影響を受ける水源	<ul style="list-style-type: none"> > 環境マネジメント > 水資源の持続的利用 	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
303-3	リサイクル・リユースした水	<ul style="list-style-type: none"> > 水資源の持続的利用 	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
304:生物多様性				
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	<ul style="list-style-type: none"> > 生物多様性の保全 	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	当該期間については該当なし	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
304-3	生息地の保護・復元	<ul style="list-style-type: none"> > 生物多様性の保全 	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリ	当該期間については該当なし	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復

ストならびに 国内保全種
リスト対象の生物種

305:大気への排出				
305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	> 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	> 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-3	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	> 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	> 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	> 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量		6.5.3 6.5.5	課題1:汚染の予防 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	> 環境マネジメント	6.5.3	課題1:汚染の予防
306:排水および廃棄物				
306-1	排水の水質および排出先	> 環境マネジメント	6.5.3 6.5.4	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用
306-2	種類別および処分方法別の廃棄物	> 食品ロスの削減・有効活用	6.5.3	課題1:汚染の予防
306-3	重大な漏出	当該期間については該当なし	6.5.3	課題1:汚染の予防
306-4	有害廃棄物の輸送	当該期間については該当なし	6.5.3	課題1:汚染の予防
306-5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用	6.5.3 6.5.4	課題1:汚染の予防

			6.5.6	課題2:持続可能な資源の利用 課題4:自然環境の保護及び回復
307:環境コンプライアンス				
307-1	環境法規制の違反	当該期間については該当なし <ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメント 	4.6	法の支配の尊重
308:サプライヤーの環境面のアセスメント				
308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な調達 持続可能な調達の推進 	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	<ul style="list-style-type: none"> 重点課題と推進体制 環境マネジメント 持続可能な調達の推進 食品ロスの削減・有効活用 プラスチックの削減・再利用 水資源の持続的利用 事業等のリスク 	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
社会				
401:雇用				
401-1	従業員の新規雇用と離職	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の活躍 ESGデータ集 	6.4.3	課題1:雇用及び雇用関係
401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の活躍 健康経営・労働安全衛生 	6.4.4 6.8.7	課題2:労働条件及び社会的保護 課題5:富及び所得の創出
401-3	育児休暇	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の活躍 ESGデータ集 	6.4.4	課題2:労働条件及び社会的保護
402:労使関係				
402-1	事業上の変更に関する最低通知期間		6.4.3 6.4.5	課題1:雇用及び雇用関係 課題3:社会対話
403:労働安全衛生				
403-1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加		6.4.6	課題4:労働における安全衛生

403-2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	> 健康経営・労働安全衛生	6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403-3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者		6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403-4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項		6.4.6	課題4:労働における安全衛生
404:研修と教育				
404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	> 多様な人材の活躍	6.4.7	課題5:職場における人材育成及び訓練
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	> 多様な人材の活躍	6.4.7 6.8.5	課題5:職場における人材育成及び訓練 課題3:雇用創出及び技能開発
404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	> 多様な人材の活躍	6.4.7	課題5:職場における人材育成及び訓練
405:ダイバーシティと機会均等				
405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	> 多様な人材の活躍 > 人権尊重への取り組み	6.2.3 6.3.7 6.3.10 6.4.3	意思決定のプロセス及び構造 課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係
405-2	基本給と報酬総額の男女比		6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4	課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係 課題2:労働条件及び社会的保護
406:非差別				
406-1	差別事例と実施した救済措置	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.6 6.3.7	人権の概要 原則及び考慮点 課題4:苦情解決

			6.3.10 6.4.3	課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係
407:結社の自由と団体交渉				
407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	> 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.8 6.3.10 6.4.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジエンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題6:市民的及び政治的権利 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題3:社会対話 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
408:児童労働				
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 倫理規範 > 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.7 6.3.10 6.6.6 6.8.4	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジエンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題2:教育及び文化
409:強制労働				
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 倫理規範 > 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3	人権の概要 原則及び考慮点

			6.3.4 6.3.5 6.3.10 6.6.6	課題1:デューデ イリジェンス 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避 課題8:労働にお ける基本的原 則及び権利 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進
410:保安慣行				
410- 1	人権方針や手順について 研修を受けた保安要員	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮 点 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進
411:先住民族の権利				
411- 1	先住民族の権利を侵害し た事例	当該期間については該当 なし	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.6 6.3.7 6.3.8 6.6.7 6.8.3	人権の概要 原則及び考慮 点 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題4:苦情解決 課題5:差別及び 社会的弱者 課題6:市民的及 び政治的権利 課題5:財産権の 尊重 課題1:コミュニ ティへの参画
412:人権アセスメント				
412- 1	人権レビューやインパク ト評価の対象とした事業 所	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5	人権の概要 原則及び考慮 点 課題1:デューデ イリジェンス 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避

412-2	人権方針や手順に関する従業員研修	<p>> 倫理規範</p> <p>> 人権尊重への取り組み</p>	6.3.1 6.3.2 6.3.5	人権の概要 原則及び考慮点 課題3:加担の回避
412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約		6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジエンス 課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
413:地域コミュニティ				
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	> 食と健康への貢献	6.3.9 6.5.1 -6.5.2 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 環境の概要、原則及び考慮点 課題1:汚染の予防 コミュニティ参画及び開発
413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所		6.3.9 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 課題1:汚染の予防 コミュニティ参画及び開発
414:サプライヤーの社会面のアセスメント				
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	<p>> 持続可能な調達の推進</p> <p>> 持続可能な調達のための基本方針</p>	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジエンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題1:雇用及び雇用関係 公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティ

				への参画及び コミュニティ の発展、原則及 び考慮点
414- 2	サプライチェーンにお けるマイナスの社会的イン パクトと実施した措置	<ul style="list-style-type: none"> > 重点課題と推進体制 > 持続可能な調達の推進 > 人権尊重への取り組み > 事業等のリスク 	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	人権の概要 原則及び考慮 点 課題1:デューデ ィリジェンス 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避 課題1:雇用及び 雇用関係 公正な事業慣 行の概要、原則 及び考慮点 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進 コミュニティ への参画及び コミュニティ の発展、原則及 び考慮点

415:公共政策

415- 1	政治献金		6.6.1 -6.6.2 6.6.4	公正な事業慣 行の概要、原則 及び考慮点 課題2:責任ある 政治的関与
-----------	------	--	--------------------------	---

416:顧客の安全衛生

416- 1	製品およびサービスのカ テゴリーに対する安全衛 生インパクトの評価	<ul style="list-style-type: none"> > 安全・安心 > 品質への想い 	6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	消費者課題の 概要、原則及び 考慮点 課題2:消費者の 安全衛生の保 護 課題3:持続可能 な消費 課題6:健康
416- 2	製品およびサービスの安 全衛生インパクトに関す る違反事例	当該期間については該当 なし <ul style="list-style-type: none"> > お客様に安心してた だくために > 消費者志向自主宣言 	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	法の支配の尊 重 消費者課題の 概要、原則及び 考慮点 課題2:消費者の 安全衛生の保 護 課題3:持続可能 な消費

417:マーケティングとラベリング				
417-1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	<ul style="list-style-type: none"> > 商品の表示への取り組み > ユニバーサルデザインへの取り組み > 消費者志向自主宣言 	6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	消費者課題の概要、原則及び考慮点 公正なマーケティング、事業に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題7:教育及び意識向上
417-2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	<p>当該期間については該当なし</p> <ul style="list-style-type: none"> > お客様に安心していただくために > 消費者志向自主宣言 	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題1:公正なマーケティング、事業に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題7:教育及び意識向上
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	<p>当該期間については該当なし</p> <ul style="list-style-type: none"> > お客様に安心していただくために > 消費者志向自主宣言 	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題1:公正なマーケティング、事業に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行

418:顧客プライバシー

418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	<p>当該期間については該当なし</p> <ul style="list-style-type: none"> > プライバシーポリシー > 個人情報のお取り扱いについて 	6.7.1 -6.7.2 6.7.7	消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題5:消費者データ保護及び
-------	-------------------------------------	---	--------------------------	------------------------------------

419:社会経済面のコンプライアンス				
419-1	社会経済分野の法規制違反	当該期間については該当なし > お客様に安心していただくために	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.6	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題4:消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
マネジメント +

食と健康への貢献 +

地球環境への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

グループ各社の
サステナビリティ活動 >

ESGデータ集

事業活動におけるESG(環境・社会・ガバナンス)データ集は以下よりご覧いただけます。

 [キューピーESGデータ集 2022\(635KB\)](#)

 がついている資料をご覧いただくには [Adobe Reader](#)  が必要です。

環境

環境関連投資								
	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	備考	
環境保全コスト（投資）	百万円	343	170	210	172	167	キュービー単体	
環境保全コスト（費用）	百万円	777	840	901	875	451	キュービー単体	
環境保全対策に伴う経済効果	百万円	613	636	795	1,215	611	キュービーグループ 国内生産工場	
環境マネジメント								
	単位	2021年度					備考	
第三者認証（ISO14001）	-	19事業所/71事業所					キュービーグループ 国内生産工場	
環境関連法規制違反件数	件	0	0	0	0	0	キュービーグループ 国内生産工場	
資源の有効活用								
	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	備考	
廃棄物排出量	総量	千トン	60.3	60.5	50.8	45.9*	41.6	キュービーグループ 国内生産工場 ※データの一部を修正
	原単位	kg/ 生産数量トン	70.5	70.6	62.8	59.4*	54.0	
廃棄物等総排出量	千トン	81.4	82.8	72.4	69.2*	66.4	キュービーグループ 国内生産工場 ※データの一部を修正	
廃棄物最終処分量（単純埋立）	千トン	4.1	4.2	2.4	2.0*	1.7	キュービーグループ 国内生産工場 ※データの一部を修正	
再資源化率	%	95.0	95.0	97.0	97.0	97.4*	キュービーグループ 国内生産工場 ※データの一部を修正	
持続可能な調達								
	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	備考	
持続可能なパーム油 の調達	認証クレジット※ の購入割合	%	-	-	37	60	95	RSPOブックアンドクレーム方式による
生物多様性								
生物多様性保護政策の有無	有：キュービーグループ環境基本方針							
所有、賃貸、管理している土地で、生物多様性の保護 地域内部、もしくは類後地域に隣接している場所の有無	有：富士吉田キュービーは、国立公園内に立地しており、自然の整備や水資源を涵養する緑地面積の確保などの自然保 全に向けた取り組みを実施（2021年6月まで）。							
水資源の持続的利用								
	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	備考	
水使用量	国内	千m ³	9,493	9,322	8,508	8,301*	8,117	キュービーグループ 生産工場 ※データの一部を修正
	原単位	m ³ / 生産数量トン	11.1	10.9	10.5	10.8*	10.5	
	海外	千m ³	679*	711*	624*	815*	451*	
排水量	国内	千m ³	7,226	7,246	6,708	6,358	6,119	
	海外	千m ³	417*	689*	488*	594*	260*	
商品やサービスにおける環境配慮								
	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	備考	
商品やサービスにおける取り組み	件	-	-	3	5	4	2019年度より集計開始 ニュースリリース発信件数	

「環境」に関するデータは、特に記載のない限りキュービー株式会社および連結子会社を対象とする。

環境

CO ₂ 排出削減			単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	備考
CO ₂ 排出量	国内	Scope 1	千トン-CO ₂	82.7	78.5	68.4	65.5*	64.5	キユーピーグループ 生産工場・オフィス ※データの一部を修正
		Scope 2	千トン-CO ₂	127.8	125.1	106.5	100.3*	97.5	
		Scope 1+2	千トン-CO ₂	210.5	203.6	174.9	165.8*	162.0	
		原単位	Kg-CO ₂ ／ 生産数量トン	241.4*	232.9*	211.5*	210.2*	205.2	
	海外	Scope 1	千トン-CO ₂	42.2	30.5	31.6	30.6	7月開示予定	キユーピーグループ 生産工場
		Scope 2	千トン-CO ₂	19.9	19.3	20.3	18.9	7月開示予定	
		Scope 1+2	千トン-CO ₂	62.0	49.8	51.9	49.5	7月開示予定	
		原単位	Kg-CO ₂ ／ 生産数量トン	392.9	287.9	284.6	265.1	7月開示予定	
	国内	Scope 3 合計	千トン-CO ₂	-	-	392.7	314.3	7月開示予定	キユーピー単体
		1. 購入した製品・サービス	千トン-CO ₂	-	-	234.4	215.4	7月開示予定	
		2. 資本財	千トン-CO ₂	-	-	28.1	20.3	7月開示予定	
		3. Scope1, 2に含まれない燃料 及びエネルギー関連活動	千トン-CO ₂	-	-	6.0	4.4	7月開示予定	
		4. 輸送、配送（上流）	千トン-CO ₂	-	-	40.8	37.8	7月開示予定	
		5. 事業活動から出る廃棄物	千トン-CO ₂	-	-	2.6	2.3	7月開示予定	
		6. 出張	千トン-CO ₂	-	-	0.3	0.3	7月開示予定	
		7. 雇用者の通勤	千トン-CO ₂	-	-	1.2	1.1	7月開示予定	
		8. リース資産（上流）	千トン-CO ₂	-	-	該当なし	該当なし	該当なし	
		9. 輸送、配送（下流）	千トン-CO ₂	-	-	4.0	4.2	7月開示予定	
		10. 販売した製品の加工	千トン-CO ₂	-	-	2.6	1.7	7月開示予定	
11. 販売した製品の使用		千トン-CO ₂	-	-	8.8	9.8	7月開示予定		
12. 販売した製品の廃棄		千トン-CO ₂	-	-	17.2	16.8	7月開示予定		
13. リース資産（下流）		千トン-CO ₂	-	-	該当なし	該当なし	該当なし		
14. フランチャイズ		千トン-CO ₂	-	-	該当なし	該当なし	該当なし		
15. 投資	千トン-CO ₂	-	-	該当なし	該当なし	該当なし			
電力購入量	国内	Mwh	249,829	251,998	228,618	226,292	221,861	キユーピーグループ 生産工場・オフィス	
	海外	Mwh	39,736*	38,712*	40,662*	40,342*	33,668*	キユーピーグループ 生産工場 ※データの一部を修正	
再生可能エネルギー量	国内	Mwh	366	313	330	469	452.0	キユーピーグループ 生産工場・オフィス	
	海外	Mwh	0	1,078	1,362	2,362	2,668	キユーピーグループ 生産工場	
NOx排出量	国内	トン	40.8	37.9	32.7	31.3	30.7	キユーピーグループ 生産工場	
SOx排出量	国内	トン	10.8	9.4	8.9	8.5	8.3	キユーピーグループ 生産工場	

「環境」に関するデータは、特に記載のない限りキユーピーグループおよび連結子会社を対象とする。

環境

Scope3の算定方法		
カテゴリ	算出方法	対象排出原単位等
1. 購入した製品・サービス	重量あたり原単位	原材料・資材購入重量
2. 資本財	投資金額あたり原単位	設備投資額
3. Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	CFP-DB、 SC-DB	エネルギー種別の使用量
4. 輸送、配送（上流）	トンキロ法/輸送時の排出原単位	荷主輸送/調達物ごとの輸送シナリオ活動量
5. 事業活動から出る廃棄物	重量あたり原単位	排出物重量
6. 出張	従業員数あたり原単位	従業員数
7. 雇用者の通勤	従業員数・勤務日数あたり原単位	従業員数・営業日数
8. リース資産（上流）	Scope1,2に算入済	Scope1,2に算入済
9. 輸送、配送（下流）	輸送時の排出原単位	出荷重量、製品輸送はシナリオ
10. 販売した製品の加工	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量
11. 販売した製品の使用	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量
12. 販売した製品の廃棄	重量あたり原単位	製品に使用した包材重量
13. リース資産（下流）	該当なし	該当なし
14. フランチャイズ	該当なし	該当なし
15. 投資	該当なし	該当なし

社会

人材		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	備考	
グループ従業員数		人	26,380	24,651	24,856	25,271	15,885	キユービーグループ ※2021年度より「物流」は持分法適用関連会社へ移行	
常時雇用者数	合計	人	14,924	14,808	15,452	16,003	10,719	キユービーグループ	
	男	人	9,282	9,249	9,549	9,838	5,348		
	女	人	5,642	5,559	5,903	6,165	5,371		
平均臨時雇用者数		人	11,456	9,843	9,404	9,268	5,166	キユービーグループ	
常時雇用者数	合計	人	2,523	2,508	2,447	2,426	2,394	キユービー単体	
	男	人	1,388	1,382	1,335	1,308	1,296		
	女	人	1,135	1,126	1,112	1,118	1,098		
平均臨時雇用者数	合計	人	853	774	738	569	537	キユービー単体	
	男	人	270	243	233	179	169		
	女	人	583	531	505	390	368		
従業員数		合計	人	3,376	3,282	3,185	2,995	2,931	キユービー単体社員
平均勤続年数	男女平均	年	14.2	14.7	15.1	15.3	16.0	キユービー単体社員	
	男	年	17.1	17.5	17.8	18.0	18.6		
	女	年	10.7	11.3	11.9	12.2	13.0		
平均年齢	男女平均	年	39.2	39.8	40.3	40.5	41.2	キユービー社員	
	男	歳	42.5	43	43.3	43.3	43.9		
	女	歳	35.2	35.9	36.6	37.1	38.0		
離職率（新卒者の3年未満の離職率）		%	9.1	7	7.3	20.4	10.2	キユービー単体新卒総合職のみ	
新入社員数	合計	人	49	49	50	53	24	キユービー新卒総合職のみ	
	男	人	30	28	24	35	13		
	女	人	19	21	26	18	11		
女性役員比率		%	11.8	12.5	13.3	18.8	21.4	キユービー単体 社外役員、社外監査役、監査役含む	
女性管理職比率		% (%)	7.4 (6.9)	8.2 (7.1)	9.2 (7.9)	10.2 (8.5)	10.9 (9.1)	キユービー単体 ()内は国内食品事業全体	
女性リーダー		人 (人)	46 (98)	52 (98)	59 (111)	65 (121)	72 (132)	上記比率の管理職人数 ()内は国内食品事業全体	
社員研修費用		百万円	175	210	211	189	172	キユービーグループ従業員含む 人材育成センターで行われた研修費等	
人権研修参加者		人	8,164	8,354	9,010	7,964	14,463	※研修の名目のためアンケート数は除く	
障がい者雇用率		%	3.30	3.54	3.60	3.67	3.76	国内キユービーグループ (物流システム事業除く) ※2021年12月1日現在	
定年再雇用希望者		人	2	0	25	25	27	キユービー籍社員 ※2016年定年延長（60歳⇒63歳） 2017年度の2名は60歳時点で定年退職 を選択しシニア社員を希望した社員	
定年再雇用率		% (%)	-	-	83 (100)	78 (100)	73 (100)	キユービー籍社員 ()内は希望者の再雇用率 ※2016年定年延長（60歳⇒63歳） 希望者以外の定年退職無し	

「社会」に関するデータは、特に記載のない限りキユービー株式会社を対象とする。

ガバナンス

取締役会の独立性			単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
取締役	社内取締役	男性	人	9	9	6	6	2022年2月25日現在
		女性		0	0	0	0	
		合計		9	9	6	6	
	独立社外取締役	男性		1	1	2	1	
		女性		1	1	1	2	
		合計		2	2	3	3	
	合計			11	11	9	9	
独立社外取締役比率			%	18.2	18.2	33.3	33.3	
開催回数			回	12	11	12	2023年2月 開示予定	
監査役会			単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
監査役	社内監査役	男性	人	2	2	2	2	2022年2月25日現在
		女性		0	0	0	0	
		合計		2	2	2	2	
	独立社外監査役	男性		1	1	1	1	
		女性		1	2	2	2	
		合計		2	3	3	3	
	合計			4	5	5	5	
開催回数			回	12	12	13	2023年2月 開示予定	

ガバナンス

指名・報酬委員会						
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
指名・報酬委員会	人	6	6	7	7	2022年2月25日現在
社内取締役		3	3	3	3	
社外取締役・監査役		2	2	4	4	
役員報酬						
		2021年度				備考
		支給人数 (人)	支給額 (百万円)	賞与 (百万円)	総支給額 (百万円)	
取締役	取締役（社外取締役を除く）	9	237	93	259	2022年2月25日現在
	社外取締役	2	25	-	34	
	合計	11	263	93	293	
監査役	監査役（社外監査役を除く）	2	42	-	42	
	社外監査役	3	28	-	30	
	合計	5	70	-	73	
合計		16	333	93	366	
株主権						
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
買収防衛策の有無	-	有	有	有	有	
株主・投資家・アナリスト向けの説明会の開催						
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
定時株主総会	回/年	1	1	1	1	
アナリスト向け決算説明会	回/年	2	2	2	2023年2月 開示予定	
コンプライアンス						
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
ヘルプライン（内部通報制度）への通報・相談件数	件	28	38	20	2023年2月 開示予定	
全従業員の意識調査アンケート回答率	%	-	89.3	-	実施予定	2年おきに実施
支払法人税額						
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	備考
連結会計総額	百万円	10,203	8,664	8,329	2023年2月 開示予定	

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティ
マネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

各種方針

方針(ポリシー) ● 宣言 ●

方針(ポリシー)

経営

- > キューピーグループ 経営の基本方針
- > キューピーグループ サステナビリティ基本方針

環境

- > キューピーグループ 環境基本方針
- > 容器包装選定の基本方針

調達

- > 持続可能な調達のための基本方針
-  キューピーグループ グリーン購入基本原則(156KB)

人権

-  キューピーグループ人権方針(361KB)

安全・安心

- > キューピーのユニバーサルデザイン原則

ガバナンス

- > キューピーグループ 反贈賄基本方針
- > プライバシーポリシー

宣言

- ＞ 消費者志向自主宣言
- ＞ キューピーグループ 健康宣言

サステナビリティ

社会・環境活動の歴史

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティ
 マネジメント +

食と健康への貢献 +

地球環境への貢献 +

持続可能な調達 +

人権の尊重 +

ガバナンス +

安全・安心 +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

各種方針 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
 オフィシャルブログ >

グループ各社の
 サステナビリティ活動 >

対象: キューピーおよびグループ各社
 本年表は、当時の活動内容を掲載しています

西暦	社会活動	環境活動
2022年 ※ 5月末時点	キューピーグループ サステナビリティ基本方針を策定	
	サステナビリティに向けた重点課題とサステナビリティ目標を見直し	
	キューピー株式会社が第6回食育活動表彰 教育関係者・事業者部門【企業の部】において、農林水産大臣賞を受賞	TCFDフレームワークに基づく情報を開示
		野菜廃棄物ゼロ化全7工場で完了 (サラダクラブ中河原工場・伊丹工場・鳥栖工場)
		サラダクラブ パッケージサラダトレー 約10%軽量化によるプラスチック使用量削減
		渋谷本社および仙川キューポート使用電力を実質再生可能エネルギー由来へ100%切り替え
		神戸工場にオンサイトPPAモデルの太陽光パネル設置
		サラダクラブ パッケージサラダフィルム規格変更(寸法の縮小化・薄肉化)によるプラスチック使用量削減
		サステナアワード2021 みどりの食料システム推進賞を受賞(卵の有効活用動画)
	2021年	サステナビリティに向けた重点課題とサステナビリティ目標を見直し
オンライン離乳食教室をキューピー鳥栖工場で開催		キューピー広州工場オール電化設備を導入
共同研究講座「キューピー・東京家政大学 タマゴのおいしさ研究所」を開催		キューピー ベビーおやつ「たまごたっぷりぼうろ」パッケージのプラスチック使用量を約25%削減
「健康応援BOOK」を公開		野菜廃棄物ゼロ化4工場で完了 (サラダクラブ五霞工場)
アヲハタ株式会社4期連続で「子育てサ		キューピー テイステイドレッシング全

	ポート企業」に認定	品に再生プラスチックを含む容器を採用
	キューピー食育活動「マヨネーズ教室」 「食をテーマにした講演会」を対面とオンラインのハイブリッド化 開始	TCFD提言への賛同を表明 TCFDコンソーシアムへ参画
	キューピーグループ人権方針を策定	サラダクラブ サステナビリティページを開設
	未来を創る子どもたちの生きる力を育む、楽しく学んで試せるサイト「食生活アカデミー」を開設	
	子どもが野菜をおいしく、楽しく食べられるように応援するサイト「子どもと野菜をたのしもう」を開設	
	各世代で意識したい食生活のポイントとおすすめレシピを紹介するサイト「みんなの食と健康応援」を開設	
2020年	組織再編により、経営推進本部にサステナビリティ推進部(旧CSR部)を設置	
	サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会(旧CSR委員会)を設置	
	CSRサイトをサステナビリティサイトへ名称変更	
	健康経営優良法人2020(ホワイト500)3年連続認定	旬菜デリ 昭島事業所で太陽光発電設備導入
	AIを活用した原料検査装置でキューピー株式会社が第2回日本オープンイノベーション大賞農林水産大臣賞を受賞	野菜廃棄物ゼロ化3工場で完了 (サラダクラブ三原工場・サラダクラブ真庭工場)
	東京農業大学内にキューピー「エッグイノベーション」寄付研究部門を開設	第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキューピー株式会社とキューピータマゴ株式会社が受賞 (卵殻と卵殻膜の価値探求と食と健康への貢献)
	キューピー株式会社が知的財産権制度活用優良企業として令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰を受賞	再生プラスチックを「キューピー ドレッシング スティックタイプ」の外装に採用
	「がん予防サービス」の展開を視野に東京家政大学とマイクロRNAの測定装置を共同研究開始	「サラダクラブ 素材パウチ」シリーズ12品に植物由来のプラスチックを採用 全品の賞味期間延長と年月表示
	令和2年度 革新的ロボット研究開発等基盤構築事業 ロボットフレンドリーな環境構築支援事業 (惣菜の盛り付け作業のロボット化をパートナー企業と共に、低価格で実現することを目指しての参画)に採択	環境賞「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加
	松本市・松本大学と共同研究の成果を	CLOMA (Japan Clean Ocean Material キューピー サステナビリティサイト2022

	表 健康的な食生活提案	Alliance) に加盟
	渋谷区と共同で食生活と健康の関連を調査開始	
	NEDOが公募する「人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業」の「説明できるAIの基盤技術開発」(研究開発項目(1):「人と共に進化するAIシステムの基盤技術開発」の一つ)に採択	
	キューピー株式会社が令和2年度イノベーション創出強化研究推進事業に採択 (低価格・高精度・高速な食品原料外観・内部AI検査装置の研究開発)	
	初のオンライン社会科見学をキューピー挙母工場・キューピー神戸工場で実施	
	マヨテラスでオンライン見学を開始	
2019年	「サステナビリティ目標」を設定	
	健康経営優良法人2019(ホワイト500)2年連続認定	野菜廃棄物ゼロ化完了 (サラダクラブ遠州工場)
	マヨネーズ教室(出前出張)累計参加人数10万人達成	「キューピードレッシング ステックタイプ」の外装に再生プラスチック使用
	創業100周年イベント「キューピー 笑顔を届ける音楽会」を全国各10カ所の幼稚園・保育園と介護施設で開催	キューピー、サンスター、日本パレットレンタルに3者によるトラックと船舶を組み合わせた3社共同輸送(関西・九州間)を開始
	山形県と包括連携協定を締結(地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進)	第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキューピー株式会社と株式会社グリーンメッセージが受賞 (野菜の未利用部を活用した資源循環の推進)
	AIを活用した食品の原料検査装置の取り組みにおいて、キューピー株式会社が「IT JapanAward 2019」準グランプリを受賞	令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 農林水産大臣賞をキューピー株式会社とキューピータマゴ株式会社が受賞 (卵殻の付加価値化と社会貢献への挑戦)
	ディープラーニングを活用した食品のAI原料検査装置の取り組みにおいてキューピー株式会社が、「ディープラーニングビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞を受賞	
2018年	「CSRの基本的な考え方」と「CSRの重点課題」を策定	
	健康経営優良法人2018(ホワイト500)	キューピーグループの持続可能な調達 キューピー サステナビリティサイト2022

	認定	のための基本方針の策定
	プラチナくるみん認定	キュービーで初めて「年月表示」を開始 (市販用介護食「やさしい献立」シリーズ レトルトパウチ)
	広島市と包括連携協定を締結(地産地消 や食育、健康増進の取り組みなどを推 進)	キュービードレッシングのガラス瓶容 器をプラスチックボトル化(原料調達、 容器製造、容器輸送までにおいて、温室 効果ガス(GHG)を約20%削減)
	「あいち みんなのサラダ」プロジェクト 実行委員会設立(愛知県民の野菜摂取量 増加を応援)	キュービータイランドで太陽光発電施 設導入
		キュービー、ライオン、日本パレットレ ンタルの異業種3社による共同幹線輸送 を開始
		平成30年度リデュース・リユース・リサ イクル推進功労者等表彰をキュービー 株式会社と株式会社グリーンメッセー ジが内閣総理大臣賞を受賞 (野菜の未利用部を活用した資源循環の 推進)
		平成30年度グリーン物流パートナーシ ップ優良事業者表彰 国土交通大臣表 彰を受賞
		RSPO [※] に加盟 (※ RSPO:持続可能なパーム油のための円卓 会)
2017年	株主総会にてCSRの展示を実施	
	CSR委員会を設置 環境委員会を食育・社会貢献を含むCSR全体を推進する組織に改 編	
	キュービー神戸工場オープンキッチン(工場見学)を開始	グリーンファクトリーセンターに太陽 光発電設備増設
	一般財団法人 キュービーみらいたまご 財団設立(2019年4月に公益財団法人に 移行)	キュービー富士吉田工場 平成28年度 関東地区電気使用合理化委員会委員長 表彰 「事業所 最優秀賞」を受賞 ※2021年譲渡
	第1回 地域の居場所づくりサミット開 催(一般財団法人 キュービーみらいた まご財団)	工場で発生する野菜残さで染めたエプ ロン(FOOD TEXTILE)をマヨネーズ教 室で採用
		野菜残さのサイレージ化を開始(グリー ンメッセージ)
2016年	渋谷区との「シブヤ・ソーシャル・アク ション・パートナー協定」を締結	キュービー マヨネーズ(一部容量)とキ ュービーハーフの賞味期間を延長(食品 ロス削減)
		「キュービーの森」第三期活動開始 キュービー サステナビリティサイト2022

		「エネルギー1/2」をコンセプトとしたキューピー神戸工場の操業開始
		遠州デリカ※、五霞工場に太陽光発電設備導入 ※ 現サラダクラブ遠州工場
2015年	社会・環境推進部をCSR部に改組	
		長距離輸送(500km以上)のモーダルシフトの推進開始
		パッケージサラダ(一部商品)消費期限延長
		グリーンファクトリーセンター、キューピー富士吉田工場(※2021年譲渡)に太陽光発電設備導入
2014年	仙川キューポート内に見学施設「マヨテラス」をオープン	エコプロダクツ2014年の環境省「Fun to Share」ブース内に卵殻活用事例を展示
		キューソー流通システム所沢物流センター、キューピー醸造滋賀工場に太陽光発電設備導入
		九都県市「容器包装ダイエット宣言」に参加。関東圏スーパー75店舗のキャンペーンで容器軽量化を行った商品を紹介
		ポテトビール(主にじゃがいもの皮と芽)の飼料化開始(養豚用)
2013年	お茶の水女子大学に寄附研究部門「食と健康」を設立	加藤産業様、キューソー流通システム、キューピー連携のグリーン物流の普及拡大により、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞を受賞
	ダンスコンクールの協賛開始	キューソー流通システム松戸営業所・伊丹第三営業所、ケイパックに太陽光発電設備導入
	「広島県とアラハタ株式会社との包括的連携に関する協定」を締結	「キューピーの森」第二期活動開始
2012年	社会・環境推進部と広報室を再編し、広報・CSR本部を設置	
	幼児向け絵本の製作・発行(年1冊ずつ2016年まで実施)	
	アラハタ ジャム工場内に見学施設「アラハタ ジャムデッキ」をオープン	
2011年	第32回食品産業優良企業等表彰 CSR部門で「農林水産大臣賞」を受賞	

	公益財団法人ベルマーク教育助成財団が行う東日本大震災被災地の教育援助活動に対し5年間の寄付を開始	
2010年	三國清三シェフを講師に迎えた「家族でわくわくクッキング」を開始	
2009年	社会・環境推進室と法務・知的財産室を再編し、CSR推進本部を設置、社会・環境推進室を社会・環境推進部に改組	
	キッサニア甲子園に「マヨネーズ工場」パビリオン出展	営業車にハイブリッドカー「プリウス」を導入
2008年	マッチングギフト制度「Q P e a c e」開始	段ボールの印刷に使用するインクを39色から標準色18色に集約
	「社会と環境について語るブログ」が環境goo大賞(ブログ部門)受賞	
2007年	フードバンク活動への支援開始	キューピー富士吉田工場でISO14001の認証取得 ※2021年譲渡
	「社会と環境について語るブログ」開始	水源涵養を目的として森林保全活動「キューピーの森」を山梨県富士吉田市で開始
2006年	渋谷音楽祭への協賛開始	「チーム・マイナス6%」に参加
		八都府県市「容器包装ダイエット宣言」に参加
	「社会・環境報告書」の発行を開始(社会性の記述を増やし、冊子版とウェブ版を発行)	
2005年	CSR担当役員任命、環境対策室を社会・環境推進室に改組	中河原工場でISO14001の認証取得
	「環境・社会報告書」の発行を開始(「環境報告書」に社会活動に関する内容を付加)	
2004年	キューピーニュースが第4回消費者教育教材資料表彰(主催:財団法人消費者教育支援センター)の優秀賞を受賞	鳥栖工場でISO14001の認証取得
2003年		キューピー全工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2002年	マヨネーズ教室を開始	キューピー全工場の廃棄物焼却炉を廃止
	東京水産大学(現 東京海洋大学)大学院に「ヘルスフード科学(中島董一郎記念)寄附講座」を設立	五霞工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2001年		「環境報告書」の発行開始
		五霞工場でISO14001の認証取得
	グループ環境マネジメントマニュアル	

		を制定
2000年		マヨネーズ容器、段ボール箱の減量化、仕切り板廃止などを実施
		伊丹工場でISO14001の認証取得
		NPO法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」への協賛および寄付を開始
1998年		容器包装の環境影響評価基準を制定
		グリーン購入の基本原則を制定、OA用紙ガイドラインを作成・運用開始
		環境保全のための基本方針を制定(部門ごとの目標を設定し活動)
1997年		環境担当役員、環境対策室を設置
		環境委員会(委員長:環境担当役員)を全社組織に改組
		卵殻膜を素材としたうまみ調味料を発売(商品名「卵醤」) ※現在は販売しておりません
1993年		安全・環境に関するグループ各社相互点検システムを確立
1992年		容器減量化を推進(ドレッシングびんを丸形・軽量びん化など)
1991年		環境問題検討委員会を設置(委員長:生産本部長)
		卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
1984年	「食」をテーマとする講演会活動を開始	
1981年		卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現、商品名「カルホープ」)
1980年	那覇ママさんコーラスまつり(現「全沖縄おかあさんコーラス大会」)の協賛開始	
1978年	日本合唱連盟・朝日新聞社主催の「全日本ママさんコーラス大会」(現「全日本おかあさんコーラス大会」)の協賛開始	
1975年	食生活に関するビデオの配布開始	
1973年	食と健康の知識の普及をはかる「キューピーニュース」発行	
1971年		活性汚泥による排水処理設備を導入(1971年)

		75年に全工場に整備)
1969年		卵殻の破碎・乾燥設備を導入(旧仙川工場)
1963年		廃棄物削減を合理化の一環として取り組み開始
1962年	「キューピー3分クッキング」放映開始	
1961年	オープンキッチン(工場見学)を開始	
1960年	財団法人ベルマーク教育助成財団への協賛開始	
1956年		卵殻を天日で干し、土壌改良材として農家に販売を開始

サステナビリティ

- サステナビリティトップ >
- トップメッセージ >
- サステナビリティマネジメント +
- 食と健康への貢献 +
- 地球環境への貢献 +
- 持続可能な調達 +
- 人権の尊重 +
- ガバナンス +
- 安全・安心 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- ESGデータ集 >
- 各種方針 >
- 社会・環境活動の歴史 >
- キューピーグループ
オフィシャルブログ >
- グループ各社の
サステナビリティ活動 >

グループ各社のサステナビリティ活動

株式会社サラダクラブ

キューピーと三菱商事が設立したパッケージサラダの製造・販売をしている会社です。

[株式会社サラダクラブ サステナビリティ](#) 

キューピータマゴ株式会社

液卵・乾燥卵などの加工食品の原料から、茹卵・たまごサラダ・厚焼たまご・オムレツなどの商品を製造・販売している会社です。

[キューピータマゴ株式会社 サステナビリティ](#) 

デリア食品株式会社

サラダ・惣菜、米飯、麺類、漬物、コミュニケーションフードの製造及び販売をしている会社です。

[デリア食品株式会社 安全・安心](#) 

キューピー醸造株式会社

醸造酢、穀物酢、果実酢の製造販売。漬物、惣菜向け調味酢、調味液の製造販売。食品添加物(品質保持用)などの製造販売をしている会社です。

[キューピー醸造株式会社 環境の取り組み](#) 